

育教の兒幼

號九・八第 號 月 九 卷四十三第



內校學範師等高子女京東
會協園稚幼本日

東京高等師範學校教授

文學博士 小野島右左雄先生著

好評三版

最近心理學概說

文讀の書心の學の完成
檢の最理漸く必要す

上卷

定價三圓五十錢
送料二十二錢

下卷

定價	三圓五十錢
送料	二十二錢

合輯

定價	五圓八十錢
送料	三十三錢

本書の最も特長とすべき點は全卷一貫せる思想を以て凡ゆる精神事實を巧に解明し全卷暗
示に滿ち本書上下二卷を味讀すれば一般心理學・兒童心理學・青少年心理學・發達心理學・個
性・人格心理學・會心理學・變態心理學・動物心理學・教育心理學等の凡ゆる心理學の一般的
知識を獲得すべきは勿論、學者は本書に依つて斯學の一體系を知るに止まらず科學の方
論・生活論・理學の成立と新しき哲學の暗示を受け、教師は生徒・兒童の心的體制と教育
の新方法を教へられ、一般人は人間の具象的・心的體制の最も即事的なる論理と應用を示さ
れ斯くてこそ心理學は科學の先陣に立ち此思想國難の打開に資す。振つて萬人の乞ひ讀。

性格心理學と兒童研究

菊判全一冊洋綴 定價二圓七十錢 送料廿二錢

心理學要論

菊判全一冊洋綴 定價二圓 送料廿二錢

現代の科學的心理學の一般理論を一つの簡單なる體系の中に織り成して叙説せる心理學の要諦である。舊來の陳腐なる心理學の形骸を脱して現代將來の人間の動向を正しく理論づけるべく、終始一貫せる主張の下に正確なる科學の所産を披瀝し猶ほ常に豊富なる暗示を與へてある。

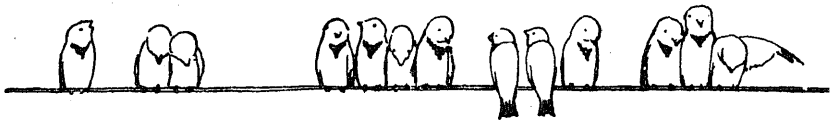
見重研究、性格心理學に主點を置き各種の新研究を發表し、猶ほ最近心理學の動向を検討して最も斬新なる斯學上の諸問題を提出し之等に對し教授獨自の立場を展開してその進展に寄與すされば一般心理學徒及び教育家篤學者の御必讀を乞ふ。

振替電話 東京三番 七二四八三
振替電話 東京三番 七二四八三

店書館文中

東 京 市 牛 込 区
辨 天 町 一 七 四

發行所



第 三 十 四 卷 幼 兒 教 育 第 八 九 號

— (次 目) —

口 繪	倉 橋 惣 三 (一)
卷 頭 (雜 草)	和 田 實 (二)
墮 落 し た る 自 然 主 義	齋 藤 善 太 郎 (七)
如 何 に し て 宗 教 に 導 い た ら よ い で あ ら う か (二)	大 塚 喜 一 (三)
フ レー ベ ル に 學 ぶ (承 前)	倉 橋 惣 三 (二)
こ の 夏	及 川 ふ み (二五)
夏 の 幼 稚 園	
夏 期 講 習 感 想	
講 習 の 後 に	須 子 啓 子 (六)
本 音 を 吐 く	留 岡 よ し 子 (三)
夏 期 講 習 會 を 終 へ て	渡 部 き よ (三)
研 究	
園 外 保 育 に つ い て	穂 積 篤 子 (六)
特 殊 幼 兒 の 保 育 と 其 誘 導 法	齋 藤 小 靜 (元)
感 じ た ま ゝ	佐 久 間 重 代 (四)
動 物 デ ラ フ ミ バ イ ソ ン の 對 話	濱 田 格 (四)
童 話	
保 育 項 目 の 實 際	倉 橋 惣 三 (五)
第 拾 二 回 大 分 縣 保 育 會 總 會	(一 哭)

東京音樂學校内 日本教育音樂協會編 (新刊)

本邦音樂教育史

菊版上製、箱入全一冊、定價三圓 送料十四錢

我國に於ける音樂教育の發達は紆餘曲折幾多の變遷を重ね、多くの先輩は克く今日の隆盛を建設した。本書は此の史實を正して辿り、發展の經路を確かに究め正しき音樂教育發達史を詳述す。書中世に現はれざる貴重なる資料挿畫を以つてし興味又暇々たり。

東京音樂學校講師 草川宜雄先生著 (新刊)

最新音樂教育學

菊版上製、箱入全一冊、定價三圓五十錢、送料十四錢

本書は先生畢生の大著述にして、音樂教育學の權威、書中先人未踏の教授論、方法論は教育音樂關係諸氏の指針たるべく、又蘊奥を究めしむるであらう。斯界の實際家、文檢志願者の好伴侶燈明臺と信する。

新尋常小學唱歌文部省檢定濟 全六冊 定價各冊 拾二錢

新高等小學唱歌文部省檢定濟 全二冊 定價各冊 拾五錢

新尋常小學唱歌伴奏及解說 全六冊 定價各六拾錢 送料六錢

エホンシヤウカ春夏秋冬ノ巻 定價各卅五錢 全四冊 送料各二錢

小學唱歌教授指針 全一冊 定價金六拾錢 送料六錢

子供の舞踊 卷一・二 低學年用 定價各金六〇錢 卷三・四 高學年用 定價各金六一錢 送料

武藏野音樂學校長 福井直秋著 兒童唱歌七十一曲集 定價 金壹圓廿錢 送料 八錢

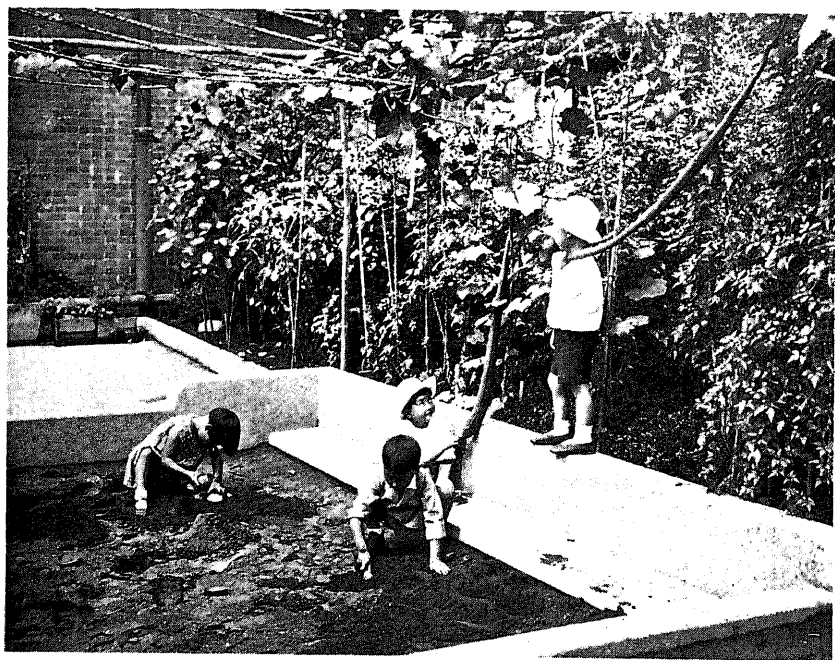
小學の教材の撰擇に就て 定價 金四拾五錢 送料 四錢

林松木著

教授法附 初等合唱曲 全一冊 定價金八〇錢 送料金八錢

東京市神田區 三崎町一ノ二 音樂教育書出版協會

振替東京六四七七〇番 電話神田(25)八三三番



瓜 糸 長

(園 稚 幼 屬 附)

幼 児 の 教 育

昭和九年九月

雜 草

夏休みが済んで集つて来る子さも達のために、せめてもの用意は庭の雜草だ。キレイに刈りしろうとする庭師の言を斤けて、茂るがまゝに茂らせて置いた此の雜草だ。

刈るのは何んでもない。それをわざと刈らずに置いた心づかひが、折角く久し振りで會ふ君達への御馳走の積りを。

さあ／＼遠慮なく蹈んで馳け廻り給へ。實がなつてたら摘み給へ。葦もちぎつておもちゃにし給へ。御馳走々々さいふが、もてなしで、大きなおちさんから貰つたんだからね。君達も勝手にしていふだよ。君達が喜んで呉れさへすれば、雜草だつて本望だし、それを下さつた大きなおちさんも御満足いふ譯さ。

たゞ、先生が拵へたものでないから、少々粗いよ。堅くつて君達の自由にならないかも知れないよ。觸はるゝ痛い刺くらあるかも知れないよ、葉だつて、花だつて、花壇の、ように美しくもないしね。だけれども、いふだろう。好きだろう。嬉しいだろう。——隅々を掃除して、これだけ残すには却つて骨が折れたんだからね、皆に大に喜んで貰はなくちあ。

なあに、バツタがるたつて。ハ、、、。それも雜草のおかげだよ。いゝお景物だね。さし／＼追つかけてつかまへ給へ。

墮落したる自然主義

目白幼稚園 和田 實

自然主義の取込まれたるこゝ、幼児教育に於けるより甚だしきは、外にはあるまいと思はれる位に徹底した遵奉振りである。何處の幼稚園でも、「幼児の自然生活」云ふことは、保育上の凡ゆる事項を決定する最後の鐵則となつて居る。従つて「童心を虐げるな」「より能く活かせよ」等の標語は到る處で、提唱されて居る。誠に結構なこゝである。併し弊害は何物にもあるもので、此自然主義も、眞に能く理解されて居る所ばかりは云へぬ様である。先日、都下の某園長は話して居た。曰く。此主義に因つて養成せられた一保姆が、幼児同志の喧嘩を捌く様子を見て居るゝ、つかみ合ひ、引掻き合ひの結果、一方が泣き出す迄は黙つて見て居る。そして、一方が泣き出すに及んで、始めて其泣き出したる方の幼児をだましつかしては居たが、腕力的に勝つた方の子供には何等の處置も採らなかつた。此勝つた子供は、大勢の中に幅をきかせて、衆兒を部下の兵卒の様に指揮命令し、積木でも、繪本でも、恩物でも、己れの欲しいものは他人の玩んで居るものでも、遠慮なく取上げて使用する。たまに拒みでもするものあれば、直に、腕力に訴へて打つたり引掻いたりする。幼稚園に於ける王様の様な横暴振りであるが、先生は一向之を矯め様さしない。そして先生曰く「是れが幼児社會の自然である。之を強ひて矯正せんすれば、角を矯めて牛を殺すの愚に陥る」と稱して居たが、果して是でよいものだらうか、又曰く、他の一保姆は、時間を一定して、一齊に遊戲を課するこゝは幼児の自然生活を破壊するものであると稱して、一齊遊戲を課さず一定の作業を爲さしめず、常に自由にして、何時も幼児の氣任かせである。二三の幼児が「先生唱歌してよ」と

請求すれば直に、唱歌を始めるが、唱歌する氣のなきものは勝手に遊んで居る。お話を聞かせて居る時にも倦きたる子供は自由に室の他方に出て行くが、別に何等の處置をも採らない。作業をやり掛けて止めるもの、一つの作業から他の作業へミ、やり掛けにして移り行くものも何時も其自由に任かせて居つて、何等の處置もなされない。是等は、果して、是で、よいものであらうか、見て居て心配で堪らない。ミ又曰く、此保姆は子供の言葉使ひを構はない。従つて、二三月の中に子供の言葉は著しく野卑になり、ぞんざいになつた。行儀、作法は崩れた。家庭からは子供が粗暴になつたミ云ふ苦情が頻々ミ来る。果して是でよいのであらうかミ。又曰く、然るに此保姆先生は九時の開園時刻に遅れ勝の出勤で、出勤しても、彼方へぶらり、此方へぶらりミ園内を漫步し、時には一ヶ所に佇立するだけで、何等の活動もしない。時々、子供にせがまれて、鬼ごつこやお話や、遊戯などして居るだけで、遊戯中にふざけて居るものがあつても、別に制することはなし、抜けて行くものは追はず、入つて来るものがあれば拒まずミ云ふ態度であるが、是が果してよいのであらうかミ。又曰く、此保姆が時に、子供を一齊に集めることがあるときは、重に自由畫を描かせるか又はお話をする時である。計劃的な作業や新らしい遊戯などは赴任以來まだ見たことがない。ミ云つて居た。

此園長の觀察に誤りなしミは云へまいが、此保姆の行り口にも誤なしミは云へぬ様に思ふ。

自然主義は墮落すれば放任主義になるのは當然の歸結である。放任すれば子供は野性を發揮する。野性を發揮することになれば自然、餓鬼大將式王者の出来るのは當然のこゝである。

教育は目的を有する計劃的事業である。之を自然の形に於て、幼兒に與ふる所に、吾人の仕事がある。目的もなく、方針もなく、漫然として幼兒の自然生活を是事とするのは教育ではない。牛豚を畜養するにしても、牧畜者は希望ミ方針ミを以て居る。牛豚の生活を其自然に任すのみが牧畜ではない。より好き種類を産ませ、より好き收益能率を得やうミ云ふ

のが牧畜の目的である。幼兒に教育を施す亦然りである。然るに、自然主義者の或人は云ふ「教育の目的なきを考へるから、子供に干渉し、子供を制裁し、子供を威壓して、其自然生活を損ふのである。教育の目的なき先づ忘れて、子供の自然生活を遵奉せよ」と云ふ。言にして云へば教育の目的を忘れて、子供の自然生活を尊べと云ふのであるが、是果して教育者の言であらうか。是が果して、教育であらうか、吾人は之を疑ふものである。尠くとも、教育の目的を忘れて居る間は教育ではないと思ふ。

由來、教育上の自然主義とは「自然の發達に副ふて教育を施せ」と云ふ意味で、自然其ものが教育であること云ふ意味ではない。然るに、此主義者は、自然生活其者は既に教育である。と考へて居るのである。是が抑ゝ誤りの基である。自然の生活其ものは決して、直に教育にはならぬ、子供の自然的生活は蕃人の生活に近似して居る。此未開人の生活を以て直に今日の文明人の教育を意味することは餘りな獨斷ではないか。此見易き道理を考へないで、未開人の生活に等しい子供の自然生活其ものを以て直に教育的生活であること妄斷するのは無考の甚だしいものである。「自然の發達に副ふて教育せよ」と云ふの「自然其まゝを尊べ」と云ふのは大部懸け離れた相違である。教育上の自然主義とは自然其まゝであれと云ふのではなくて自然に副ふて教育せよと云ふのである。然るに、墮落したる自然主義者は唯自然其まゝを育てやうとする。自然其まゝを育てやうとするならば何も教育の何のことも大騒ぎすることは要らぬ筈である。それこそ乞食の子も三年経てば三つになる主義でよい譯であるが、是は教育主義ではなくて放任主義即ち非教育主義であること云はねばならぬ。

ベルギーのドクロリーが「生活すること因つて生活へ」と云ふ標語を掲げて「生活即教育」の所謂生活主義を唱へて以來被教育者の生活全體を支配することに因つて教育しやうとする主義方針を誤解して、子供の自然生活が其まゝ教育である、是が即ち「生活即教育」であること解して居るものがある。是も一種の墮落したる生活主義である。生活主義は現在教育上の

新流行主義ではあるが、然も、決して、自然生活其まゝを生活せしめ様とするものではない。子供の生活を教育的材料に因つて充實せしむることに因つて、將來の生活を教育の目的に合致せしめ様とするもので、其生活の教育的充實に、數多の苦心と按配を要するものである。決して、子供の自然生活其まゝを許せし云ふのではない。

又或人は「先づ其生活を充實せよ然して後徐ろに教育せよ」、「保育の第一歩は生活の充實であり、次に教育である」と云つて居る。此人の云ふ所に従へば、生活の充實は第一義であり、教育は第二義である様だ。吾人は此説にも賛成は出来ぬ。是も、一種の墮落したる自然主義である。生活の充實は教育の圏外であるかの如く考ふる所に、子供の自然生活尊重の意味がある。尠くも教育を離れて、子供の生活を考へ様とする所に非教育的分子がある。吾人は子供の生活を教育的内容に因つて充實することに以て、生活即教育の意義を考ふるものである。然るに、此主義者は生活の充實を其教育的誘導とは別問題の如く考へて居る。此主義者は三度の食事を自然生活に考へ、教育をば特殊の滋養劑と考へて居る様である。

先づ三度の食事を與へよ然して後滋養劑は必要に應じて徐ろに與へよと云ふのである。吾人は然うは思はぬ。吾人は三度の三度の食事其ものを滋養に充たしめよ、夫れが即ち教育であるに解するのである。即ち生活の充實は同時に教育でなければならぬと考へる。充實を教育を別個の問題に解する處に誤謬は存する。此主義者は充實は先づ差當りの問題である。之を果した上に滋養劑を吞ませやうと考へて居るが、吾人は充實以外に滋養劑の攝取を排するものである。充實以上の教育を過剰視するものである。充實即ち教育であり、教育即ち充實であり、充實以外の教育、教育以外の充實を考へることは出来ぬと云ふのが吾人の建前である。斯くしてこそ始めて、生活主義の教育と稱することが出来る。生活即教育とは此状態を云ふので、「子供の自然生活其まゝが即ち教育」であるに云ふのではなくて、子供の生活其ものが、全く教育になる様に按配しやうと云ふのである。

要するに、「自然の儘であれ」云ふことを以て、自然主義を考へることは教育上の自然主義ではない。然りて、自然生活の充實を計れ、然して後に、教育せよ云ふことも、自然主義の教育を考へられぬ。是は恰も、食事は子供の自然である。好きなものを勝手に食はすがよろう。夫れが即ち教育である。考へると同様である。そして、必要あらば更に滋養劑を與へ様云ふのと同様である。吾人は斯る見解を採らぬ。吾人は食事を以て子供の自然を考へる。因つて、此食事の内容を吟味して滋養分に富ませて、自然の生活に、教育的内容を豊富に盛りたいを考へる。是が即ち教育上の自然主義であるを解するものである。そして、食事材料として滋養のないものや駄菓子類を排斥すると同様に、藥劑としての滋養劑の攝取を排することが、最もよき自然主義であるを信ずるものである。斯様にしてこそ始めて、教育を生活が一致するので、斯る境地に於ける教育こそ子供にならぬ教育であり生活であると思ふ。「人は教育に因つて人になる」ミカントが云つたのも斯る教育の状態を指すものではあるまいかと思ふ。然るに、論者は自然を其儘に尊重して、其自然があらぬ方面に方面に墮落して行くことを考へない。是れが誤りの根本である。斯る人は、好奇心は子供の自然であるから云つて、駄菓子屋の店頭に子供を牽き付けて居る彼の「あて物」か「めくり」か云ふ種類の射倖心を挑發するものを平氣で子供に買はせるであらう。また、子供が玩具をこわしたり蟲類や犬猫をいぢめることも、子供の自然的生活であるから云ふことで、容易に制し得ぬであらう。是等は何れも墮落した自然主義の弊害で吾人の注意し警戒しなければならぬ問題である。

如何にして宗教へ導いたら

よいであらうか(二)

——シユライエルマッヘル、フレーベルの教を想ひだしながら——

京都平安女學院專攻部

齋藤善太郎

三

シユライエルマッヘルが、何事にしても宗教からはするな、宗教といふものは凡て伴つてあるべきものであつて、其れから出て事をなすべきものではない、こいふ意味の戒めをしてゐる所があります。傾聴すべき言葉であると思ひます。

前に申しましたやうに——尤も其れは偶然の事情からまことに粗末な、不束な、言ひ足りないものになりました、まことに心苦しく存じてをりますが——シユライエルマッヘルによりますと、宗教は哲學でもなく道徳でもなく、有りこあらゆるものゝ凡てを、彼の言葉によりますと「宇宙」を、心すなほに感じ享けそして其れを靜かに味はひつゝあることであるから、その意味で、宇宙を如何に考へたらいいだらうとか、宇宙に對して如何に爲たらいいであらうか、こいふやうにして、いはゞ出しやばつて行くことではないのでありますから、それで、前に云ふやうに、宗教から出て事を爲すべきではない、こいふ主張が出て來るのであります。

四

其の主張にしましても、また其れを生む源になつてゐる宗教本質論にしても、たゞそれだけを切り放して見るゝすればするゝ誤解を伴ひ易いものであります。したがつて其れらを正しく解釋するためには、然ういふ説や主張が如何にして現はるゝに至つたかの背景や、また、さういふ時代的衣の下に併し如何に古典的真理が宿つてゐるか、なぞを知る必要が出て來ますが、それは今は措いて、たゞ、それらは、彼が其の周圍の、少くも彼から見れば誤つてゐると思はれた考へ方に對して述べたもので、したがつて強調せられたる一面がその一面性の故に誤解を呼び易いものではあるが併し正に味ある鹽の如き眞理性を持つてゐることをだけ、注意していただきたいのです。

そして此の點、宗教から出たは事をなすべきではない、こいふ戒めからも、宗教一般に關して然うであるやうに、我等に行く手への正しき道を指示してゝくれます。

五

彼が云ふ意味を、私達のそばにもつてくれば、ちやうどフレーベルにおいては、一つの云ひ方にすれば、生きてゐるこゝ其のこゝがそのまゝ宗教であるやうに、そして教育するこゝが、そのまゝ宗教であるやうに、正にその如く、人の爲し、生くるこゝそのこゝが、宇宙の内に於ける、其れにかき抱かれたるこゝとしてそのまゝ宗教であるのであるから、宗教は、學問か、道德か、その他生活における諸多の事實と相並んで唯それらのうちの「一つ」してある、こいふやうなものではない、生活がまゝこゝにつゝましく己の如何なるものであるかを宇宙の内に於て識りながら、彼の言葉によれば「直觀と感情」とにおいて識りながら、宇宙の内に於て生くるこゝ其のこゝに他ならぬのであるから、したがつて、此の事は道德から出てするが彼の事は宗教から出てする、こいふやうな關係の起るはずもなく、また然ういふやうな爲かたでは、一見生眞面目に見えてゐても併し正當ではない、こいふこゝになるのであります。簡單に云へば、宗教こいふのは、生活な

ら生活、教育なら教育そのことをその本質にかなつて爲すことに他ならないのであるから、今更宗教からなごいふことは、もご／＼宗教若しくは宗教教育を歪める源になるから、然うすべきではない、ごいふことになるのであります。

それにまた、宗教は本質に於ては神ごの、彼の場合宇宙ごの、生の關連そのものであるべきであるから、言ひ換へて、思想ごか行爲ごかになるまへの、若しくは其れらよりもより深い、更に若しくは其れらよりもより高い、彼の言葉によれば心の最も奥深きごころに於ける、最も素直なる、また最も鋭敏なる、「直觀ご感情」ごに於ける、「宇宙」ごの生の交渉そのものなのであるから、最も秘められたる、いはゞ聖なる愛の抱擁そのもの、何ものをも近寄らしめず、またいづこへもそこを放れては出でゆかうごもせざる、たゞ對象ごの生の合一に浸りきらうごするごそのものなのであるから、ものを考へやうごか、ごごを爲さうごか、そんな他事を顧みてゐる暇のないものである、ご云ふのであります。さういふ意味で彼は——これも對立的に強調せられたものでありましたが——宗教の特異性、獨立性、いな崇高性を強く述ぶるごころからも、宗教から出て事を爲すべきではないご云つてゐたのであります。それを私達のそばにもつてくれば、まごに宗教的な心持、まごに宗教的な態度からして生活なら生活、教育なら教育をなしてならないごいふのでは固より無い、否それごころか、正に其の如く宗教的でありえんがため、彼の言ひ方によれば其の如く宗教を伴つてありえんがために、宗教をば飽くまでも宗教ごして立てよ、何らかの道具、何らかの方便の如きものに墮せしむるごを斷然ご退けよ、また眞に宗教的であり、宗教を生きたために、他事への顧慮を捨てよ、かくして眞面目にたゞ宗教に専念せは、そこよりして、生活も教育もおのづから宗教に伴はるゝごごなり、したがつて其れらは眞に宗教的心持または態度をもつてなさるゝであらう、若し然うしないならば、所謂宗教より出でゝ事をなすご稱する場合の、實は宗教には非ざる、たゞ歪められたる知識ごか習慣ごか德行ごかにすぎぬものをもつて、生活を濁し教育を歪め、ゆきつくごころは、生活を殺し教育を殺し、宗教への

正しき門さへをも鎖すのみのここに終るのであるから、宗教よりしては生活をも教育をも爲すな、こいふやうなことをなします。簡単に申しますと、宗教は方便になざるべきものでもなく、また爲し得もしないものであり、若し、良き心根からにしても方便的に使つたら、せつかくの良き心根も自殺に終らざるを得なくなるし、それに宗教そのもので、生活からも教育からも遠く閉め出されてしまふことになるから、宗教への關心を持てば持つべき、生活なり教育なりにおいて、注意反省しなければならん、こいふことになるのであります。

六

いろ／＼誤解を誘ひ易い言ひ方ではありますが、まことに傾聴すべき戒めであると思はれます。

シュライエルマッヘルに聴きながら六月號で述べたところは、たいへん不束ではありましたが、宗教々育を眞に爲さうとするならば、しか念願する教育者その人が、生活の底の底、髓の髓よりして自ら宗教的生活をなすよりなく、また、たゞ其れをさへなしえてあれば事は足りる、其れ以外の、外面的なる習慣の傳達さか、まして神學めいた物語の注入などでは、本質的立場よりしては宗教々育において何物をもなしえぬ、要は先づ教育者自ら宗教的に鳴れ、しかれば被教育者等もおのづから其れ／＼宗教的に鳴り出るであらう、こいふ主旨のことでありましたが、こんぎの所は、宗教そのもの、特異性獨立性絶對性を眞面目に認めてなせ、しかなして宗教々育なら宗教々育をなすところに、眞の宗教々育がなされるであらう、然うするところにはじめて、宗教より出づるにも非ず、宗教へ行くにも非ず、しかも宗教と言はずして實は宗教の内に包まれ、眞に宗教より出でたる、また眞に宗教へ行く、生きたる教育、したがつて眞の宗教々育がなされるであらう、こいふ意味の所を、シュライエルマッヘルから紹介したことになるります。前にも云ひましたやうに共に對立的に強調せられてゐる言ひ方でありますから、十分注意して其の言はうとする眞意を聴かなければならぬのでありますが、さす

がに、近代的なる宗教理解への道を拓ける人の指示であるだけに、こもすれば踏み迷はうとする我々の宗教々育を、正道へくみ導きかへさうしてくれるものであります。

附記一、こんぎの所の、シュライエルマッヘルの本文は、石原譯の本にすれば一三八頁、原本にすれば六九頁で、宗教の本質論をしてゐる第二講の所で、『……併し宗教的感情は神聖なる音楽の如くに人間のあらゆる行ひに伴はねばならぬ、人間は凡てのこゝを宗教を伴うて爲すべきであつて、宗教の動機から爲してはならない』とあります。

附記二、「宗教は本質に於ては神の生の關連そのものであるべきである」こゝについては、進んで、キンデルバンドの有名な宗教論『聖』を参照していただきたいと思ひます、それは今岩波文庫の中に篠田英雄氏譯ではいつてをります。

附記三、シュライエルマッヘルの宗教論については、玉川文庫中の福島政雄氏「シュ氏宗教教育論」も御參考にならうと思ひます。（この次からフレーベルのこゝに移りたいと思つてをります）。

フレーベルに學ぶ

(承前)

大塚 喜 一

『兩親たる者は其兒童の助によつて自分の缺陷を補ふべきである……』

前に掲げたこの譯語の箇所に相當する原書 Froebels Menschenenerziehung, herausgegeben von Haus Zimmermann, Leipzig Verlag von K. F. Koehler 1913 の第四十一節(五十五頁)の本文は左の如くである(諸賢の研究に資せんが爲にこの節の全文を記す)。

Väter, Eltern! was uns mangelt, auf, lasst ⁽¹⁾ es uns unsern Kindern geben, verschaffen; was wir nicht mehr besitzen, die alles belebende, alles gestaltende Kraft des Kindeslebens, lassen wir sie von ihnen wieder in unser Leben übergehen! Last uns von unsern Kindern lernen; lasst uns den leisen Mahnungen ⁽²⁾ ihres Lebens, den stillen Forderungen ihres Genütes ⁽³⁾ Gehör geben! Last uns unsern Kindern leben ⁽⁴⁾: so [110] wird uns unserer Kinder Leben Friede und Freude bringen, so werden wir anfangen, weise ⁽⁵⁾ Zu werden, weise Zu sein! ——

父達よ、親達よ!。我等に缺けたる所のもの、それをば我等の子供達をして我等に與へしめよ、供給せしめよ。我等が最早(既に)持たざるものの、すべてを生かし(魂を與へ)すべてを建設する兒童生活の力を我等をして彼等(兒童達)から再び我等の生命(生活)の中に移り込めしめよ。我等をして我等の兒童達から學ばしめよ。我等をして彼等の生活の聲低き

(靜かなる、優しき)勸告、彼等の心情の靜かなる要求に謹聽せしめよ(耳を貸さうではないか)。我等をして我等の兒童達と俱に生活せしめよ(我等は子供と俱に生きやう!)。斯くして我等の兒童達の生活は我等は平和と喜悅をもたらす様にならう。そして(その生活を通じて)我等は賢く爲り賢くある様に爲り始めるであらう。

註

(1) lasst uns は英語の let us に當り、「我等をして……せしめよ」といふ意と共に「……しやうではないか」といふ願望の意をも含む。以下「……せしめよ」を譯してあるところを斯かるあたゝかきフレーベルの呼びかけの心を以て解せられたし。

(2) Mahnungen の動詞 mahnen は「思出させる、注意する、促す」等の譯がある。表面に明かなる要求としては訴へないが、しかし子供の下意識の深き層より彼自らも意識せざる程の聲低き靜かなる呼びかけがこれを聴く耳ある者には衷心の切なる要求としてひびいて来る。

(3) Gemütes. 情意、具體的心情、最内部の心。子供の本心、童心、童心の動きに應じその眞の要求を充足せしむる事こそ我等の本務である。

(4) 斯くして「子供を俱に生きる」事は、子供を生かすと共に、この生命の感應の中に我等も生かされる事となる。この「子供」と「我等」と何れか一方を主とするのではなく、兩者共に能動的であるところにフレーベルの眞意が存する。(英譯

Let us live with our children Note:—"with implies that both, we and the children, are equally active". Education of Man. translated by W. N. Hallmann p. 89)

(5) weise 悟を開きたる、分別ある、思慮ある。子供と俱なる生活の中から、平和と喜悅がうまれて来る様になれば

我等はやがて子供の世界の消息を悟り始め、子供に對して思慮分別ある、即ち子供から理解ある友を感じてもらへる様になるであらう。それが我等が眞に賢明になり、(純化の過程)又賢明である、(我等に養はれたる内なる性情)様になる始である。

斯くしてこの節の終までよく讀めば、『兒童の助』なる始の言葉に内包さるゝ含蓄豊かにして滋味したゝる内容が深く味はるゝに至る。

この譯は、恩師K先生の御宅に參上し又特にフレーベルの研究について京都市保育會として御指導を仰ぎつゝあるI先生を研究室に訪ひ尙近年獨逸留學より歸朝せられたるO助教授を研究室に訪ひ、何れも原書に就て親しく教を受け、更に學校の教員室にてS教授の意見を聽き等して漸く書きまゐめたものである。

次に、原書のこの箇所を披瀝せられたるフレーベル先生の意を存するところに學びつゝ「母たるこゝ」の眞義に就て考へて見たいと思ふ。

精神上の母たること

『苟くも幼稚園の保姆たる人は自分の子を育てた人であつてもらひたい。肉親の子を有する人は、幼兒に對する愛情がこゝろなく濃やがである』といふことを、小生は嘗て或る經驗ある人から聽いたことがある。

この言には確に一理あることは何人も首肯する所であらう。しかもそれなるが故に、肉親の子を有する人は之を有せざる人に比して常に保育上優れた働きを實際に爲してゐることは斷言出來ぬ。そういふ場合が多いではあらうが、すべてではない。何となれば「人の母たる」偉大さは、單に子を産むのみならず産んで育てるこゝろ生活體驗の間に處して母自身が教育者として又人間として鍛鍊せられ深省せしめられる點があるからである。母となつてその愛兒を育てゝゐる間の人生の

諸經驗を通じてその「母」自身が如何に醇化せられ陶冶せられて行くかによつて、現實の「母」の種々相を生ずるに至る。吾人は

山は焼けても山鳥たゝぬ……………

なる歌を思ふ毎に、親子の愛が如何に言語に絶したる強き力あるものなるかに讀歎措く能はざる者である。この愛が強ければ強い程、我子への一途に純なる獻身犠牲の行は、後天的修養努力等にては到底及び難き偉大にして崇高なる姿を現すのである。しかしこの禮讃の辭は吾人より母親に捧ぐべきものであつて、一度母たる人自身の問題となれば、斯くも強き本能愛の醇化にこそ眞の母の絶えざる忍苦が存するのであつて、本能愛の強き程この忍苦も亦大なるものを要する筈である。人情としての愛を殺して醫學の法則に従ふ事が眞に子を愛する道なる場合もある。學校の修學旅行にさへ我が子を出しかねてゐる母の心配、その情に於て有難い感はあるが、天までも伸びんとする旺盛なる生長力を阻止する結果となることは遺憾の極である。己が心の弱きを歎する時、母よ眼を轉じて、我國の史實に就て學べ。古來わが日本には、鍛鍊の精神を以て我が子と俱に人生の苦闘に直面し、たゞひたすらなる無我盡誠の努力を以てその子をして高き理想に到達するの勇と忍との徳を養ひ得た聰明なる母が稀ではなかつた。是等の例にて明なる如く、生理上の母がその先天的素質（良教育者たる根本となり得る素地）を陶冶して精神上人格上の眞の母たり得るまでには、人間のみに存する向上醇化の正道に日々念々に精進するを要し、斯く小なる愛を殺して大なる愛に生きるまことの道によつてのみ母性愛は甫めてその本來の尊き姿を現はするのである。斯る向上醇化はその人の性情に根ざす求道心より發するもの故短時日にして成るにあらず、その淵源は母となるよりず、以前の處女時代の性情と生活習慣、環境の感化等の中に徐々に形成せられ來つたものである。故に、良き母たらむにせば先づ良き娘たらねばならぬ。殊に心の動搖し易き青年處女期に於て私慾に克つの生活習慣

は最も必要である。

青年期女子の現在の生活殊にその乙女らしき心情の動きが、將來の母としての生活に如何なる形態と内容とを以て生長發達して行くものであるかは、吾人の最大關心事であり、現在偕に學びつゝある生徒達との「お互の教育」(前號四一頁)の中に此間の消息に通じなければならぬと思つてゐる。それを本として、斯道先輩諸賢の教を受け東西古今の學說に徴して慎重に研究し以て眞實の道を明徴にするは、今後大いに努力すべき重要事である。本誌に執筆せらるゝ斯道諸大家にして諸賢の人生體驗と専門の御研究とにより此問題に就ての御意見を寄稿せらるゝ事は、我國幼兒教育の機關雜誌としての本誌の特質的使命に貢獻する所多大なるを信じ、諸者諸氏と俱に謹で期待する次第である。小生としても卑見を披瀝して諸賢の御批正を仰ぎ度き願切なるものがあるがその一般的なる所説は他日に譲り、こゝにはこの稿の中心目標たる『精神上の母たるこゝに觀點を置いて此問題に向つての一視角よりのヒントを呈示したいと思ふ。

前號にフレーベルの説を紹介したる中、

「幼兒の生命と女性の心情とはその本質に於ては「一である」(四三頁)

と云はれて如何にもさうだと思はれるのは、保育實習生が始めて幼兒と生活を俱にした際の潑刺たる精神的火花により、心ゆくばかりに楽しくも純なる生命の感應をなしたる多くの生ける事實である。今その感想の一例を左に御紹介せむとするに當り特に本誌の讀者に御注意を願ひ度きは、斯くして處女時代に幼兒の生命と合一する事により漸次人の母たる品性の素地が若き日に於て涵養せらるゝ事である。それは特に將來の爲といふよりも寧ろ現在の乙女心に最もふさはしい自然にして樂しき生活經驗であり、斯くして重心の光に生きる生活實感こそは實に保母たるにふさはしい心情のつきぬ泉である。吾人が前號よりの稿を通じて讀者と俱にフレーベルに學びつゝある「我等に缺けたる所のものを我等の子供達をして

我等に與へしめ、すべてを生かす兒童生活の力を吾人の中に兒童達から移し込まむとする態度こそは、實に保姆の修養並に養成上最根本の基調である。讀者よ、何卒次の感想文の中よりこの心を得得せられむ事を乞ふ！

○

待ちに待った實習生活がいよいよやつて來ました。

明日からは幼稚園に行つて幼き子供達の友達として幼な兒と偕なる生活をするのだと思ふと、わけもなく胸がさわぐ。落ついて眠られない、たまらなく嬉しいのだ。けれど同時に、そつと私自身を省りみずには居られなかつた。

私の様なつまらない足りない人間が、あの聖い幼な兒の友として一緒に遊ぶ事が出来るだらうか。それよりも、あの美しい純真な魂に傷をつける様な事が無い様に、その方が大きな問題となるのだつた。二年生になつた喜びも子供に接する喜びに溢れる胸を抱いて感慨無量の中に幼稚園の門を潜つたのも「先生」云はれて穴でもあつたら入りたい氣がしたのも数日以前の事となつた。そして、實習生であるといふ意識も薄らぎ、附添人やお母様方に對する意識も追々淡く何もなくな思はれる様になつて來た時、同時に、幼な兒に對する感情がよほぎ變つて來た事を感じた。あらゆる感情が子供たちの上に集中されてしまつた様な氣がする。私は感じさせられた。子供の世界はちつとも空虚がないのね、と。私の心の底にいつもく潜んでゐた穴のあいた様な思ひが、子供との生活によつてすっかり満たされたのだ。さうだ、だから毎日がこんなに嬉しいのだ、そして快活になれるのだ。

子供達のおかげで、私は毎日こんなに楽しく送る事が出来るのだ。

私は家中でも一番陰氣な性質で何時も額に皺を寄せてゐるといふ始末だけれど、此頃ではすっかり快活になつた。そして萬人向きのする様になつたと云はれる様になつた。来る日もくても愉快です。殊に幼稚園で子供と遊んでゐる時は

どんな事も皆忘れ果てる、ほんとうに氣持のよい軽い氣分になつてゐます。

幼稚園は朝早く行くもの、幼稚園が段々に始められて行く何きも云へないあの時の氣分、一番大切な時である事を経験した私は毎日早く登園する様になつた、それでも大きい組の子供たちは随分早いので私より先に二三人は來てゐる。私の足音がするに積木を捨てゝおいて「先生が來やはつた」と飛んで來て私を迎へて呉れる。何きまあ威勢のいい聲だ。私は何きも云へない嬉しさ幸福さに浸るのだ。毎朝々々こんな新鮮な氣持で潑刺して私を迎へて呉れる者が他にあるだらうか。子供達の元氣のいい「先生お早う」を聞くに胸がすつさる。いろ／＼の思ひはこの聲で消され、新しい一日の希望、人生の明るみが開かれる様な氣がする。こんなに氣持よく明るく私の一日のスタートは子供によつて開かれるのである。何て幸福な私だらうか、感謝しなければならぬ。日一日幼児と私は親しみ深くなつて行く。私の様な者でも仲よしのお友達になつてくれた事を子供に心からお禮を云ひ度い。新緑の薫りが心地よい風に送られて來る。早く來た二三人の子供に手を引かれてお庭に出て來る。「先生お滑りしよう、滑れる様にして頂戴と誰かと言ふ。子供達一しよに板を敷くき、今日の外遊びは先づこゝから始められる。この中段々登園する。姿も見えないのに聲だけが曲角の向ふからきこえる。「先生、お早う」バタ／＼と馳けて來る。何時も元氣な日ちゃんやんの聲だ。私がお庭に居る事を室内で先生に聞いて來たのに違ひない。こんなにして私の傍に飛んで來てくれるのだ。「先生僕んき今日から鯉職立てはつたよ」、「僕んきこも大將さん飾らはつたよ」潑刺たる活氣に充ちてお話をしてくれる子供達にきりかこまれて、私は心地よい朝の片時を何きも云へない幸福と光榮の中に送る事が出来るのだ。

何につけても眞剣な態度、すべてが美しい姿、聖いものである、眞に敬服すべきものを感じさせられる。

體に登りつきに來る子供、手をひつぱりに來る子供、肩につかまる子供、泣いて私の傍に走つて來る子供、鼻液と汗と

を私の洋服に残して行く子供、喧嘩の味方にミ呼びに来る子供、みんな可愛く、好きなく私の子供である。幼稚園で過す間は僅かであるけれども、ただ私の生活に明るみを與へ、悲しみを慰めて私を幸福にしてゐる事だらうか。そして幼児無くして私の生活も無いといふ事を此頃切實に感ずる様になつて來た。子供あるおかげで潤ひのある生活をし、希望をもつて送つて行ける私は幸福だ。

靜かな片時、ふとこんな事を思つて見る事もある。若しあの可愛い幼稚園の子供達が居なくなつたらどうだらうか……：そしたら私もキツト居なくなつてゐるだらう。今の私の生活に幼児ミは離す事が出来ない關係に結ばれてゐる事を感ぜずにはゐられない。若し今、私から幼児を取り離されたならば、何によつてこれを補ふ事が出来るのだらうか。思つても恐しい感じがする。兎に角、幼な兒なくして私は生きて行けない云ふ氣がする。幼稚園で遊んでゐる時は、みんな私の子供であり私の妹であり私の弟である。さういつた氣になつて生活してゐる事に氣づくのである。

そして時々、こんな子供を持つてゐられる母様方が本當にうらやましくなる。(以下次號)

この夏

倉橋惣三

門司

文部省の講習ミ、昭和保姆養成所の講習ミを了へて、大井の會場から、特急列車富士號へ馳けつけたのが七月二十九日の午後。翌三十日の朝、下關で松村茂氏等に迎へられ、門司に渡つて、小倉市の公會堂へ車を走らせた。そこには北九州保育會主催の講習會の會員諸君が待つてゐられるのである。大分への途中にも、鹿兒島への途中にも、熊本への途中にも、福岡への途中にも、又昨年まで三夏つゞきの長崎への途中にも、いつも素通り、素歸りをしながら物足りなく思つてゐた此の土地である。奥へばかり通りぬけて、肝心の入口をゆつくり訪ねないことは、誰れにしたつて物足りないことに相違ない。この夏は其の機會が與へられたのである。私は、聊かホツミしたような心持ちで、その講習會場の演壇に立つた。

いふまでもなく北九州は我が國の現代的工業地域として筆頭に位するところである。福岡縣が教育縣として長く名をなしたのも、その現代的文化の必然現象を解釋していふものであらう。然るに、私は憂ふるが故に正直にいふが、幼稚園教育の發展だけは、その文化比率に伴はないところがある。少くも昨日までそうであつた。九州の東、西、南の三邊及び中央部に夫々保育會が立派な活動をしてゐるのに、たゞ此の北邊——しかも文化の入口である此の北邊に保育會の活動を聞かなかつたのである。私の旅程の上の物足りなさといふような呑氣な主觀でなく、斯界の爲に遺憾にたえなかつたのである。勿論、此の地方に立派な幼稚園はある。熱心な保育者諸君はゐる。たゞ一つの團結としての活躍が缺けてゐたのである。而して、此の事を土地の内部から最も遺憾としてゐられた人が、少くもその最も熱心なる一人が門司幼稚園長の松村茂君であることは、いつからいふことを忘れた程久しい以前から知つてゐたことである。果然、今回の講習會が同君

の盡力によつて、北九州保育會主催の名を以てせらるゝに至つたことは、講習會そのものよりも多大の意義を以て考へられ、喜ばるべきことである。私は、之を機會として我が尊敬する北九州の保育界の、向後の活躍を切に々々祈つて已まない。

講習を了つた三十一日の午後、松村君に案内せられて和布刈神社に詣でた。謠曲和布刈で有名な、あの古神事のある御社である。早朝の急潮に臨んで、壯觀無比。その岩頭の茶亭に宴を設けて鮮魚と共に夕陽美を満喫させられたことは、近來の快であつた。欄に近き急潮に逆ろう船、矢の如く流されてゆく船、流石に瀬戸内海の口を扼して早朝の名にふさはしきを思はせたが、折からの夏祭りの神樂太鼓の強き音の夕闇せまる潮の森きに和して響き渡るのは、豪壯いふばかりなきものであつた。その夜十時、下關發の朝鮮行聯絡船に乗る。雲なし、二十日ばかりの月の影傾く。

釜 山

この夏の朝鮮行の主用は、京城で各道の保育者諸君のために三日間の講習をするにある。しかし、兼ねて數回の講演をするこゝになつてゐて、その皮切りを釜山公立高等女學校同窓會とする豫定になつてゐる。すなはち、今までいつも船から汽車へ素通りをした釜山が第一の目的地になつてゐるのである。

八月一日朝。阜頭へ迎へて下さつた多くの方々の中に石原ゆきさんもゐて、之れから朝鮮にゐる間、私の旅が都合よく、ラクに運ぶように一切の手配をして待つてゐて呉れた。實際、萬端一方ならぬ世話になつたことである。

その日は午前高等女學校で講演、午後教育座談會といふプログラムで、相當汗（くだらぬこと）をしやべつた冷汗の外にも出したが、その汗は郊外松島遊園の料亭の大廣間ですっかり拭はれて仕舞つた。實際ステキな絶景で、海から吹いて來る涼風を、糊のこわい浴衣の胸に一ぱいに受けてくつろいだ爽快さは、朝鮮第一日の印象を、すっかりアットホームにした。落合校長、及び辻與四郎氏の御歡待を深謝せざるを得ない。それにしても、前夜は此の海に向ふ側で潮を見たのである。今夕は本土を遠い對岸さして海を見てゐるのである。雲かき見ゆる對島を遙かに望みながら、句には盛れない旅らし

い思ひも動いたりした。その夜の汽車で京城に向ふ。水害不通がやつゝ開通した跡を。

京 城

京城は滿洲への途次、二度立寄つたことがある。その第一回はもう二十年前にもならうか。私が朝鮮の幼稚園に初めて接したのはその時である。庚子記念京城公立幼稚園で内地人の幼兒を見、京城幼稚園で鮮人の幼兒を見た記憶は今もありありに残つてゐる。朝鮮保育界の兩元老たる京口さだ氏や大和田りよう氏に御懇意を得たのもその時からである。第二回は幼稚園視察はしないで、たゞぶら／＼と數日滯留して、秋早い風物を駄句り散らして過した。その一句をも自分でも覚えてゐない位だから、餘程駄句ばかりであつたに相違ない。たゞその時或る人の紹介で見せて貰つた（思へば随分と圖圖しいこゝであつた）鮮人家庭の結婚式が、古びた版畫のような彩りで思ひ出される。——兎に角、朝鮮の保育界のためを、正面の目的として京城に來たのは、この夏が初めである。随分と長い間、屢々面白い話をうけながら、やつゝ實現せられた初めである。私がその欣ぶべき任務による緊張を以て、あの堂々たる京城驛に降り立つたこゝはいふまでもない。

それにしても、今度の、朝鮮としては最初だといはれる全鮮的講習會の實現に就ては、京城幼稚園協會長石原磯次郎老の多大の熱心と盡力とを先づ特筆しなければならない。同氏は併合前からの朝鮮に於て企業に成功せる實業界の人であるが、常に心を精神事業に傾け、現に自ら經營するところの彰榮女學校長にして同幼稚園長を兼ね各方面の社會公共事業に關係してゐる有力家である。風貌齋藤前首相に酷似せる溫容雅順の好紳士である。その諸方面に於ける關係勢力が、今回の計畫の實現になつて如何に有利であつたかはいふまでもない。但し、老を中心とせる協會幹部麻柄トヨ、井上みち、栗島左與乃、波々伯部たけ、其の他諸氏の勞の、之れ亦多大なりしこゝは勿論であるが、協會の活動の第一着手が其の力を待ちしこゝを否むものはない。講習は南大門小學校を會場として一、二、三、四の四日間交互に、内三日間の午前が私の保育講義、四日間の午後が牛島武夫氏の遊戲で、全鮮から集つた講習員諸君は最も熱心に終日受講せられた。その中に鮮

人保姆諸君の多數加はつてゐられたことは素よりである。

この講習の外に、京幾道社會事業協會により私を中心として開催せられた兒童保護座談會に愛育會理事として出席したのミ、龍山鐵道俱樂部で講演したのミ、愛國婦人會幼稚園ミ庚子紀念公立京城幼稚園ミの園舎を視たのミ、鮮人家庭の見學として白氏の家を訪ふたのミ、朝鮮神宮に詣で又祕苑の拜觀をしたのミ、府尹伊達四雄氏の招宴で本場の官妓の歌謠を聞いたのミ、而して多くの舊友新知に會つたことゝが、如何に寸暇なく四日間の京城滞在を充實せしめたかは、今想起するも愉快なることであつた。朝鮮ホテルのベットには深更一時より早く就いた夜がなかつた位である。

仁 川

講習を了へて、六日、前約によつて仁川を訪ふた。仁川教育會主催の講演會に臨むのミ、仁川紀念幼稚園を見るのが目的であるが、私の興味がより多く後者にあつたことはいふまでもない。同幼稚園は園長脇元茂子君の熱心なる銳意によつて、婦人會の後援を得、昨年改築せられた新造の模範園舎である。地は公園に接して丘上にあり、仁川港を一望におさめ、景勝に於て既に優秀であるが、その保育の實際も亦、常に進歩的態度を以て如何に優秀であるかは、折から朝鮮としては最も率先的實行である夏の幼稚園の半日を視ただけでも測知することが出來た。その夜、府尹永井照雄氏及び教育會の諸君に誘はれて仁川名所月尾島に遊んだが、料亭の欄に近き群嶋の眉をひける如き軟かき線は、明るい夕空に一種獨特の畫趣を浮ばせてゐた。仁川より京城へ。而して多數の方々の好意あるお見送りを受けて、夜の汽車は再び釜山へ。

再び釜山

釜山へ歸り著いたのは七日の朝である。そのまゝドライブして海雲臺の温泉に投じた。東萊温泉ミ竝ぶ新しい温泉である。海に近く打ち開けた四邊の風景は連日の不休に聊か疲勞した頭を慰むるに最も好適の地であつた。而して、その夜は釜山鐵道俱樂部で講演。翌日は午後、朝鮮最初の幼稚園たる本願寺幼稚園の園舎を訪ひたる後、教育會主催の夜の講演會

に臨み、十時乗船、朝鮮一週間の旅程を了した。此の一週間は水害及び天候の關係で、最初の豫定より短縮せられたものであつたが、それでも私にまつては相當充實した内容が盛られてゐる。この上、各地を巡歴し、殊に金剛山や慶州の見物をしたまじたら、餘り感興が多過ぎて持てあましたかも知れない。次の機會のために残してお置きになるのもいゝでせう。と言つて呉れた石原ゆきさんの言葉は、眞にその通りであらう。

月

朝鮮から歸つて直ぐ、家族達の行つてゐる高原の山莊へ暑を避けたが、その白樺の林の中で、ふみ見つけた月は淡い舊曆五日の月であつた。薄いぎてらを羽織つて、その林の中を歩いたりした。越えて七日、舊曆十一日の月は琵琶湖に臨む大津の宿の庭さきで見た。滋賀縣廳の講習のために赴いて、二日間を朝に午後、夕に夜に、琵琶湖邊の客まなつてゐたのである。翌舊曆十二日の月は比叡山の杉の木立の間から見た。こいふよりも其月明りで叡山越しをしたこいつてよい。その夕、お山の宿院で精進料理の夕飯をゆつくりすませてから、四明ヶ嶽に沿ふて京都口のケーブルまで歩いたのである。しかも、その夜の月は山を下りてから後も、私こいつしよに京都の町を歩いて呉れた。

習舊曆十三日と十四日と十五日の月は東京で見た。中央融和事業協會の講習と、教育會の講習のために滞在してゐたのである。尤もその中のこの月だかを銀座で見たのは、月もきつと笑つたであらう。酔興であつた。

翌舊曆十六日の月は再び高原で見たが、淺間の方から動いて來る雲の迅さに、あわたしい光を漏らすだけであつた。前夜の満月は一片の雲の影もなく晃々晴れて、澄み渡つた光りは眞に高原の月夜の美の極致であつたのである。もう一日早くいらつしやれ、ばよかつたに、家族達は惜しがつて呉れたが、きのふの月ほごうしようもないものはない。

(昨年の「この夏」は九月號に間にあはず、ゆつくり書くと思つてゐて、とうとう機を失つて仕舞つた。今年はそれにこりて、兎に角く切に間にあはせるだけの筆を執つた。文意盡さず、殊に各地の諸君への謝意を盡し得ないこと甚だしい。御諒恕を乞ふ。)

夏の幼稚園

及 川 ふ み

東京市麴町區の教育會で、夏の幼稚園 を開催せられてから、今年で丁度四年目になります。その始めの年から、番町、富士見の兩小學校附屬幼稚園に當校の保育實習科生の有志をおくつて、一つにはこの夏の幼稚園の先生方の御手傳をさせていただきます、又一つには實習科生それ自身の保育實習まいふ事にいたしました。

實に炎暑のきびしい盛夏の三週間、しかも朝は七時頃より夕方四時頃まで、この時間的から考へても平常の實習時間よりも、はるかに長いこの仕事にたへられるであらうか懸念致しましたのも最初の年だけでありました。まいふのはこの實習中に誰一人病氣もせず、又途中であきたまいふ事もなく首尾よくつこめ終へましたからであります。その次の年からは毎年の例となり兩方の幼稚園に數人づゝお願ひいたすことになりました。

こんなわけで生徒だけはお願ひしてゐるものゝいつも七月末日頃までは講習、八月になれば東京をはなれる年が多かつたために、一度もこの夏の幼稚園の様子を拜見することがありませんでした。ところが八月七日に富士見幼稚園から御丁寧に夏の幼稚園參觀の御招きをうけました。

伊勢へ旅立つ前日で丁度よい機會に喜んで朝から拜見に伺ひました。丁度九時半頃でありましたでせう三つのお部屋ではそれ〴〵お仕事がつづけられておりました。

おやつにたべたキャラメル空箱で自動車も澤山つくられております、帆かけ船のぬりゑも飾られてありました。

さこのお部屋に入つても三週間の終りに近い今日ですから幼児も先生もよくなれて、しつくりした調子で日頃の實習科生さも見えず立派な一人前の保姆さんになりきつて見えました。午前中のおやつは、ビスケット八個位で幼児たちは数へながらうれしそうにいたゞいておりました。

庭ではプールの水が新らしくきりかへられて幼児たちの入るのをまつばかりになつております。

「今日プールに入る人」を先生に云はれて手をあげる数人この部屋は最年少組幼稚園で用意された白い奇麗なパンツに洋服をきりかへてポツ／＼プールのまわりに集る。あきの二組は大きい人たちだけに大勢支度して出てくる。簡単な體操があつて笛の合圖で一同ぎつ／＼飛びこむ。見てゐる自分も幼児になりたい／＼汗をふき／＼羨しくながめてをりました。

女の子も男の子も数人は泳げるやうで縦横にかへる泳ぎをしておりました。

しきりにプールの水遊びがすむ／＼又笛の合圖で外へ出でます。横の低い物干さから各自の記名の手拭をこつてごしごしふいてゐる。今度は疊のお部屋で人形芝居がはじまります。プールにはいらずにそのまわりでブランコや砂場で遊んでゐた人たちさいそいでお部屋に入つてゆきます。チョン／＼と拍子木合圖に幕があきました。舌切雀の第一幕目であります。この日さくに御招待の區の學務委員方、町會の方、區役所の學務課の方々お珍らしいのでせう聲を出して笑つておいでになりました。幼児も興味深く見入つております。悪いおばあさんが重いつゝらをあけてびつくりのところで幕がおりました。

晝食は梅干さおにぎり。大きなのは三つ位小さいのは八つもはいつております。それを一粒ものこさずいたゞきました。食後のウガヒも上手に出来ました。わづかの間にいろ／＼の訓練も立派に出来てゐてこのまゝあすで終りになるのがつく／＼おいしい事だと思はれました。食後の自由遊びの後は各部屋へござをしきその上に毛布をのせてお晝寝です。よく

熟睡してゆりおこす幼児も数人あるこの事でした。

御多忙な津田校長先生も終始幼稚園にお出ましで何かご御心ぞへになり小杉先生はじめ小松、内田の兩先生も暑さを忘れて何くれご幼児の御相手に懸命でおいでになりました。

山に海に暑さを避けて楽しく遊んでゐる幼児たちにも勝るごも劣らないこの夏の幼稚園に遊ぶ幼児たちは幸福であります。

諸先生方から實習科生のまめくしく立ち働くのをよろこばれて心ひそかにうれしく感じてをりましたごころプールの服で幼児のパンツや手拭をすゝぎながら小使夫妻が言葉をつくして實習科生のよく働く様子をほめました。

おひるねの最中しづかにおいごまをいたしました。

九段下へ出る途中、靖國神社の横を通りながら、夏の幼稚園を參觀させていたゞいただけでもうれしいこの日に校長先生はじめ小使さん方まで實習科生の御禮を云はれて汗ばんだからだも足のはこびも早く坂下へつきました。

水にこねて砂黒たまのまゝごこの

幼き子らはごもしきろかも

夏期講習會感想

— 文部省及日本幼稚園協會主催 —

講習の後に

大磯小學校
附屬幼稚園

須 子 啓 子

少し東京から引込んでしまひます。一月一回の研究會にさへ出られなくなつてしまひます。取り残されさうな氣持がしては本だけでもたくさん讀まうと決心したり、何よりも子供から學ぶことが第一でフレールになリすまして無中に一日送つたり、それでもやはり時々古集（こくし）云つても、皆さん、あの理想的モダン園舎です。におゐでの先生方のお顔を拜見したり直接お聲をお聞きしない。何か榮養不足の氣持が致します。こんな氣持からばかり皆さんおいでになるのでは無いでせうが、私はこんな氣持も随分たくさん

で講習を待つて居た一人でした。毎日毎日官報をひつくり返して見たり（官報なんて云ふものにこんなに親しみを覺えたのは初めて）「参りましてよろしくございませうか」を伺つて「そんな聞き方をしてはいけない」と校長先生「つまり園長、しかしかう申し上げた方が感じが出ます」に吐きを受けてさうしてかいら不思議に思つたりしました。が結局二十二日には出席出來てホッしました。今年は會場入口に去年の様な立看板が見えませんでした。標札の無い家の玄關に這入つて行く様な氣がしました。昨年幼稚園協

會の講習會に比べてなんきなく官僚的な冷たさをまつ感じ
たなんて云ふのはあんまり正直過ぎてさうかと思はれます
から伏字にでもして戴くこゝにして、倉橋先生の御講義は
相變らずたくさんのよいものを與へて下さいました。敢て
クラハシヤンならずとも保姆である限りに於て、かならず
たくさんの満足ミ感銘をあの御講義の中で受けたこゝを
思ひます。

去年の夏の御講義を一年間考へつゝ働いてそこに又段々
出て來た疑問をスバリミ解決して下さつた様なお話もあり
私達には思ひも掛けぬ様なよいお言葉で保育項目取り扱ひ
の要領のお話があつたりでした。去年の御講義を今一度講
習前に讀んで來るか今度の先生の著書「保育法の眞諦」をも
つゝよく讀んで來ればよかつたミ、これは残念に思つたこ
このひきつ。

保育項目取扱ひの要領ミ云ふ中での談話の處なごあの様
に迄深い思ひをもつて考へてゐらつしやる先生に對して
餘りにも軽く淡い氣持でそれらを考へてゐる自分を恥かし
くさへ感じました。日常の談話でなしに、ある一定の話ミ

して出來てゐるつまり藝術的談話、これを生活の中に發生
さしてゐるには如何したらよいかミ云ふ處で、「先生がよき
話手である前によきミ手であるこゝにまつ要點を置き度
い」ミ云ふこゝを話されたが、このきミ手ミ云ふ字をわざ
わざ假名でお書きになる先生のデリカシー、これは先生の
文學的教養から來た深さなのかも知れませんがミにかく私
の様な粗雑な人間は先生のお考へになつたこゝの何割かを
割引してしか受け取るこゝが出来ないのかも知れないミ思
つてほんミに残念です。又談話の中で内容效果について話
された時に仰言つた「教育者は目的に片寄り過ぎてそれの
持つてゐる特質を尊重しない、だからお話は生きてこない」
ミ云ふこの御言葉はお話ばかりではない大切な問題だミ思
ひます。

お話のこゝばかり書きましたが製作(手技)に關してのお
話ミ先生が保育項目中の重點ミを置かれるものだけ又よい
お話が伺へてうれしうございました。

製作そのものが子供の生活から離れたものであつたなら
それ又罪は大である、ミ云はれた時、ひそかに省みて冷汗

が少々ばかり背を流れる氣が致しました。製作々々ミ一つはし昨年のお話を體得したつもりでやつて居ても子供にミ一つて非生活的なものが多かつたのでは何もない處が却つてそれは禍だつたのですから。及川先生の手技製作の講習はこの意味から云つてもほんきにうれいものでした。

可愛らしい花子さんの洋服をぬりゑしたりお椅子を切つたりしながらすつかり氣持がよくなつてしまひました。子供等が明るい青葉に圍まれた部屋でこれをこしらへながら遊ぶ時ごんなにまあ幼稚園は楽しい處になるでせう。

ですけれど私はその次にこんなことを考へなければなりませんでした。「あの四十人近い子供等ミ狭いたつた一つのお部屋、そこへ持つて行つて、これらをごんな風に消化して與へたらよいかしら」。

附屬幼稚園では内も外も、ごちらをむいても私は自分の子供等の幼稚園を思ひ出してそのあまりにも理想に遠く隔たつた存在に憂鬱になつてしまひました。しかしそこで少しでもよい保育を、少しでも理想へミ努力するこゝが大きな仕事であり勉強なのだミはいつも思つて居ます。

去年の講習で教へて戴いたお魚はミてもうまく利用（ミ云つては少し變ですが）されて自分ながら嬉しうございしました。今度もこの花子さんが子供達によい遊びミ豊かな生活と與へてやつてほしいミ願つて居ります。

新庄先生の幼稚園史の御講義も短時間でございましたが早くこの世界にお働きになつた方々の御苦心なども忍ばれて色々お感じになつたこゝが皆様も多いこゝミ存じます。

今度出版されました「日本幼稚園史」をこの夏休み中に讀むプランを立てゝ置きましたがこのお話を承つてなほ興深く拜見出來ます。

今年の講習は始めから終り迄あの變調な天候の爲に涼しく倉橋先生の瀟洒たる和服姿を遂に拜見出來ませんでした。が午後の遊戲の講習なごにはほんきに幸でした。お暑いき第一戸倉先生にお氣の毒で、そう思ふ神經の働きのこちらの記憶力をいくらかマイナスするのですが今年はその心配がなかつた爲によく覺えてあれから二旬近い今日もしつかりミ記憶致して居ります。倉橋先生にも安心して戴き度いミ存じます。遊戲はどれも技巧的な大人のうまさなご

必要さしないうれいものでした。今迄大して氣にも止めずに居た普通の遊びがすっかりリズム化されて「たからさがし」だの「子しろ子しろ」の楽しい遊戯になつて出て来るのです。すゞめのおやき、キューピーさん、インドの兵隊などお見えにならなかつた方ごなにもお傳へし度いと思ひます。

これもさうですが歌詞のない遊戯などには殊によい樂器よいリズムよい音を與へてやり度いと思ふのですが自分の音樂的無能ミ樂器の粗末さを思つて悲觀して居ります。あまり自信も無い文章を長々書きますのは實に氣が引けますが、あさ一ツ質疑應答のこみだけ書かせて頂きます。

本音を吐く

新庄先生が「何か書け」ミ仰有る。「今度は御許しを」ミ拜んでも、「ならぬ、ぜひ」ミ仰有る。

原稿紙を置いて「では必ず」ミ仰有る。

「皆さん意見はたくさんあるが質問なんかは無いのだから」なんて倉橋先生が云はれましたがもつミさんくお出しになつたらミ思ひます。私の様な愚問でお暇をおきりしてはなごそんな謙遜は今年だけにしたら愚問賢問さしごし殺到して先生もきつミ張り合ひがおありにならうミ思ふのですが。

第二保育期が始つて子供達はみんな顔してやつて來るでせう。この講習で又新鮮さを取り戻した心ミ身體でよく迎へてやり度いミ存じます。終りに講習中お働き下さいました先生方に感謝致して筆を置きます。

九、八、十三。

文華幼稚園

留岡よし子

御命令に背くミ、九月になつてから毎朝新宿驛で、毎夕大塚驛で、新庄先生に見付かつては大變ミビクくしなればならない。その精神的負擔を考へるミ恥さらしの様で

も、原稿紙を少し許り汚して御返しした方がよい様な氣がして書いたのがこの本音。

講習へ行くのはよさうかしら、もう澤山だ、何も彼も、目を塞いで耳を掩ふて、「知らぬが佛」でゐる方が呑氣でいい。

去年の講習以來絶えず「保育の眞諦氏」が睨んでゐる。恐い顔して、時に嘲笑して。

「そんな事ぢや駄目ぢやないか。下手だね」夢にまでうなされ……もしなかつたが實は、「眞諦氏」の親分みたいな倉橋先生に御目にかゝるのが誠に申わけない氣がして……等しいへば、一體お前は誰の爲に誰に申譯ないさいふのだこ叱られる事だらうか、「眞諦氏」も仲よくならばさもなく、睨まれ乍らでは、まことに心重、講習へ出たくないなあさいふのが本音。

其癖、七月二十二日から二十七日までは、何事が起らうと萬事、「講習中」の故を以て、たゞへば親類の病氣見舞も延期、知人の上京出迎も失禮して當然許さるべきだ。「講習^{フースト}第一」は我ならぬ保母先生の堅き信條である事も亦本音。

所で、事實は重い心を堅い信條で引張つて出席させて頂いたのである。

別項の様な御話(多分掲載の事と思ふ)なるほど。全く。本當に。私の重い心が段々輕くなつて來た。

そうだらうけれど、そうに違ひないのだけれど、けれど、けれど……心秘かに、つぶやいた去年と違ふ、まことに「保育の項目さん」は終始ニコニコ顔、ふみ氣がついたら、一年間睨みつけてた「眞諦氏」も何だかニコニコ顔。

私は八月の休を飛越して早く子供等の顔が見度くなつた。「先生はね「眞諦さん」の笑顔を見て勇氣が出たのよ」……いつて見度い氣がする。これが講習終了後の本音。

及川先生の手技。あの肘掛椅子一つにもどれ程の苦心を重ねられた事か。

(或は雜作もなく……ならば一層の驚異)

新庄先生^{タカ}の空には得られぬ貴重な資料、どれ程の時間を費された事か。

戸倉先生の遊戲。悉く名に背かぬ子供の遊戲、戸倉先生をあのまゝ小さくするに全く、發育のよいセーラー服の天

才少女ハルちゃんになる様な氣がする。

諸先生の御苦心にはたゞ／＼限りない尊敬と感謝。先生方何卒御健全で更に種々の御教を賜ります様。吳々も御身御大切に。何卒この私の爲に。

あんまり本音を吐き過ぎたかしら。

先生大丈夫よ……子供等が口を揃えて云つて呉れる様だから安心してペンを擱かう……そして氣がついた。講習の附録を忘れてゐた。

質疑應答は先生ならではの專賣特許。

併し之はまだ速記を読めば出席しない人にも解る。出席

夏期講習會を終へて

夏の講習、毎年期待される文部省の講習會も今年は氣候不順の爲にかへつて涼しく夏らしい感じから遠のいた氣持で講習員一同が喜んで終はる事が出来ました事か

しなくては到底ダメなのは先生の御話の内容よりもその持味といふか甘味といふか理論的には同じ様な事の云へる人も或は無いかもしれないが追隨を許されないのが何といはうか、ユーモア、ウキツトそしてやはらかみ、朗らかさ親しみ、やさしさこんなものかもや／＼／＼として威嚴の洋服を着た様なさいつても當らないしさあ何といはうか、いへない所がつまり出席しない人には解らない所以、私の故ではない。附録の方が或は大きな得物ではないか。失言の数々も本音なり止むを得ないご御許し下さい。

九、七、二七。

千葉女子師範學校
附屬幼稚園

渡部

あよ

申し上げるまでもございません。

講師諸先生方にはいつもながらの御熱心御親切なる御指導をいただき一年振りにいたゞく榮養劑がひし／＼／＼身體

中にしみ込む様な氣持ちで一週間、またゝく間に過してしまひました。

ここさら嬉しく感じられましたお遊戯は歌詞に、曲に、振りに、何ぞ御氣つかひ下さいました事か、「幼な子」さいふ感じから一步もゆすらぬあの感じ……戸倉先生の御苦心は勿論諸先生方の御心やりの程もうかゞはれて一人喜んでかへりました、度重ねて口ずさむ味はひの心よさ……一人でにリズムにつられて踊りたくなる様な感じがいたします。あの單純な振りがごんなに表現されるものか今から樂しみて御座います、早くこの喜びをつたへてやらうと充された喜びにあふれて居ります。

たゞ遺憾に思ひました事は昨年に比べて質問の少い事で御座いました全國からお集りになる熱心な方々の御心意氣はごんなに賑やかな、興味あるものかあまりに期待を大きく持つてまゐりましたゝめか一寸物足りない感じで過しました事が何と云つても残念な事でした、しかしそれだけに二日間の質問がゆつくり伺へた事は出題者のお互ひが喜びまするものでございました。關西の方からお

出でになりました大塚先生の御質問はほんに私共保母にまゐりまして大變有益な事にうかゞはれました。さかく仕事の多忙に追はれ勝ちな私共、ここに結果を公にする折の少い私共には仕事をすゝませる事についてはいろ／＼考へさせられますのに、ふりかへつて一日一日を反省しここ更に書きこめておく様な時が少いと思ひますここに個人個人の表はれについては特別の子供以外にはかへり見る暇もなく過ぎはしないでせうか、倉橋先生の御想像通り日誌をつける時のだん／＼縮まつてまゐりますのはあまりに形式にさらわれるからではないでせうか、勿論公開日誌は別として「自分のおぼへがき」は出来るだけ簡單に鉛筆のはしりがきで書きのこして行つて一週間さか一ヶ月さかに又くりかへして整理して見る事がごんなにでも仕事を助けて行かれる事と思ひます。たゞ「書きこめる」「さいふ事が一日／＼を、又個人々々をよくみつめる」「さいふ氣持ちをより多くはしまいかと考へまして私も二三年前から二三冊のノートを用意してみました」「ほんに自分のおぼへ書き」で公開すべき性質の物では御座いませんが、私のためには大變都合よ

いものになりました。こゝに一學期、ごみの終りに淡路圓治郎先生の「幼児性行評定尺度」を造ります。き、大變らくの様に思はれました。ある時には出席簿と同じ用紙にその日の作業、遊び等を簡單に入れて見た事もございましたが、初めから形式をミゝのへた立派なものによらうとするこつゝ、かなくなる恐れがありますので、ありのまゝを出来るだけ

簡單に記しておかれる様な物をつくり、後になつて「整理」する機會をつくるのが何より有益の様に思はれます。充された心の喜びからくだらぬ事をながく、さかきつらね紙面を頂きました事をおわび申し上げて筆を止めます。

九、七、三〇。

夏期講習會雜記

七月二十二日から二十七日まで六日間の、あの充實した毎日は今思ひ出しても愉快です。午前中は文部省主催、午後は日本幼稚園協會主催。四百に近い會員が講堂に、また附屬小學校の雨天體操場にぎつしりと、全く一體になつてお講義を御指導をうけました。涼しかつたお天氣は本當に何よりも幸せでした。

時間表は

	文	部	省	主	催	
二十二日(日)	開會式	倉橋講師	及川講師	及川講師	及川講師	日本幼稚園協會主催
二十三日(月)	倉橋講師	倉橋講師	及川講師	及川講師	及川講師	戸倉講師
二十四日(火)	新庄講師	新庄講師	及川講師	及川講師	及川講師	戸倉講師
二十五日(水)	新庄講師	新庄講師	及川講師	及川講師	及川講師	戸倉講師
二十六日(木)	倉橋講師	倉橋講師	及川講師	及川講師	及川講師	倉橋講師(質疑應答)
二十七日(金)	倉橋講師	倉橋講師	倉橋講師	倉橋講師	閉會式	

講師諸先生方のあの御熱心な御導きをこゝに皆様と御一緒にあらためて厚く感謝致し度いと思ひます。尙質疑應答の速記は都合上次號にまわしました故御承知下さいませ。

研究欄

園外保育に就いて

東京市鐵砲洲
幼稚園保母

穂積篤子

であります。

東京の様に賑やかな所では、どこの幼稚園でも園外保育の必要を痛切にお感じになつて居られる事と思ひますが、私の幼稚園では特に此の必要に迫られて居ります。

第一には、幼児に適した遊び場所が少ない事。

第二には、幼児の身體が非常に弱いことであります。

住居等を見ましても、裏通り等はじめくした空氣の中や、汚い埃箱の側等、實にみじめなものであります。

かう云ふ場所に住んで居る爲に顔色は悪く、吹けば飛ぶ様な弱い埃箱の側等、實にみじめなものであります。

従つて精神狀態も、明るい晴れやかな點が少なく、そして粗暴

一口に申せばスナホな無邪氣さが無いと言つて宜しいでせう。でありますから、健康増進の點から、塵埃のない日光を浴びる事が大切であります。

又田舎の子供達が、山に野原に、川に森に、明るい日光や、さわやかな空氣の中に、自由自在にかけまはつて居るのに比べまして、遊び場所のない子供は、ほんとうにかはいさうです。

子供達は幼稚園には入つてから、だん／＼明るくなつて無邪氣に遊んで居りますが、これとても決して充分に満足と與へる事が出来ませんので、此の二つの點から園外保育の必要を痛切に感じ

て居るのでございます。

扱て此の園外保育の方法は交通機關に依るものと、徒歩で行ふものと、二つに分けて居ります。第一の方は年十回行ひます豫定で、其の内年二回は、保護者も一緒に参りまして、幼児と行動を共に致します。

遠足の楽しみと、心得とを母親にも味はせたい爲です。

其の場合には、職員が引卒致します。

此の場合多くは貸切自動車を用ひます。

此の貸切自動車は、費用の點や、距離の關係から不便なことがありますので、自動車を用了した所、大變便利でありました。

自動車に乗ります時には、初めに組分けをしておきます。

一臺に十五人位乗車出來ますが、初めの五人は靴を脱いで後の座席に上り、後向きになります。次の五人は後の座席に腰をかけた後の五人は補助席を出さずにその場所に立ちます。一臺の自動車に職員が一名宛乗りますが、これは助手臺でも、又は後の座席でもよいと思ひます。

始め一二回は多少乗降に混雜を見ましたが、馴れると極めて迅速に整然と行はれます。

速力は十哩から、十五哩を守れば、危険はないと思ひます。

時間は舊市内位の距離であれば、乗車時間が三十分以内で行かれますから、特に自動車に乗つた爲に病氣に罹つたとか、疲れたと云ふ様なことはありませんでした。

次は携帯品であります。

子供には、各自ランドセルがありますから、其の中におべんと、これは梅干を入れたおにぎり、とお菓子はキャラメル小一個と定めて、食物はそれ以外絶対に持たせません。

水筒は必ず各自に持たせます。

初めの中は、中々守れませんでした、此の頃はみな馴れて來て、よくお約束を守る様になりました。

職員も食物は同じであります。

よく見聞きすることありますが、職員がお晝には茶店等に着りこんで、色々な食物を注文して、丸で物見遊山に來たかの様にして居るものもあるさうであります、以ての外だと思ひます。

どこまでも子供と共に愉快に、楽しく行つて差別等はつけないと思ひます。

私の處では茶店には寄りません、草の上や木の蔭で食事を致します。小學校の方が全部さう致して居りますので、幼稚園でもその方針に致して居ります。

次は経費であります。

其の一は區費、其の二は保護者會費、其の三は有志遠足會と云ふ名稱で行ひます。

一回拾錢以内の費用を集めて、希望者だけを連れて参ります。

これは午前中だけでお歸りをして、午後から出かけることにして居ります。

度々致しますので、其の時は缺席しても、次の時には参加致します。

これは人數が少ないので、のんびりと遠足する事が出来ます。

今迄實施しました所は、距離は平均九軒餘り、費用は七圓餘り、一人當約拾貳錢になつて居ります。此の費用は大半が交通費で多少雜費の含まれて居る時もあります。

以上は交通機關に依つて行ふ方法であります。第二は徒歩で行ふ園外保育であります。此の場合には必ず實地踏査をして傳染病其の他の危険のない様、詳細に調査して實施しております。幼稚園の中が餘り廣くありませんので、幼稚園の前にあります鐵砲洲公園には、毎日雨さへ降らなければ出かけて居ります。

又足な丈夫にする爲と、社會教育の立場から努めて、徒歩遠足を行つて居ります。

回数は定つて居りませんが、かなり度々行ひました。目的地は小公園か、河べりか、廣場でありまして、遠い所では二重橋、坂本公園等に参りましたが坂本公園位の距離でしたら、年少組でも往復歩いて、別に無理はない様であります。

兎に角町の中を歩くのでありますから、交通には特に注意を致します。交番の前では、警官に頼んで交通整理をして貰ひます。

又成るべく信號機のある所を通る様に致しますが、信號機のない時には、豫め交通整理係を定めておきまして、其の保姆が全責任をもつてそれに當ります。

此徒歩遠足は歩くことによつて、全身の活力が盛んになりますので、身體を丈夫にするには大變よい方法だと思つて居ります。勿論、軟かい土の上を歩ければ、一番理想的でありますけれども、都會に住んで居りましては、無理なことであります。

以上は私の幼稚園で行つて居ります園外保育であります。私共はあの鐵砲洲と云ふ土地に、又鐵砲洲の現在の幼兒に適した方法で行ひたいと云ふことを常に念じ、そして將來はあの幼兒を立派な日本人に仕上げることを願つて居る次第であります。

終りに幼兒郊外園について一言申し上げます。

私たちは費用の關係で餘り度々郊外に出ることは不可能でござ

います。それで平常、小公園をも少し、子供達の爲の設備をして頂けたらどんなにいいかと思つて居りました。これは一般の子供達への希望にもなるわけですが、例へば砂利の敷いてある、あの廣場を全部芝生にして跣足で思ふ存分遊べる様に出來たら、又、花壇を拵へて交代で世話をするとか、又は夏の暑い日には、プー

ル、雨の日には屋内の遊び場などがあつたら等と、空想を描いて居つた譯ですが、この幼児郊外園については大層結構な御計畫と存じますので、是非、是非實現の出來ます様、皆様の御協力、御賛成を特に御願ひ申上げる次第であります。

特殊幼兒の保育と其誘導法

東京市中之町小學校
附屬 幼稚園

齋 藤 小 靜

天真爛漫の子供の前に立つ大人の態度及言葉は、どんなに大切なものでありませう。子供はそのふれあふ人の心によつて、第二の個性をつくらせらるゝものであります。其の直接の責任者は誰でありませうか、即ち女性であり、又母性でなければなりません。いかに理想の高い學者でも書物の上の理論や空想は決して効をなすものではありません。其の結果に於て却つて不成功に終る例がたくさん見受けられます。幸に私共は其の尊い使命を受けて生れてまゐりました。然も我子のみか大切な皆様のお子供をお預り致す大任を帯びましたことを感謝し、更に研究し以つて尊き使命を全うしなければなりません。

此度保育研究發表會にお聆しき私も其一人に入れていたゞき、お話を申しましたことを更に幼兒教育に發表するやうとのお言葉にて、一筆書かせていたゞく次第で、淺學の私共は研究なんてお恥しきことでございますが、唯今迄實際に取扱ひましたお子様につき其の苦心談とでも申ませうか、私の子供に對する心持を少しお話させていたゞきたいと存じます。

一、我儘な子供につきて、

例、男の子

性質、我儘、乳暴、落着がない
手が早い、叱つたら狂暴、

方法

(イ)幼稚園と家庭とは充分なる連絡をとること。

(ロ)家庭の者が根本的に態度をかへること。

(ハ)一日に必ず幾度かの我儘が起る、其の起り所が違ふそれをよく母親は観察する。

(ニ)静かな時にいろ／＼と論じてやること、お話やお畫描にて誘くこと。

(ホ)子供なりに批判的にはたらかせてやること、どんな子供でも判断力はあるから。

(ヘ)母親の正しいほめ方、心から喜んでやること。

以上は要項だけを書きましたが、今から五年前或お祖母様につられて右の男の子が入園されました。私は一目見た時から神経質の子供だ、なか／＼保育の困難な子供だと思ひました。だん／＼観察致しますと實に我儘な子供でお話になりません。そこで御家庭の者と相談をして、右の方法によつていろ／＼とお世話致します。實にはじめは亂暴で何か腹の立つことがあると約三十分は一人であべれますので誰もかまはないで一人であべたいだけあべれさせて置きます。無論お祖母様もおつきそひをしてなられます。

四〇

他の園児達もあまり異つて居りますので、却つて珍らしくそはへはちつともよりつきません。又さしてそれが悪い影響を及ぼすこともありません、然し保姆はたへす注意して同情ある言葉を與へ可哀想なお友達だからといふやうに眞心を以て話せば決して他の園児には心配はありません。却つて友愛といふ觀念が保育されるわけであります。一度共同生活の此の幼稚園に入つては今迄一人天下の家庭の我儘は行はれるものではありません。そこでいふとはなしに、三十分あばれて居たものが三四日たつと二十分になり、又十分になりといふやうに、だん／＼青筋立てゝゐた神経はおだやかになつてまゐりました。二三月後は、完全によく終りには普通の子供以上に眞面目な子供になつて、私も家庭の方も非常に喜んで居りましたが、不幸にも或る事情の元に轉居なさるやうになり、又々他の幼稚園へ御入園になりましたところ、又はじめのやうな亂暴がはじまつて先生も御父兄もお困りになつたといふことを伺ひました時、私はほんとに残念に思ひました。然し御退園の際ぜひ宗教方面の幼稚園へでも御入れになつた方がよいかも知れないと申してをきましたので、宗教方面の幼稚園にお入れになりましたのでやがてはあたくかい先生の愛の下に立派なお子様になられるだろうと存じて居ります。終りに一言申す、なやみ

の多い此人世には此の小さな幼児にも多大の影響がありました。

此の子供は可哀想に、お母様がありませんでした。今のお母様は二度目のお母様でした。然し此のお母様は實によい若いお母様でした。あまりに狂暴な此の子供をどうかしてよい子にしたいと思ふ一念で、幼稚園へ入園させたのでした。なまの仲のむづかしい子供を育てる母性愛、これほど困難なものはありませんまい。私はどうかして立派なお母様のお役目を果させてあげたい、又一つにはやさしい、すなほの子供にしてあげたい、それが私の一つ願ひであり又研究でありましたが、幸に成功に終りお母様も涙を流してお喜び下さいましたがお別れをしなければならなくなつて残念でした。今もどうして居られるか私は一日も忘れたことはありません。

二、共同生活に入り得ない幼児につきて、

方法

(イ) 快活な幼児及親切な幼児とは失敗に終る。

(ロ) 病氣缺席せる幼児の出席を機會に結びつける。

(ハ) お互に自信をかんじて助け合ひ遂に成功す。

これも又どうしてもたのしく共同生活に入ることが出來ず、いろいろと致しましたが、やつぱり淋しく一人ぼっちです。そこで

右の方法で致しましたが、(イ)の方法では失敗に終りましたのでたま／＼病氣缺席して居た一人の子供が、登園いたしましたので仲よくお遊びしてあげて頂戴と、二人を呼んで申ましたところ、お互に子供なりに淋しい氣持がびつたり合つたと見えて、仲よく遊ぶやうになりました。子供といふものは一寸した機會が大切だとつく／＼思ひました。

三、偏食につきて、

例、少量の御飯、パン、ウヅラ豆

方法

(イ) 家庭とよく連絡をとる、

(ロ) 兵隊さんのお話

どうも御飯も多く食べないしお辨當には主にパンを持つてくるそこでお母様に御注意して、成るべくお辨當には御飯をもたせることといふことにしましたところどうも少量で副食物が又とても偏食で、甘いものを好み、ウヅラ豆などが多くこれでも困ると思ひ、又御相談して家庭でもなか／＼御注意がといていろ／＼少しづつ入れてくるやうになりました。ところが御飯をどうしても残すくせがありますので或時日本の人はえらい兵隊さんにならねばならない、それには兵隊さんは何んでも多くさん食べる、こと

に御飯はのこさずたくさんたべる、僕も今に兵隊さんのやうにえらくならなければいけないからと申しましたところ、大變によく其の言葉がお藥のやうにきいたと見えて、それからよく食べるやうになりました。

四、母親の言葉につきて、

例、(イ)勝氣な母親の一言

(ロ)優しき母親の一言

(ハ)不用意なる母親の言葉態度はやがて第二の天性をつくる。

(ニ)叱責するよりも善導、非難するよりも獎勵、

さて最後にお母様のお言葉、即ち保姆の言葉といふことについて述べさせていただきます。只今尋常五年生になりました本校に在學してゐる子供が幼稚園に居りました時のことです。どうしたことが負けざらひで何か一寸したことですぐに手をあげてぶちます、そして喧嘩を致します、あまり時々致しますので、或日私は話しました、「人にぶたれても我慢する子供がほんとうに強い子供だ、決してぶち返してはならない」と申て居りましたところがいつのまにおいでになつたか、私の後にお母様がきてなられました、子供の歸へりました後に、さて先生、私は大變悪い事をして

居りました。實は幼稚園でどうも喧嘩をするといふことをきゝましたから、今日見にまゐりましたら、ほんとうに宅の子供が悪いことが分りました。此の子は小さい時誠に意氣地のない子で外へ行けばすぐ泣いてくるぶたれてくる、あんまり私は腹が立つのでぶたれたなればぶち返してこい、負けて歸る弱蟲はだめだと申して育てました。今其私の申しました習慣がはつきりと性質となつて此の共同生活の第一歩に現れたのであります。ほんとに親の不注意心得ちがひはおそろしいものでありますと申されました。

今一人の例は只今現在御立派な先生になつて多くの方々を御指導になつて居らるゝお方でありまして、私も其導いていたゞいて居る一人でありますが、お小さい時非常に氣の荒い我儘なお子様であつて或夜何に立腹されたのかお庭の眞中へ大の字に寝ころがつて、手にはきれいなものをもつて、誰かよつてくれば投げつけてやるうと思つてまつておられました。お姉様達はお母様に大變ですこれ〴〵ですから今側へいつてはいけませんよと申されました。お母様はどれ〴〵と氣輕にお縁側に来て出でいらつして、其様子をみて「例へばお名前を一郎さんといたしませう」、「今一郎さんは星を眺めてゐる、星を眺める子供は心のやさしい良い子だ、お母様もお星様は大好きだ、みんな一郎さんのお邪覺をしないでおきな

「星を見る子は心のやさしい良い子だ」との一言に不思議な程喜びをかんじました。今度は本氣になつて美しいお空を眺めました。

田舎の夜の静かな眞黒な空に無數の美しい星のカーヤきは又一しほの神秘的なものでした。先刻迄怒つていた悪い自分の心はだんだんと恐ろしいやうなきもちになり急に不安になつて飛び起きながら母の許にかけて行つて、「お母様御免なさい」とお詫びされました。お母様は「やつぱりお前はやさしい良い子だね」といつて一郎さんを赦してくださいました。その後一郎さんの心は次第に荒立たなくなり、一方また星を眺めることが大好きになられました。私はたへず此のお母様のお導きなされた注意深い態度や言葉に感服したして居ります。

そこで今迄申しました二人のお母様及お子供について、お互に考へて見たいと思ひます。

母の不注意な言葉より生れ出づる幼児の行爲、それにひきかへ充分理解あるお世様の態度及び言葉はこんなにも結果が違ひませうか、すべて子供は叱責するよりも善導、非難するよりも獎勵が、どんなに教育上有效なものであるかは此の實例をおきゝになつてもおわかりと思ひます。

以上は私の團の出來事や、私の絶えず尊敬して居る或る先生のお母様のお話を書かせていただいた次第でございますが、私共が實際に保育いたして居ります際なかゝ適當な言葉や態度はほとんど注意して居ても、でないのではありません。ほんとうに其の人の努力と、修養とによつて磨きあげられた時に現はされるものだと思ひます。絶えず家庭と相談協力一致し以つて惠まれし幼児を見いださなければなりません。幸に女性であり母性である使命を與へられた私共は充分なる「努力と、研究と、修養」とを怠らず専心此の道に精進いたそうではありませんか。

さわやかな風、冴えた空、透徹の、そしてみのりの秋がまわりました。

夏中、朝鮮に、關西地方に、東京に、講演をつらけていらした倉橋主幹には、八月下旬から、燃の聲もやさしい靜かな高原輕井澤にしばし御休養なさつて居られました。此の程お元氣に歸京され、もうあのニコニコで毎日御活動なさつていらつしやいます。

皆様にも、お休中各方面にお貯へになりましたエネルギーをもつて御活躍の事と存じます。御研究をどうぞ澤山おきかせ下さいます様お願い申し上げます。

(編輯部)

感じたまゝ

佐久間重代

四四

幼児教育誌から何か記せと、申されましたが、別に新らしい考へも、ありませんから、自分の事を記しますも、おこがましい次第で御座いますが、私の實際経験致しまして、感じました事を申上て見ませう。

人には様々の癖があります。なくて七癖とやら申しまして、その癖は接近する幼児に、一番染りやすいから、保育者は、十分の注意が必要であるといふ事を、先生方の講演でも承はり、又保育に關する書籍などにも、教へらるゝ事で御座いますが、私自身には、常に別に悪い癖などは、少しもなきものと、安心致して居りました處。約十年餘も前、園の年長組の(遊戲)を致しました時の事です、常によく注意して、上手に致します幼児が、變な足つきを致しますので、幾度も正してみました、なか／＼なほりません、どうした事かと、私は考へましたが、これは自分があのやうな、足つきをするのではないかしらんと、宅へ歸つて幾度もその遊戲を繰返して、やつて居るうちに、自分の足が内輪であつた事に、氣がつかしました。それから後は、一と足歩くにも、内輪をなほす事に、専心注意を致しました處、三ヶ月ほどの後やうやく

矯正する事が出来ました。一度間違つて受け入れられた事は、なか／＼なほすのに、骨の折れるもので御座います、これまで自分では一向氣付かず、一と角よいと思つて居りました事も、此の様な氣づかぬ癖の爲めに、幼児に迄悪影響を及ぼし、誠に申譯のない事と、すまなく思ひました。御承知の通り、幼児は、模倣性にとんで居りますから、善きにつけ、惡きにつけ、すぐに見つけて模倣すると言ふ事を其の時、痛切に體驗致しました。此の外面的に、現はれた事は、すぐ氣付きて、矯正する事が出来ますが、精神上で、感得されました事は、このやうに、早く目の前に、現はれて参りませんから、是は一層大切の注意を要する事と思ひます。自分の事を、省みますと、總べての點に於て、保姆として、不完全の者で、折角與へられた使命に對し、斯くては餘りに、不甲斐なき事と自覺し、此の上は、更に／＼精神的方面の修養をもつとうとして奮勵努力保育に、従事致されば、我が使命に、對しても申譯ないと思ひまして、大いに修養の必要なる事を感じました。時今非常時に直面して將來の日本國民たるべき幼児を一層よりふき人として、育てあげなければ、ならぬと思つて居ります。

動物
童話

麒麟と野牛の對話

濱 田 格

バイソン(野牛)がアメリカから初めて上野の動物園に來た頃の事でした。

何しろバイソンは北アメリカだけにしか居ない動物で、日本では初めて見る珍らしい動物ですから、最初の間は毎日朝から夕方まで引つきりなしに一杯の見物人でした。それにバイソンの方も初めての場所ですからすつかり面喰つてしまひまして、毎日たゞウロウロウロばかりして居ました。

處が四五日もたつて、大分慣れて落ち付いて來た或日の夜明け方でした。まだ見物人は一人も参りません。バイソンは朝のすがすがしい風をからだ一杯に受けながら、のっそり柵の真ん中あたりまで出て参りました。

『さて、此處の動物園は一體どんな景色なのかな。まだゆつくり眺めるひまもなかつたぞ。』

なごゝあたりを眺め廻して居ましたが、

『おやッ』

俄かにバイソンは吃驚して飛び上つてしまひました。

『ウワーツ。ありや何だッ!』

がつきりミ四つ足を踏ん張つて、首を低く下げて身構えたのも無理はありません。筋向ふの廣い檻の中から、恐ろしく背の高い動物が、まるで電信柱みたいな長い首をぐつミ伸ばして遙か上の方からバイソンを見下して居るではありませんか。バイソンは生れて初めてこんな細高い動物を見たのです。

『おい!そこに居る背高のつぼ!貴様は一體何者だ!』
ミ大聲で怒鳴りました。

するゝ電信柱の先の顔がニコニコ笑ひ出して、

『私はデラフ(麒麟)ですよ。初めてお目に掛ります。あな

たはバイソンさんでしたね。お早う御座います』

『おやく。のつぽの割合にはひさく物優しいね。……僕は初めて君のやうな背の高い動物を見たものだから、今にも頭の上から飛びかゝつて来るんぢやないかミ吃驚したんだよ。怒鳴りつけたりして失敬々々』

『はッははは……私は決して他の動物に飛びかゝつて行くなんて事は致しません。何しろ動物の中では一番優しいたちで、皆さんが私の事を『動物の紳士』だミ仰しやる位ですからね』

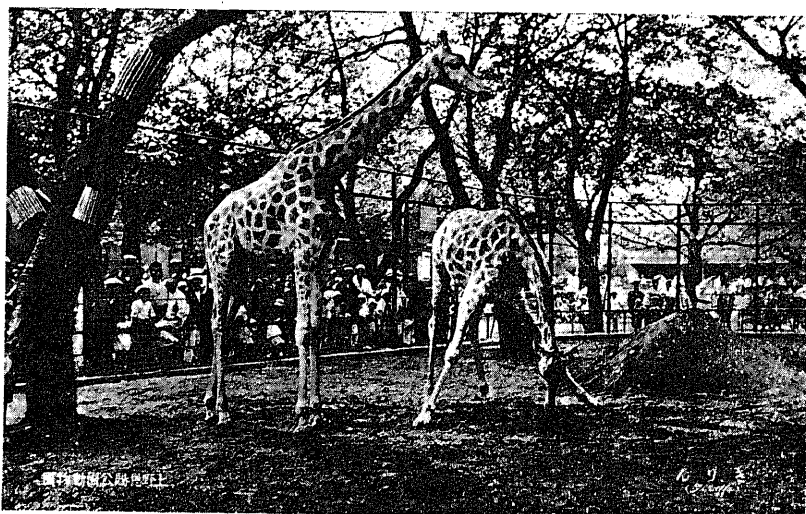
『成程ね。さう云はれて見るミ君は見た處却々上品な紳士らしいな』。第一スラリミ伸びたからだつきがミても上品だ。それに著て居る著物だつて何て美しいんだらう。黄色の地に美事な石垣型の黒い模様が一面について居て。實に奇麗ぢやないか』

『そんなに褒められるミ恥かしくなりますね。……だけき私の尾の處から背中へだんだん高くなつて行つて、そのまゝ首へ頭へミスツミ斜に上へ伸び上つた線の美しさは、一寸自分ながら他に類がないだらうミ自慢なんですよ』

『ほんミだ。まるで飛行機を射つ高射砲みたいだね。そこへ行くミ、さうだね僕の恰好は。色は黒茶の汚らしい毛がふさ／＼生えて居るだけだが、ぎつしりミ固く丸まつた形は、まあ装甲戦車だナア』

『全くタンクですね。首が思ひ切り太くて短かくて、もくもくミ背中の方へ盛り上つた處なんか、何ミ強さうなんですやう』

『強いには強いさ。首の力ならライオンにだつて負けないつもりだ。いつだかアメリカの山奥の野ツ原で僕達が遊んでるミ馬に乗つた人間がミこからか不意に出て來てね、何でもカウボーイミか云ふ馬乗りミ投繩のミてもうまい人間さ。それがいきなり投繩で僕達を生捕にしようミしたんだ。するミ仲間の一匹がすつかり怒つちやつてね、かう云ふ工合に頭を地べたへすり付けるやうにして猛烈な勢で突撃したんだ。するミさうだらう、此のぐつミ曲つた二本の大きな角に馬の横つ腹を引つ掛けたミ思つたら、いきなりブーンミはね飛ばしたんだ。……驚いたね。人間を乗せたまゝで馬が十米も空中へ跳ねミばされて、二十米程先の地



べたへ叩きつけられてしまったんだ』

『ほほう！すごい力ですね。…何て荒つぽい事をするんでせう。…だのにあなたは大地べたに寝そべつてばかり居て、いつもギツチラ／＼何か口の中で嚙んで居ますね。チューインガムでも食べて居るんですか』

『チューインガム？、冗談ぢやない。いくら僕がアメリカ生れだつてチューインガムなんか食べないさ。僕は野原の草ばかり食べて生きて居るんだ。寝そべつて口をモグ／＼やつて居るのは、あれは僕が反芻動物だからなんだよ。つまり一旦草を食べ始めるゝ大急ぎで良く嚙ますに胃囊の中へぎし／＼嚙み込んでしまふんだ。そしてひまな時にゆつくり又胃の中から口の中まで吐き出して、今度は充分よく嚙みなほして又胃の中へのみ込むんだよ。これを反芻動物云つてね、牛も鹿もさうだし又…』

『一寸待つて下さい。反芻動物云へば、實は私も同じ反芻動物ですよ。』

『えッ？君も？驚いたなア。その長い長い首でかい？…胃囊から口まで返つてゐるのに三日もかゝりさうだなア…』

それぢやなんだね、君も僕も同じ反芻動物ならつまり同類ぢやないか』

『さうですね。まア兄弟みたいなものですね』

『いやこれは呆れた。さんでもない兄弟に廻り合つたものだ。さう云へば君の脚は一寸見には馬の脚とてよく似て居るが、蹄が二つに割れて居る處は牛と同じだね。僕も蹄が二つに割れて居るんだから、これも同類だ』

『いよく兄弟ですね。高射砲ミタンクなら兄弟でもいゝでせう』

『わツはッははは……兄弟にしては、さうも似ても似つかぬ兄弟だなア』

『しかし角はあなたと私と全く違ひますよ』

『ウム、さうも違ふらしいね』

『あなたの角は本當の角で、牛や鹿なごと同様に別に生えて来る角でせう。處が私のは骨が突き出して居るので、ちやんミ皮をかぶつて毛が生えて居るんですよ。だから本當の角ではなく、まア云はゞ頭の飾ですね』

『なる程ね。道理で行儀よく二本真直ぐに揃つて竝んでる

ミ思つた。それにしても君の首はさう考へても長過ぎやしないかなア。そんな長い首を振り立てゝ歩き廻つたら、さぞ首がだるくなるだらうミ心配だよ』

『はッはは、……なアに生れた時からですもの、慣れつこになつて居ますから何ミありませんよ。御安心下さい』

『さうかなア。一體君の頭のとつぺんまで高さがどの位あるかね』

『今の處四米半位のものですが、私は年がまだ五歳ですから、もつミ伸びるミ思ひますよ。私達仲間には六米もあるのがいくらか居るんですよ』

『大したものだね。世界中で一番背の高い動物が君達なんだらうなア』

『さうです。でも高ければ高い程都合がいゝのです。生れ故郷では私達はいつともこんもり繁つた雑木林の中で暮して居て、木の葉や木の芽を食べて生きて居るんです。だから首が長くないミ高い枝の葉が食べられないでせう。高ければ高い程上の方まで達たついて澤山食べられるわけですよ。』

それから私の此の長い舌を一寸見て下さい。ほらね……』。

『何だ眞つ黒けの舌だね』。

『黒いけぞ長さは一尺程もありませう。これが又自由自在にどちらへでもクル／＼とひつくり返つたり巻きついたりするんです。これで棘のある枝からでも棘に刺されずにうまく葉だけでもいで食べられるんです』。

『だけぞ君、高い處はそれでいゝが、その首では地べたの草を食べる時困るだらう』。

『處が私は地べたの草は一切食べません。たゞ水を飲む時だけは、俯向かなくてはなりません。その時はほんゝに閉口ですね。だから前脚を兩方に廣く開いて、それからぐうツミ首を降します。さて水を飲んでしまつたら、やつミこさミ又四米上まで首を持ち上げて兩方の前脚を引き寄せるミ云ふ事になるのです。だのに此處の動物園では見物の子供達がキャラメルなんかを投げ込んでくれるでせう。これを食べるのはミても億劫なんですよ。折角投げ込んでくれたんだから拾つて食べないミ氣の毒だミ思つて我慢して食べますがね。困るんです。それに私はミこ／＼木の葉の様

なものばかり食べて居る動物ですから、飴でかためたキャラメルなんか食べ過ぎるミ直ぐお腹を悪くしてしまひます。柵の外にちやんミ餌をやらぬ事つて札に書いてあるんですから、あれだけは止めて頂き度いミ思ひますね』。

『さうだ／＼。僕だつて草ばかり食べてる動物だらう。それなのに此の間なんか見物人が鹽せんべをやたらに投げ込むんだよ。そんな物僕達が食つたつてうまくもなんミもありやしないから睨み付けてやつた。むやみなものはくれない方がいゝね。ツイ食べて見るミあミでお腹を悪くして困るよ。米を食べる人間の子供に僕達の食べる枯草でも食べさして御覽、直ぐ病氣だ。同じ事ぢやないか。ねえ君さうだらう』。

『全くさうですミも。慣れない物を食べるのが一番からだに悪いやうですね。……處でバイソンさんは此處の動物園では、みんな物を食べさして貰つて居るんですか』。

『僕はい。僕はこんなからだ付きこそ肥つて居て荒らくれて居るが、食べるものは至つてお粗末ですむんだよ。燕麥ミ麩ミ乾草ミで一日二貫目位、金高にして四五十錢

位のものさ。君は何を食べてるんだい。』

『私は随分色々なものを貰つて居ますよ。乾草燕麥はあな
たと同じですが、その外に馬鈴薯、人參、玉葱、アカシア
の葉、木の皮、それからまだ牛乳ミオートミルなんかです。
何でも一日に二圓位かゝるつて云つてましたよ。』

『すごいね君は。飛んでもなく贅澤なものを食べてるぢや
ないか。牛乳からオートミルまで食べるなんて、どこまで
も君はお上品な紳士様だなア。そんなに色々うまい物を食
べてる君は一體何處の産れなんだい。』

『あ、さうく。私の生れ故郷を申し上げるのを忘れて居
ましたね。私の生れはアフリカの真ん中あたりなんです
よ。丁度サワラ大沙漠の南側の處で、チャッド地方ミ云ふ
處があります。そこだけが私達の棲んでる處で、ずっと昔
はエジプトあたりにも居たらしいのですが、今ではチャッ
ド地方だけしか居りません。』

『ふーん。そんな田舎かい。その割には奇麗で上品ぢやな
いか。……だがあの邊はライオンが出て来やしないかい。』
『時々現はれますね。ごうかするミ私共の棲んでる林の中

なミへ忍び込んで来て私達を食べようミするんですよ。』

『そんな時君はごうする。』

『そんな時に、此の長い首ミからだの模様ミ長い脚ミが大
變役に立つんですよ。第一背が高いから遙か遠方まで見透
しが利きませう。だからずつミ向ふからライオンがのその



そ近づいて来るのが直ぐ見付かるんです。するミ私共は忽
ち木ミ木の繁り合つた間へ真直ぐに立つて、ズツと動かな
いで居るんです。その時此のからだの模様が例の保護色ミ
云ふわけで、つまり、あたりの木や枝の影ミ同じ事に見え
て、動きさへしなければ、チツトも見分けがつかないので

す。

『さうかなア』。

『それでも、さうも危くなつたと思つたら今度は、此の脚で逃げ出さんです。御覽なさい、こんなに長い脚でせう、そりやこても早いのですよ。丁度競馬の馬が、走るやうにギャロップミ云ふ走り方で駆け出さんですが、走り始めたらもうどんな動物だつて私には追付けませんね』。

『さうだらうなア。脚は思ひ切り長いし、その割に胸が小さくて軽いし、それにその長い首だつて丁度飛行機の支柱のやうに前ミ後がうすくミがつて居て風切りがいゝからなア。僕なんかみたいに重つくるしくはないものね。……で、一體ミの位の早やさで走るかね』。

『さうですね。一時間さつミ四十哩位の早さですね』。

『ウワーすごい。それぢや市内を走つてる自動車よりも早やいぢやないか』。

『ボロ圓タクよりはさつミ早やいですミも。それに此の通りからだが細長いでせう。だから幅一米さへあれば木ミ木の間でも、自由にさるゝかけ抜けて行けるんですよ』。

……あなたは走れますか』。

『そりや君にはこてもかなわないが、これでも案外早いんだよ。砂煙りを捲き上げて大平原を一直線に走る時は馬よりもさつミ早いんだよ。誰でも僕の事を「野牛」だなんて牛の仲間みたいに云ふが、そりや仲間には仲間かも知れないが、僕はあんなにのそのそはして居ないさ。さつミ活潑だよ。それから一寸自慢の出来るのは飛び上ることさ。こてもうまい事だ。此の丸々した重いからだで、ミ君は思ふだらうが、僕達の仲間には時々四米程も飛び上る力を持つてるのが居るよ。君の頭位だつたらピョンミ飛び越すかも知れないね』。

『それは又驚いたものですね。やつぱり馬ミ人ミを一緒に十米も跳ね飛ばす程の力があるからでせうよ。……私はこてもそんなには飛ばない。でも此の脚の力だつて馬鹿にはなりませんよ。いつだか私の友達が逃げ損なつてライオンに追ひつめられてしまつた時なんか、さうゝ最後の力を揮つたわけですね。いきなり前脚を高く持ち上げて續け様にガンガン——ミライオンの頭を目かけて叩きつけたんで

す。これをやられるミ大抵のライオンでも一度はひつくり返ります。するミその友達はライオンがごしんミ屍餅をついた處を目掛けて今度は後脚で馬みたいにガーンミ力限り蹴飛ばしたんです。そしたらあなた、ライオンがウーンミ云つたぎり延びちやつたちやありませんか。よく見るミライオンの横つ腹に穴があいて居たんですよ。『こりや驚いた。して見るミ君達仲間はそれで居て却々強いのだね。それちや僕の仲間が馬を跳ね飛ばしたのもあんまり自慢にはならないや』。

『いやそんなのは、餘程の時の事で、私達は大抵逃けてばかり居ます。それからもう一つ申し上げて置き度い事は私には聲帯が無いミ云ふ珍らしい事です』。

『エ？聲帯？何だいそれは？』。

『聲帯ミ云ふのは、喉の處にある聲を出す器官ですよ。つまり肺から出す呼吸^{いき}が此の聲帯ミ云ふものに當つてこれをふるわせて聲が出るんですが、私にはその聲帯がありませんから聲は一つも出ないのです。まア啞ですね。だから大變物靜かで、餘計に人々が私をやさしい動物、上品な動物

そして動物の紳士なミ考へるのだらうミ思ひます』。

『なる程ね。君は聲帯がないのか。……しかし上品で紳士らしい處のあるのは、さうしても本當だよ……だがさう考へても不思議だなア……』。

『何が不思議ですか』。

『いや何、その、いゝかね。アフリカミ云へば世界中での一番未開な野蠻な土地させられて居る處だらう。そんな野蠻な處に君のやうな上品な紳士らしい動物が居て、あべこべに文明の一番進んでる處みたいに云はれてる北アメリカに僕みたいな、さう見ても野蠻で、飛んでもない暴れん坊が居るなんて……不思議ぢやないか』。

『はッはッは……さう云へばさうかも知れませんが、アフリカだつて、あなたよりもずつミひびい野蠻な暴れん坊の動物がいくらか外に居ますさ。……此次には何かそんな事でも話し合ひませうね。今日はこれで失禮致します』。

『僕もお腹が空いたから失敬するよ。さよなら』。

『さようなら』。

忽七版

東京女子高等師範學校
教授・附屬幼稚園主事

倉橋惣三先生新著

▲四六版三百餘頁頗る美本
▲口繪十六枚・插繪多數入
▲保育法の實際・實景紹介
▲定價二圓五十錢送十六錢

幼稚園 保育法と眞諦

○保育界耆宿の力作

著者は幼兒教育並に家庭教育の第一人者として曩に畏くも此點に御關心深き 兩陛下
邦第一の東京女高師附屬幼稚園主事文部省社會教育官を兼ねられ人間味豊かな人格者として定評の士である。現に本

○現代の保育法原論

本書は懇願數年初めて完成されたる新著にて、現代に於ける最も完備し且系統も保育法
原論である。倉橋先生は稀に見る純眞の教育者著書少く系統も力作は唯本書のみ。

○保育法眞諦寫眞帖

小石川に新建築の東京女高師附屬幼稚園の施設經營は世界一なりと稱さる。而して其
の建物よりもより以上優秀な新保育方法の實際に實景を寫眞さなし多數之を掲載さる

第一篇 幼稚園保育法の眞諦

一教育に於る目的と對象
二幼兒生活と幼稚園生活
三生活へ教育を
四幼兒生活の自己充實
五幼兒生活の充實指導
六幼兒生活の誘導

七幼兒生活の教導
八幼兒生活の陶冶
九幼兒の個性
十幼稚園に於る保姆の位置
第二篇 保育案の實際
一無案保育
二保育案の意義
三誘導の保育案

四保育案の採りどころ
五保育案と保育項目
六保育案立案度及徹底度
七保育案と自由遊び
八保姆の創造性
九保姆の生活性
十保姆の生活過程の實際
第三篇 幼稚園の朝
一幼稚園の朝

二自由遊びから仕事へ
三自由遊びの時間割
四生活態度による分園組
五生活態度による分園組
六流れゆく一日
七生活の偶發性
八生活の偶發性
九日々の實際生活の尊重
十おかへり

第四篇 誘導保育案の試み
一旅へ
二三人形の家の中心として
三大賣出し
四わたし達の自動車
五特急列車「うさぎ」號

〔次目内容〕

増訂 十六版
奈良女高師幼稚園主事
森川正雄先生著

幼稚園の理論及實際

價三・〇八
送・六版

奈良女高師幼稚園主事
森川正雄先生著

幼稚園の經營

價三・〇八
送・六版

東洋圖書株式會社發行

東京市神田區神保町一丁目
振替東京一〇三三七番

東京女高師教授 倉橋惣三先生 同校新庄よしこ先生共著
附屬幼稚園主事 保母 菊判四八〇頁 洋綴天金上製 定價三圓八十錢

本日幼稚園史

特色

一、二十年苦心の結晶漸く完成す 大震災にて一時頓坐更に繼續再計畫の上蒐集考察研究完成する。
二、草稿千餘枚摘捨數百整理成る 倉橋先生畢生の努力と新庄先生懸命の助力にて此の名著成る。
三、日本幼稚園史として比類なし 歴代 皇后陛下行啓の榮を得し我が國幼稚園本山の記念塔。

〔内容目次〕

第一編 沿革及施設史

- 第一章 幼稚園開設前期
- 第一節 明治文化の建設
- 第二節 幼稚園開設の機運
- 第三節 幼稚園開設
- 第一節 女子師範學校附屬幼稚園の創設
- 第二節 設立後の経過
- 第三節 開園及開業式

第三章 女子師範學校附屬幼稚園

- 第一節 創立當時の規則及學年休業日
- 第二節 建物庭園及職員
- 第三節 保育科目及保育用具
- 第四節 幼稚園參觀記及追憶
- 第四章 女子師範附屬幼稚園

第一節 行啓

- 第一節 恩物の名稱その他
- 第二節 行幸
- 第三節 保母養成機關
- 第一節 保母練習生の施設
- 第二節 保母練習生の施設
- 第一節 一日の開講(保育)
- 第二節 保育科目の恩物
- 第三節 保育科目の改正
- 第四節 博物理解

第三編 公令、功績者、保育文獻

- 第一章 功績者
- 第一節 中村正直氏
- 第二節 關信三氏
- 第三節 松野くら女史
- 第四節 豐田美雄女史
- 第五節 小西信八氏
- 第三章 保育文獻
- 第四編 其後の普及發達

六 森川正雄先生著 用 保母 教育 送・二〇三 版八
五 森川正雄先生著 託兒所 育 兒 法 送・二〇三 版八
久留島武彦先生著 幼稚園 小學校 説話 遊戯 送・二〇三 版八
久留島名話集 送・二〇三 版八

東大 京阪 東洋圖書株式會社 發兌

東京市神田區神保町一丁目・目振替東京一〇三番七番
大阪市南區堂寺町一丁目・目振替大阪三九五番六番

保育項目の實際

— 夏期講習會義速記 —

倉橋惣三

一 幼稚園と保育項目

私の本年の題目は「保育項目の實際」云ふ事になつて居ります。これは、御承知の通りの色々の保育項目に就きまして出来るだけ實際的な問題をお話して見度い、斯う計畫して居るのであります。而もその前に保育項目そのものに就きまして全體的な、又多少原論的な事を申上げて置いた方がいゝかと思ふのであります。その第一として、保育項目云ふものは幼稚園生活の中に於ては何う云ふ位置を持つて居るものであらうか、持つ可きものであらうか、云ふ事を今日は考へて置き度いのであります。

御承知の如く、幼稚園令の中には「教育の目的」が幼稚園令第一條に示してありまして、その仕方に就きましては幼稚園令の中には何も書いてありません。けれども、何も書いてない云ふ事も幼稚園の特質を現はして居る云ふ事も出来ますし、即ちさう方法的なものでない云ふ事を示して居る云ふ風にも見られますし、又一面に於きましては皆さんのお考に基きまして極く生きた日目の保育が行はれて行くものである云ふ事を意味して居るかも知られるかと思ふのであります。兎に角、幼稚園令には保育の目的を示しただけで、保育方法は一切書いてありません。幼稚園令施行規則の中に、方法に關する事が二つ出て居るのであります。一つは、施行規則の一番初めに、保育の實際を行つ

て行くに就ては、これ／＼の事に注意すべし、ミ云ふ事が擧げてあります。この注意すべしミ云ふ事は改めて讀みます迄もないと思ひますが念の爲讀んで見まするこ、

幼稚園に於ては幼稚園令第一條の旨趣を遵守して幼兒を保育すべし。幼兒の保育は其の心身發達の程度に副はしむべくその會得し難き事項を授け、又は過度の業をなさしむる事を得ず。常に幼兒の心情及行儀に注意して之を正しくせしめ又常に善良なる事例を示して之に倣はしむ可き事を務むべし。

ミ云ふ事を擧げてありまして、之は皆さんの常によく御承知の事ではありますが之を更に見ますこ、その半分は、保育方法に關する多少積極的な示し方をして居ります。「幼兒の心情及び行儀に注意して之を正しくせろ」ミか「善良なる事例を示して之に倣はして行け」ミか云ふ事は即ち何所迄も實際の生活を基として、實際の生活を示して保育して行けミ云ふ事でありまして、まあ御承知の通り積極的な示し方だミ云つてもいいかも知れませぬ。半分の方は「幼兒の保育は、その心身の發達の程度に副はせて、會得し難き事や過度の業をなさしめない様にしろ」ミ云ふ事でありまして、之は消極的に示して居るのだミ斯う申しても宜しいかと思ひます。

所でこの施行規則第一條の擧げてあります事は、或人は非常に必要な規則だミ考へる人もありますし或人は多少蛇足だミ云ふ風に思ふ人もあります。心身を健全に發達せしめ善良なる性情を涵養して、ミ云ふあの第一條の目的は、何うしても斯うなるのが當り前であります。こんな事を今更施行規則として示さなくてもいいんだ、ミ斯う云ふ風に思ふ人もある位であります。然しまあ世の中には、尤もな事は言はないミ言つたら、何も言はなくなる譯でありまして、尤もな事を言つていけないならば講習も止めてしまつた方が氣が利いて居る位でありますから、この蛇足ミ見える様な尤もな事も、世間往々にしてある非常なる誤謬に對しては或必要を持つて居るものミ言つていいかも知れませぬ。然しさうせその位の事

でありまして、或は多少積極的に示し、或は消極的に誠めて居ります位のもので、方法に就てはこの施行規則第一條が、これに一切よつて行けばいい云ふ様な意味合のものを示して居ることは見えないのであります。

次に、幼稚園令施行規則第二條に

幼稚園の保育項目は遊戲、唱歌、觀察、談話、手技等とす。

と云ふ今回私の取り上げて居りますその問題が始めてそこに出来て居ります。

之は、施行規則第一條が、保育の方法に關する外面的な事を示して居るさしますれば、第三條は、保育の方法に關する内面的な事を示して居るに斯うも云へるかと思ひます。

その三條以下は、さう云つた様な方法の事は餘り書いて居りませぬので、其所でこの保育項目と云ふものが元來保育方法を規定して居りませぬ幼稚園令及び幼稚園令施行規則の中に於て唯一の方法的な箇條である、と斯う申しても宜しいかと思ふのであります。教育の規則と云ふものは、目的さへ示せばいいのであつて、方法を一々定めない方がいゝんだと云ふ様な論法から考へますれば、この保育項目の擧げて居る事だけが保育の方法を規則で多少縛つて居る様な感じも與へるのであります。けれども第二條即ち保育項目の列擧がしてありませぬければ、幼稚園の中では實に何等の規定と云ふものが與へられないで行はれて行く様な形になるのであります。この保育項目が擧げてあります所に何もなく、幼稚園では斯う云ふ風な事をするんだとか、或はしなければならぬとか云つた様な規定的な性質を帯びて來るのであります。そこでその規定的な性質をこの第二條が持つて居りますので、或人は大變に之に規定されます。殊におやさしき……言ひ換へれば氣の小さい人は之に大變規定される。規則の方では規定する積りで言つて居るか何うか別問題であります。規則面から言ひまして大變規定されてある。保育項目を毎日その通りに缺かす事なくやつて行かなければこの規則に反する様にお考

へになる方も出ましたり、或はこれ以外の事は實際、してはならぬものだ云ふ風にお考へになる方が出ましたり、それ等を綜合して、之さへやつて居れば保育だ云ふ風にお考へになる方が出ましたり、多くは、さう云ふ様にこの保育項目を氣になすつてお出でになる方が少くないのであります。中にはこの氣の小さい反對で、氣の大きい言ひますか……幼稚園をやつて居乍ら幼稚園令を一度も讀んだ事がない云ふ様な大膽な方もおありになります。況んや施行規則の如きは吾關せず焉、云ふ様な、天馬空を行く云つた様な勇敢な方等は斯う云ふ問題を殆ど考慮なさいませぬで、保育項目なご云ふものがあつたか、云つた様な殆ど構はない方もあります。或はその中間で、この保育項目を御覽になりました、こゝに何だか擧げてある様だ云ふ風な所で、御覽になります、元來が非常な大膽な朗らかな方でありまして、これを擧げてはあるが自分の勝手にこの中のどれでもお取りになります、私は唱歌が好きだからそれだけでやるか、私は談話が好きだからそれだけでやるか云ふ様な、丁度——私の講義には何時も食物の話が出まして意地きたないのでありますが——料理屋に行きます、そこに色々「本日の献立は何々々々」を書いてある。その中で好きなのを選んでよい様な、自由な扱ひをする方もあるのであります。

そこで兎に角、この施行規則第二條の保育項目、云ふ事は、相當はつきり突きつめて考へて置く必要があると申して宜しいかと思ひます。所でこの保育項目に就きましては、之を考へますに就て、たゞ項目じやないので、保育項目でありますから、その保育、云ふ事を何う考へるかに依て、この保育項目に對する考へ方が大層變つて參るのであります。若し之を逆さまにしまして、保育項目じやない。項目保育だ、云ふ位の自由に取つてしまつたミすれば、この項目云ふものは大變違つた意味合を持つて參ります。その保育、云ふのを何う考へるか云ふ事が多分、先決問題であると思ふのであります。

前に、この遊戲、唱歌、觀祭、談話、手技等云ふものに大變捉はれて行く方は氣の小さい方だと言つて見ましたが、こゝによりましたらば、氣が小さいのではなくして、保育云ふ事を忘れて居り、見捨てゝ居り、離れて居る人だとも言へるかも知れませぬ。遊戲、唱歌、觀祭、談話、手技云ふ、その一つ一つの價値に大變こだはりまして、折角此處に擧げて居る保育項目云ふその保育、云ふ字を見落して居る人だも申してもいゝかも知れないのである。此間も或處で私、申したのでありますが、幼稚園に居て、此處が幼稚園だ云ふ事を忘れて、一つ一つの保育項目だけを考へて居る人がさう云ふ人であります。我々、山に行きまして、其處に色々な形の木が生えて居ります。その一本々々の木を、二つの見方が出来るかと思ふ。一つの見方は、それが何處であるか云ふ事を一切離れて、たゞその山の中のその目の前にありますこの木、あの木、彼處の木、云ふもの丈を注意する行き方であります。もう一つは、一本の木も雖も、その山の中に於てその木を眺める。之は、二つの見方かと思ふ。私は仙臺の松島に見物に行きます時に、或人はその色々な松の一つ々々を抜き出して來て、この松は何う、この松は斯う、色々な私に説明する。私は、その松を離れて松島へ行つて見ようとは思ひしのでありまして、何所迄も、あの松島灣も、あの澤山の島の配置されて居る處も、その全景の中に於てのその技振りを見度いと思ふ。之を他に持つて來たら別問題であります。此處で見ればこそいゝのであります。昨日、私は或立派な建築を見ました。良いお座敷であります。そのお座敷を見ます時に、私は何所迄もその全體の建築の美を基にして見て行き度いと思ふ。その全體の建築の中に、この柱が、成程此處に置いてあるか、この置物が成程此處に置いてあるか、斯う云ふ風にして始めてその一つ々々が本當に味はへると思ふ。所がこゝによります云ふも、その全體の建築云ふ事を一切離れて了つて、頗りに其處の柱を撫で廻つて居る人があります。この柱は何で出來て居る、等言つて叩いて居る人がありますが、私は、その柱一本を見るのは、その建築の中に於ける柱を見る事とは違ふと思ふ。全體の中に於てそれを見て行く

事、全體を離れてそれ丈見て行く事は大變な違ひを生じて來るのであります。遊戲、唱歌、觀察、談話、手技云ふものを一つ抜き出して來てそれを見るか、幼稚園保育云ふ全體の中に於てのそれを見て行くか云ふ事は、之は大事な問題だと思ふのであります。言ふ迄もなく私は、保育項目は、保育云ふ中に於ての之である見度いのであります。又、見なければならぬと確信して居ります。もう一つ之を逆に申します。松島の景色は、あの一ツ々の松が集つて、あの景色を造つて居るのである譯でありませう。或は大きな一つの建築は、その柱、長押、鴨居、天井、襖、さう云ふものを集めてあの建築が出来て居るのでありませう。この論法を——大いに違ひますけれども——一寸借りて來て、保育項目から幼稚園が成立つて假に言つて見ます。松から松島が出来る。部分から建築が出来る、云ふ言ひ方にびつたり合ひませぬけれども、中にはそんな事を考へて居る人がないのでありますから、保育項目から幼稚園が出来て來るに斯うまあ、考へるにします。これはその考へ方の良い悪いは別にしまして、部分から全體が出来て來る云ふ考へ方が正しいか正しくないか云ふ様な議論は暫く別として、兎に角其處に出来て居るものを目の前に置きました場合には、頭の中で部分から全體が出来て來る道筋を辿つて見たり、建築の進んで行く模様を見て居つたりする時は別で、既に出来て居る全體を、そのものゝ前に置いて見る云ふ意味は、これは何所迄も部分から成立つて居る全體ではなくて、全體の中に於ける部分であります。これは、はつきり見なくちやならぬかと思ふ。よく、子供を松島なんかに連れて行きます。「誰がこれ一本づゝ植えたの」云ふ様な事を言ひます。随分難しい問題であります。「一本づゝ植えて集まつた。随分澤山植えたもんだね」言へば如何にも部分から長年かゝつて全體の體形が出来た云ふ事になりますが、さうかも知れませぬけれども、今の松島は兎に角あの全體が目の前にあるのであります。

保育項目を、私はそんな風な意味合から何所迄も、幼稚園の保育云ふ全體の中に於けるものとはつきり見て行かなく

りやならぬ。これはもう當り前の事だ。皆さん仰言る様な顔をしていらつしやいますが、却々さうでないのです。却々さうでない例を一つ、極く短かな手近なところで擧げて見るにしますれば、これから後に及川講師の手技の講習があります。その手技の講習をお受けになる時に（彼處に及川先生がいらつしやつて、何を言ひ出すかと思つていらつしやる様ですが）その手技の講習は、幼稚園項目としての手技だ。云ふ事を何處迄も思つて居て下さる方、幼稚園なん。云ふものは故郷遠く捨てゝ來て、此處では何處迄も紙細工、云ふ考へ方で行く方。二種あると思ふ。勿論、此處でお習ひになりました手技、之を故郷へ持つて歸つて幼稚園の中へお入れになる。ここに於ては皆さん誤りはないと思ふ。幼稚園講習の中に於ける手技は、保育項目としての手技を題目にして居るのであります。たゞ紙細工傳習所ではありませぬ。紙細工稽古所ではありませぬ。及川講師は、紙細工のお師匠様ではありませぬ。これをお習ひになりました縁日へ出よう。云ふ事になる。一寸當てはまらないかも知れない。さう云ふ事でしたら、ここにありましたら及川講師よりも、もつゝ器用で上手な、紙細工専門の御隠居が何處かにお出でになるかも知れないのであります。お晝から幼稚園協會の講習で遊戲があります。戸倉講師が遊戲をなさいますけれども、遊戲だつて、遊戲そのものとして講習の題目にされて居るのでないのであります。幼稚園云ふ全體の保育の中に於ける遊戲、云ふ事を何處迄も離れない様に云ふ事によく氣をつけて……。

遊戲傳習所、遊戲稽古所、まあ色々さう云ふのがあります。これは結構です。それはそれで結構です。私なんかもこれで却々、踊りの一つも——習ひに行くか行かぬか知りませぬけれども——習ひに行つても面白いと思ふ。私が行きます。何うも旦那は大變に器用でいらつしやる。一三年おやりになれば名取になれる。といふ話で、踊りの稽古をするのも面白いと思ふ。その踊り、保育項目としての遊戲云ふものは違ふのであります。勿論、其處で習つたものを幼稚園

へ持つて来て「私は彼處の何處の稽古場でトンミ踊つたが、幼稚園だからもう少し粗末にするよ。いゝ具合に途中で三分の一忘れて来たから丁度幼稚園らしくなつた」云ふだけの問題じやない。本當の踊りはちゃんとしたので、幼稚園ではやさしく、ミ云ふ様に考へて居るミ之は非常な間違であります。

お話の上手な人の處に習ひに來まして「お話ミは斯うするのである。エヘン」云つて斯う云ふ風に手をついてするのである「ミ言つて雄辯の術を心得て幼稚園に來て「幼稚園ではこの位にするかな」云ふ考へ方。之も私は、多くの方が多分してお出でになるミ思ふ。

松島の松を一本抜いて私の庭に寄贈して呉れる人がありましたら私は多分お斷りはしないでせう。然し之は矢張り彼處で見度いな、ミ思ひます。私の庭へ移したならば、彼處で見たあの感じはなくなつて了ふ。寧ろ、惜しいなミ思ふかも知れませぬ。

保育項目の位置

保育項目は、さう云つた意味で何處迄も保育ミ云ふ中におけるものなのです。其所で、保育ミ云ふ事を何う考へるかに依て保育項目ミ云ふ事の意味合が色々變つて参ります。保育ミ云ふ事を一切、深くも考へずして、保育項目を其日々々暮しにやつて行くミ云ふ事でありましたならば、其處は幼稚園じやなくなるミ思ふのであります。保育ミ云ふ事を何處迄も深く考へて置いて、その中に於ける保育項目の位置を正しく見付けて來るのでなければならぬ、斯う思ふのであります。

その保育ミ云ふ事を何う考へるかに就て、私は多數の皆さん方には、色々の處で色々な時、色々な方角から、こんな事をお話合をした事が多いのであらうミ思ひますが、大體ずつミ突きつめたミころを昨年の夏此處で、幼稚園協會の講習でお話をして見た。それを私が自ら名付けて「保育法の眞諦」等ミ看板だけ立派に掲げてお恥しいのでありますが、その突き

つめたきところを、何うしても子供の生活そのものを基にして……基にする所じやないも、こに迄は多くの人がなさんですけれども、……も、こにして居るが今は變へて了つた、云ふのがあるのでありますが……何時もその生活を、生活的特質に於て發揮させて置いてやつて行くのが保育の眞諦だ、斯うまあ私は突きつめて見たのであります。何か、子供の生活そのもの以外に保育云ふものがあつて、其處へ子供を入れて来るのじやなくて、子供の生活そのものの中へ保育云ふものを見付け出して行くんだ、斯う私は突きつめて見たのであります。これを長く申して居ります、昨年のお話を又此處に繰返す事になりますが、生活を基にして生活の中に保育を見出して來て、その生活を正しく手傳ふ事によつて、野放しの生活から保育せられて居る生活に變つて來るんだ、斯う突きつめて見たのであります。子供が幼稚園に來ます。門を這入つたら最後生活を離れて、保育云ふものゝ俘虜になつて了ふ、云ふ考へ方を絶対に捨てゝ見たのであります。

そこで、その生活云ふものを基にする許りじやない。始終それをたゞそのまゝにさして置いてその中で正しく生活を手傳ふ事に依て保育になる云ふ考へ方で保育云ふものを考へて來ました時に、この保育項目の位置云ふものが、或は一段と又よく考へなきやならぬものになるかも知れませぬ。子供の生活を無視して此方の目的を楯に取つて、目的を達する手段として保育項目を作つて、それを徹底して行くのが保育だ、考へるならば、保育項目云ふものゝ位置は、比較的簡単に片付いて了ひます。目的の手段として保育項目が出來て、その保育項目を子供に徹底させる、之が保育だ云ふ事にすれば、保育項目云ふものは極めて簡單な事になります。但し其時に、目的から保育項目が出て、その保育項目を子供に適用して行きます場合に、生活を無視して無理に押しつけて行くやり方はまさか誰もしませんまいから、そこで生活的にさか、生活を利用してさか、生活めかしくさか、生活らしく見せかけてさか、生活でつゝてさか、生活で誤魔化

してミかミ云ふ様な所迄は考へるのであります。私はそれをもう一つぶち壊して了つて、目的から保育項目が出来てそれの持つて行き方を生活的にするミ云ふやり方じゃなくて、初めから生活の方を徹頭徹尾本體として、その中から保育を發生させ、發生させる爲にば此方も手傳はなければならぬ、ミ斯う考へて居る。

之が昨年の私の話でありまして、そこ迄、保育ミ云ふ事を考へる時に、その中に於ける保育項目の位置ミ云ふものは何であつた、ミ云ふ事をこゝへ突きつめ度いのであります。

今迄のお話は色々な問題をボツ／＼ミ申上げましたが此處から今回のお話の本論に這入つて行くのであります。即ち保育ミ云ふものを本體にして其の保育は何處迄も子供の生活そのものである、ミ云ふ事にして、その中に於ける保育項目ミ云ふ事は何う云ふ位置を占むべきものであるか、斯う考へるのであります。若し此約束を捨て／＼了つて保育項目の一つ一つはそれ／＼何ぞや、或は遊戲を掌に載せて見、手技を摘んで引繰り返して見たり、して考へるだけの事はそんなに難しい事ではありませぬ。難つかやさしいか、今更議論しないでもいゝのであります。或はそんな事は遊戲學者、手技學者お話學者の處へ行つて聞けばいゝので、お互がお互の立場に於て特有な苦心をして研究する必要はないのであります。さう云ふ事を私のお話して行く基として、皆さんミ私ミ氣持を一つにしておき度いので、何だか氣になるからもう一つ申し上げます。保育項目論ではないのであります。保育項目の各論の一つ／＼の事に今這入つて居るんじやありません。保育ミ云ふものを本當に眺めて見て其中へ何うなつて居るのだらうか。又一寸變な例を引いて頂きます、松島へ行つて畫を描く人が、松島の畫を描くの松を一本一本描いて持つて來たつて畫にはなりません。叮嚀な人が松島のお土産に松島の松を一本一本寫眞に撮つて來た。これを今竝べて松島になるんだ、御覽なさい、ミ云つたつて私は成程これは寫眞としてはよく撮れて居りますがこれは何う竝べたつて松島にはならないミ私は斯う云ひ度い。或人は斯うボウ／＼したものを斯う青

いクレヨンか何かでボウーとしたものを描いて来て、これが松島だミ斯う云つた時に私はこの方が松島らしい、餘つ程松島らしい。この中に私には松が見えて来る。この名畫の中に一本／＼の松が見え、あの枝振りが見え、彼處に島があり、岩にぶつかる浪が見えて来る。松が正確に描いてあつたつて松島は造り出す事は出来ないが、このボウーとした松島が何處にあるかないか解らない、けれどもちやん松島になる。細かな人だつたら或は何處に松があるのか、何本松が這入つて居るのかなんと言ひます。私には松が出て来るけれども、これはまあ藝術ですから印象的にやつて、描く人見る人の心の機械で解りますけれども、その通りに保育の話をもつて来る譯には行きますまいが、保育ミ云ふものをつつて眺めて、その中で談話が何う這入つて居るだらうか、手技が何う這入つて居るだらうか殊によつたら餘り名人、餘り名人ミ云ふ可笑しいですが、非常に名人ミ云ふよりは餘り名人ミ云ふ方が感じが出る。非常に名人では私の感じが駄目ですから……

餘り名人が保育をやつて居りますミ、其中で手技は何時するんだらう、何時お話が始まるんだらう。何時遊戲が始まるんだらうミ松を一本一本勘定して行く様な人から見れば、餘り旨い保育には見付からぬかも知れませぬ。此位私は保育を本體として保育項目を眺めて行く但し此の畫が松島の畫として駄目なのか、松島の感じを描いたミ云つて私が書いたこれには松は出て居ませぬ。本當に旨い人が松島を一刷毛で描くミ何う云ふ譯でせうか、松を描かないで松が描けて居るのです。保育項目なんミ云ふものは保育の中に這入ちまふもので、近江八景、今日は霧がかゝつて凡てが霧の中に隠れて残る七景霧の中に三井の鐘ミボウーミして居る、何處に保育があるかないか解らぬ所にこの幼稚園の本質が現はれて居るミ云つて、霧の中に惑はされる様な、これは亂暴であります。實際やつて確かにある。あるんですけれども保育ミ云ふものが餘り大きな存在である爲に保育項目が一つ／＼目立たないので、松島の體形が餘り大きな全體形になる爲に歸つて来る

ミ、松の爲に松島があるんですけれども松島だけが心に残つて松を忘れて來た。忘れて來るんなら松島は禿山でも宜からう、ミ云ふ事になるミこれは別問題であります。其の意味で保育ミ云ふものを解釋してその中の保育項目をどんな位置にあるかミ斯う見たいのであります。

餘り序論的な事だけで終るのも残念でありますから一言最後に申してこの時間を終ります。この保育をすつミ御覽になりますミ、曰く遊戯曰く唱歌曰く觀察曰く談話曰く手技ミ云ひ、もう言葉自身が、曰く算術曰く理科曰く讀方曰く歴史ミ云ひませうか、これミは大變に違つた持前をもつて居ります。何處に違つた持前をもつて居るかミ云ふミ、これはこれ自身が生活であります。算術の生活なミ云ふものは何處にもありません。歴史の生活なミ云ふものはありません。理科の生活ミ云ふものもありません。さう云ふ學問があり、さう云ふ學科があるかも知れませぬが、さう云ふ生活は何處にもありません。所が此處に舉げてあります遊戯なり唱歌なり觀察なり談話なり手技なりミ云ふものはこれはそれ自體が生活であります。生活が抽象された部分的な活動ミ云ふよりもそれ自身が生活性を多分にもつて居るものである。其處にこの保育項目がその生活を本體ミ主體全體ミして居ります、保育ミ云ふものの中に適當な位置が持てるのであります。こんに若しも算術ミ云ふものが一つ這入つて居たならばその算術ミ云ふものを生活ミ云ふ保育の中へ何處に位置をおきませうか。野原に草が一ばな生えて居ります。木が林の如くなつて居ります。自然です。自然の景色その自然の景色の中には自然なら何處へでも適當な位置を持つてるのであります。其處へ自然でない全く人工的なものを一つ置いたミしたら實に其處に位置を見出す事が難しいのであります。其處で斯う云ふ事に一つ御注意を願ひ度い保育項目はこれくくくく等ミす、ミ云ふ言葉の中に就て私は斯う解釋したい。幼稚園の保育項目は矢つ張、何をするにしても生活であるぞよ、ミ斯う云ふ御託宣じやないかミ思ふ。生活であるぞよ、生活的なものであるべきぞよ、ミ斯う施行規則が示して居るんじやな

いかと思ふ。この中に算術が這入りませぬ。何にも這入りませぬ。算術、斯う云ふ小學校の學課が學問から出來て居ります學課が一つ這入つたら學問でありますが、何處迄もそれが入れてない所が、生活的なものをもつて保育せよ、云ふ事じやないかと思へるのではありません。即ち今の私の話をもつて突きつめれば、遊戲唱歌談話觀察手技云ふその一つ／＼に注意を拂ふ前に見渡したら、成程生活的なものだ云ふ所に先づ目を置きたいのであります。後に等々云ふ字がありますので、何でも這入つていゝと思へられますが何でも斯う云ふ様に後に等々云ふのは同じ性質のもので外のもの、云ふ事はこれは常識的に當然な事であると思ふ。これ／＼／＼／＼云つて等々云つて暗示して考へられますのは、この上に擧げて來ました五つが生活的だ云ふ事、その特色をしつかり持つて居りますのでその生活的なるもの、其他であります。斯う云ふ事になつて來るのだ、ミ斯う考へたいのであります、これが幼稚園保育項目の私の解釋であります。この一つ／＼の問題に這入る前にこれは矢ッ張生活的なものだ。保育の項目は生活的なものでなければならぬやないか云ふ所にびつたり來るのであります。

もう一つ序でに申しますが、序でに申す事が大事なのであります、保育項目云ひますミ、殊によりますミ多くの方が子供にさせる事、ミお考へになつて居る誤りがありはしないか、學科は子供にさせる事であります。小學校の學科は教授の内容を示して居る。學科の教授は子供に授ける事でありますから子供にさせる。算術は算術を子供にさせるのであります。歴史を子供に勉強させるのであります。所が此處に何うでせう。幼稚園の保育項目はこれ／＼／＼／＼等ミさありますミが子供にさせる保育項目ミは決して書いちゃありません。子供の爲に子供に授けるものとして保育項目を此處に指定してある文句は何處からも見付からないのであります。幼稚園生活ミ云ふ事で子供に觸れて行かうミするには斯う云ふ生活的なもので先生が子供に觸れて行くミ云ふのが、小學校の學科ミは違つた特有點が出て來るのだと思ふので

あります。保育項目を生徒に教へる眼目と考へたら、生徒に教へる所と考へたら、非常な間違ひであります。先生が子供に生活の中で觸れて行くには是等の保育項目の中で觸れて行くのであります。先生がさう云ふ事で觸れて行くには保育の生活性を壊さないであらう、と云ふ事が暗示されて居るのであります。若くも保育項目を捨て、了つて先生が子供を集めて私は話をするのは嫌ひだよ、遊ぶのは暑くて嫌だ、物を拵へるのは面倒だ、私はあなたの方の前で思索するよ、なんて考へ出したらこれは生活でなくなつて了ふ。思索を理論的に説明したらこれは生活でなくなる。斯う云ふ風に表現する、抽象的に與へれば生活でなくなる。生活を中心に先生と子供と近付いて行く、と云ふ様な事がある、斯う考へるのであります。保育項目と云ふものは私はさう云ふ風に解釋して居る。生活の中に於ける生活的なものを此處に擧げて行くのである。その生活は子供にさせるばかりでなく先生も、この手の生活に觸れて行く。生活を抽象にならない、生活を無視しない、生活をさせなければならない保育、換言すれば、幼稚園生活と云ふものが其處に實現して來るのであります。幼稚園保育があつて、保育項目を何う繋ぐか、何う當嵌めて行かうか、と云ふのではなくて、この生活的なものが生活的に存在して居りますから、其處で幼稚園生活が壞れて來ないのである、斯う見度いのであります。これを基の論にしまして段々問題を發展させて参りませう。(第一日終)

二 保育項目取扱の要領

(一) 保育項目といふもの

昨日は、「保育項目」と云ふ事を考へるに就きまして、往々にしてその一つが主になり過ぎて、保育と云ふ全體の中

に於てその位置を充分正しく見る云ふ事が缺け易い云ふ事を考へまして、何處迄も保育云ふ全體の中に於ける遊戲であり、手技であり、觀察であり、斯う云ふ風に考へて行き度い、云ふ事を申したのであります。

これは昨日だけのお話では、それはきまつた事だとお取りになるかも知れませぬが、實はあゝ考へる事によりまして保育項目云ふ事が實に難しくなつて來るのであります。若しも昨日の様に考へませぬで、あの保育項目の一つくをそれ自身として見つめて、それをたゞ子供へ持つて行く云ふ事でありましたならば、さう難しくないと思ふ。繪の上手い人が繪を如何に上手く子供に書かせるか云ふ事を少し研究すれば圖畫云ふ保育項目は處置が出来るのであります。或は踊りの上手い人が――其處が幼稚園であらうが舞臺であらうがそんな事に構はず踊る。そのものとして教へる丈の技量を持つて居ればそれでいゝ云ふ事ならば何でもないのであります。勿論何でもないと言ひましてもその踊りを子供に教へる事は相當難しい事でありませうけれども、然し要するにそれ丈の事である。よく幼兒に踊りを教へる事を専門として居られる方が、「さうも小さい子供に踊りを教へる事は却々難しい」云斯う云はれまして、幼稚園の先生は、それと同じ程度の難しさしか持つて居ない云ふ事を話合つて居る事を聞きます。例へば、踊りの稽古場を開いて居りまして其處へ子供が踊りを習ひに來る。その小さい……踊りを習ひに來ました子供を捉へて、それに適當な幼兒に教へるに適應し踊りを教へるのは、難しいけれどもそれ丈の話である。幼稚園の場合はそれと全く違ふ。幼稚園の場合は、踊りを習ひに來る子供に踊りを教へるのではなく、保育云ふ全體的な生活をしに來て居る……云ひますか、して居る子供、それへ遊戲を何う持つて行くか云ふ所に、幼稚園獨特の難しさがある。よく幼稚園に、踊りを子供に教へて居る先生を連れて來て、そのまゝ子供に遊戲を教へて、それで幼稚園に於ける遊戲が完成して居るを考へる人がありますが、あれは、さう云ふ事を手傳ひ的、補助的にしても構ひませぬが、幼稚園に於ける保育項目としての遊戲として面目は少しも發揮され

て居ない云ふ事になりませう。

此前、昨年も色々例を擧げて申しましたが所謂保育項目云ふものは決して、一品一品の御馳走じゃないのであります。幼稚園に於ては、遊戯、唱歌、談話、觀察、手技等を食はせる處です、ミ斯う云ふのじゃないのです。さう云ふものをたゞ子供に一品料理的に食はせるのではなく、幼稚園としての全體の食卓と言ひますか……食物に對して食事云ふ言葉を去年も申しましたが、食事云ふ全體的なものがある。その全體的な食事の中に一つ一つが何う這入つて行くか云ふ其所が大事なのであります。でありますから昨日の様に考へます何でもない様で居て、實は其所に難しい問題が起るミ御承知願ひ度いのであります。失禮でありますが、今日の幼稚園の方々の中には、ここによります云ふミその保育項目の一つ一つの勉強ミ、それを何うしたら一人の子供に持つて行く事が出来るかミ、ミこだけで苦勞して止つて居る人が少くないと思ふのであります。講習なんかでは、幼稚園云ふものを講習する事は出来ませぬから、一つ一つを抜き出して講習しますけれども、幼稚園云ふ生きた生活の中に於てはもう少し其處獨特の苦心がなけりやならぬのであります。そこでまあ兎に角私も、昨日の様な事を申しましたけれども、實に難しい事です。保育項目の一つ一つを研究して、一つ一つの子供に持つて行き方をやる、之は難しいたつて大した事もないかと思ひますが、生活の中にあの保育項目が何う這入つて、そのまゝ取扱はれて行くかミ云ふ事になります云ふミ相當難しいのであります。そこで私も正直に——まあ正直も嘘もありませぬが——申しますがよく分りませぬ。一體何うしたのが、一番保育項目としての位置を正しく致して行くのであるか、自分でどうもうまく分らぬのであります。私にやれるかやれないかミ仰言れば、やれない事はない。私にやれない言つたつて驚きも何もないですまいが、やれるやれないではなく、ちゃんミ正しく考へないで突きつめる事も實は充分出来て居ないのであります。まあ、私の凡そ考へて居ります所では、例へばこの製作なんミ云ふものは……手

技云ふ様な事は、比較的、幼稚園生活の中に於て、何處に手技があるか分らぬ様な形で、織り込まれて行く事が比較的易しい問題かと思ひます。或は又觀察なん云ふ事も、觀察を觀察として云ふ様な、取出し方を少しも際立てないで、生活の中で何時の間にそれが出来、而も充分に行はれて行く云ふ事がさう難しくもない事の様に考へられます。これは又後でそこらの事を申し上げますが、所が、例へば遊戲云ふ事になつて來ます、あの所謂自由遊びの方の事は別にしまして、或一つの形を定めました遊戲云ふ事になります、之を生活の中へ何う云ふ風に入れて行つたらば正しい位置を持てるか云ふ事は、實は目下研究中であります。目下研究中の者が講習會の講師になるのは不都合で、文部省から辭職を命ぜられさうありますが、何うも、さう申すより仕方がないのであります。其所で、之は一つ皆様に、斯う云ふ事を申し上げ度い。

保育項目のあの一つ々々を説く事は難しくありません。それを四歳の子供に如何にして教ふ可きか云ふ事を考へるの是一寸も難しくない。これなら私は實に見事な講義をする事が出来る威張つて置きます。然し、昨日申した様な意味を行ふ正しい位置を與へて行かうとする、御一緒にこれから考へませぬ何も運ばないのである。そこで今回のこの講習は、御一緒にその問題を考へて苦心して行きますその苦心開業式云つた様なものとしてお聞き取り頂ければ、私は樂になつて來るのであります。

そこであ、たゞ苦心すると言ひましても、困る／＼と言ひましても仕方がありませんので、その保育項目云ふものを、その幼稚園生活の生活そのまゝの中で取扱つて行く全體の要領を大まかに、私がちよつ／＼氣が付いて居る様な所から申上げて、皆さまの御研究の極く基の、基礎でもありませんが謂はゞ建築地の一番下の塵埃の様なものを此處で申上げて見度い、ミ斯う思ふのであります。

(二) 保育項目としての談話

それに就て、例へば遊戯の事は後にしまして、保育項目の中に談話云ふ事がある。この保育項目に於ける談話云ふのは、談話そのものとして見ますれば、所謂二つのものを含んで居る云ふ事は豫ねて明かな事であります。一つは日常の談話、即ち子供と子供が話をしましたり、子供と先生が話をしましたり、さう云ふ日常の談話であります。もう一つは、或一定の話として出来て居りますものを、子供に聞かせて行く、或は藝術的談話であります。藝術的、云ふのは内容は必ずしも藝術談話に限らないで、科學談話もあり色々ありますが、日常の談話に比べますと、お話を云ふものを面白く取扱つて行く云ふ上に於て、藝術的な文字の様なものになつて来るのであります。

この二つが談話の中に含まれて居るもので、それ／＼研究して色々な問題が起つて居ります。殊に此方の方の談話、即ちストーリー、或童話を子供に話す云ふ事になりますと、童話の理論としても童話の話方としても、實に色々な研究が出来て居ります事は御承知の通りであります。その研究はこの私共の問題ではない。私共の問題じやない云ふのは、幼稚園の教育者はさう云ふ事を研究しなくてもいゝ云ふのでは決してない。そんな事は百も承知の上で、さう云ふのは童話の研究者、童話の技術のうまい人と同じ研究をして置いた上に、もう一つ幼稚園に於けるその位置を何うするか云ふところに、あの、世間の童話の大家なんかの思ひもよらない、あの人達の知りもしない、考へもしない苦心がある。其所からが今日のこの講習の問題になつて来るのであります。

そこで、この童話云ふものを、生活の中で發生さして來ようとするには何うしたらいいだらうか。子供は子供で遊んで居る。童話は童話で、何處か話の倉とか云ふ處にあつて、さうしてそれを持つて來て子供に充行ふ、云ふのが今迄の考へ方であります。勿論その一つ々々の童話は話の倉にあるのでありませうけれども、幼稚園に於てその童話を取扱つて

行く取扱ひ方は生活ミ全く別なものを、たゞ生活の中へ押込んで行くのじや、之は昨日申しました趣旨が充分徹底しないと思ふ。

今迄の遣り方は——良い悪いは別ミしまして——兎に角、斯うじやないかと思ふ。子供が遊んで居りますミ云ふミ……詰り生活をして居る、何時も申します通り生活式の保育をしやうミする時は、——其處へ保育項目を持つて行くので實に困る、ミ云ふ事になるのでありますが——その自由遊びなら自由遊びを子供が生活して居ります時に、そのお話ミ云ふものゝ持つて行き方は、まあ或場合は斯うでありませう「お前達は生活を止めて集つて来い。これから有益なお話を聞かしてやる。之を聞かせなければ幼稚園教育の一つの事項が成立たないから、お前達は生活がしたいだらうが、此方は之が聞かせ度い。施行規則第二條の保育項目をやらなければならぬ。月曜日の何時から何時迄に當嵌められて居るのであるから兎に角聞きに來い」、ミ斯う云ふ遣り方であります。そのやり方を、鐘を鳴らして呼び集める人もありませうし、或は新選組を出して集めて来るやり方もありませうし、或は又訓練がちゃんミ出来て居りますからそんな事をしなくても、何時になるミ「暫く生活はきり、をつけ様ではありませぬか」言つて、子供がずうつミお話のお部屋に來るミ云ふやり方をして居つて、實にうまく保育項目を生活の中に挟み込む事に於てうまく行つて居るじやありませぬか、ミ斯う云ふのもあるのです。それが良いか悪いかミ云ふのじやありませぬ。よいミか悪いミか言つちやあ事が簡單であります。殊に「私は嫌ひ」言つて了つたら簡單でありますから、よいミか悪い、好き嫌ひミ云ふ事ではなく、一つのものがあつて、それミ別な問題があるミ云ふ所にわざミ悩みを拵へて了ふのであります。さう云ふ亂暴な……是が非でも拜聽に來い、ミ云ふやり方ミ、もう少し違ふのは、如何にも生活の中へそれが溶け込んで行くから實に面白い、實に上手なこつを持つて居るミ稱するやり方があります。子供が二人で遊んで居ります時に一人の子供が、この中にいゝものがあるがね、やらうかな、やる

まいかなと言つて見せびらかして段々引きつけて行く手がありますが、幼稚園の先生も、兎に角話を聞きに來い、云ふ——彈壓的なやり方じゃないですが——「面白い事を聞かしてやらうかな、そりや面白いのよ」云つた様な事で、何だかもうその詰りさう云ふ砂糖の様な甘味の様なものに包まれて了つてさうして、今やつて居ります生活がすつと來て「何ですか／＼」「子供が言ひ出す。その「何ですか／＼」と言ひ出すは先刻の、兎に角自己の生活を止めて來いと言つた形から見ますと、この場面を見て居りますと、子供の方で「何ですか／＼」と來たのですから、先生の方で子供が求めて來たを考へる。「何うもまだ二人しか求めに來ないから、もう少し求めさせやう」と思つて先に來た奴を自分に使つて集める。何だか、さう云ふ時の先生の顔に云ふものは幼稚園の先生の獨特の技量で「實に面白いが却々話せぬぞ。まだまだ」。

云ふやり方です。話す先生の心の中では、生活を妨げたのじゃないと云ふ確信がある。この通り皆求めて居る。そこで先生が——大人は子供よりも、よい事に於ても悪い事に於ても勝れて居るから——自分が呼び集めて置き乍らしらを切つて「私はあなた方の生活を妨げやうとは思はないが求めて來るならば而らば聞かせやう」。お話を子供の求める事である云ふ心理學を根據にして、此處に集つて來たならばやらう。生活の中に、このお話の位置が何うであらうがなからうがわたしや知らぬ云ふ態度。そこから先はなつては居ませぬ。例の……幼稚園の外で紙芝居の人が話して居るのも、青年會館の童話會でして居るのも、同じ話方の技術であります。あれはなつては居りませぬ。上手に引きつけた様にして置いて實は矢張り、お話を云ふものを……此方がやらうとして居る目論見を話すから其所で、二つになるのであります。私が此處で皆さんに問題にしたいのはそこじゃない。それじゃない。幼稚園生活そのものの中へ、お話を云ふものを何う發生さして行くか云ふ、斯う云ふ事です。それから實に難しいのです。「そんなに難しい事を考へなくていゝじゃないか」云ふ仰言るかも知れませぬけれども、昨年の私の講義をお聞き下さいました方は問題がそこに何うしても落ちて行くと思ふ

のです。幼稚園に云ふものを、斯う云ふものだと考へて行く、何うしても其所のところに問題が迫りついて……或は押しやられて来るのであります。

よききゝ手

そこで、幼稚園生活の中に於きまして、談話に云ふ保育項目の生きた取扱ひをして行く第一の要點は、先生がよき話手である前に、よききゝ手であるに云ふ事、其處に先づ要點を置き度いのであります。このきゝ手、云ふ字は私は假名で書きました。字を忘れたのじやありません。わざと假名で書きました。「聞」を書かうか「聴」を書かうかもう既に私は困つちまつた。「本年は貴方は神経衰弱に罹つて居やしないか」に仰言るかも知れませぬが實に困る。此方を「聴」を書き度い。子供の話重要視して行く以上、この字を書き度いが、之は大變に注意してきく態度でありまして、幼児の側へ此字を「エー」なごきやつて行く、妙に生活が吃驚してしまひます。「ヒョッ」に生活がしやつくりをする様に止つて了ふ。ですから、心の中は斯う云ふ聴き手であるが見て居る時は極めて聞くこともなくいて居る様な形、又きかれて居る方もきかれてない様な形で行き度い。子供の方には此方（聴）を扱ひ、きく方には此方（聞）を扱ひ度いのでませう字がないかと思つてまあ假名でやつて居るのであります。困つて來ますこんな苦勞しますから、何うかお察し願ひ度い。

さて問題の本當のもに還りまして、如何に上手に話をするか、云ふ事を保育項目としての談話の研究の凡てである、さお考へになるのは實に足りない私は言ひ度いのであります。之は、例へば世の中に童話家として立つ人があるとして、其人が一度何處かに立てば、入場料を拂つて大勢の子供が集つて來てその話を聞く。聞いたら行つて了ふ云ふ様な、さう云ふ關係で子供に對して童話に云ふものを取扱つて居る先生がありましたならば、話手云ふ事でいつばいでありませう。所が幼稚園に云ふものは全體のあの生活の本體として、其中に先生も這入つて居るのですから、幼稚園の中に發

生して来る話は、子供が彼方で話して居るかも知れませぬ、此方で話して居るかも知れませぬ。啞の幼稚園だつて目では見えませぬけれども皆様の幼稚園では、先生の許しを得なければ物を言はないかも知れませぬ。けれども普通なら、所謂心から話して居るその話をきく事が保母の役目だと思ふ。「幼稚園に行くさね、家庭ではきかれない面白い話を先生がして下さいますよ。お母さんよりも先生の方が話手として上手であるよ」と云ふ事が、幼稚園の談話に關して凡てあるとしたならば、私が親だつたら斯う言ひます。

「さうかい。お前の先生は童話家かい。成程何々幼稚園と云ふ横に童話俱樂部と云ふ札がかゝつて居たね。童話俱樂部附屬幼稚園かね」と斯う申し度いのであります。

「家では私の言ふ事をお母さんがちつとも取上げない。幼稚園に行くさ先生は私の云ふ事を實によく聞いて下さるのよ」之が、幼稚園が子供に取りまして生活出来る處であつて、その生活は談話と云ふ問題に合致して居る部分に於きましての問題であります。

幼稚園の先生は聲のいゝ人でなければならぬさか、舌の長さの適當な人でなければならぬさか色々話方の方で條件が出ますが、耳のいゝ人でなくちやならぬ。私は、幼稚園の先生で耳の聞えない人は困ると思ふ。子供が物を言ふのに一々先生の處へ行つて、之を斯う引張つて言はなければ通じない先生では困る。單に感覺的許りでなく心理的に耳のいゝ先生が、子供の言ふ事をよくきいて呉れなければいけない。之は世間でもさうじやないかと思ふ。あの人の處へ一つ話をしに行かうかなと云ふ事は皆さんよくあらうと思ふ。あの人の處へ話をしに行かうかと思ふ事は何う云ふ事でせう。文法的に言ひましたら、話をしに行かうと云ふ事は、話をしに行くと思ふ事も知れませぬが、話をしに行かうと云ふあの言葉は必しも此方から物を言ひに行かうと云ふ事許りでなく向ふの事を聞きに行く許りではないと思ふ。話を解して、あの人の

生活しやう云ふ事と思ふ。私は踊りが出来ないから知りませぬが、今日は一つ彼處に踊りに行かうか、云ふ人がダンス場に行く。私は知らぬが、踊りに行かうかな云ふのは、彼處に行つて踊りを見に行くのでもなし、一人一人踊つて見せるのでもなしまああの——綺麗だかきたないか知りませぬが——あの人踊る爲に行くのであります。踊りを介してあの生活をしに行くのであります。

話をしに行く、云ふ時に私が第一に要求する事は、きゝに行く事。向ふが話の材料を持つて居る事は勿論一つの條件であります。此方の話をきいてくれる事が必要な事じやないかと思ふ。その意味で幼稚園の先生はいゝきゝ手でなければならぬ。そのきゝ手である人は——こゝに色々問題がこれから發展して参りますが——よききゝ手である云ふ事の爲には、その子供がその話の中で何う云ふ用件を傳達しやうか云ふその點も、よく注意して聞いてやらなければいけない。

まあ、よききゝ手云ふのは……吾々の日常の生活に於て、話のよく分る人云ふ時には、此方の用件をよく聞いてくれる人であります。中には分らぬ人がありまして、いくら言つても此方の用件が通じない人があります。歸る迄、金を借りて來た云ふ事が分らない人がある。四五日経ちましてから、先般の用件はさうではなかつたであらうか云つて來る人もある。よききゝ手は、向ふが「先生」云つて來た時に「水が欲しいんですか」「先生」「やつたんですね。パンツが濡れて居るんですね。」云ふ事がよく分る。「先生」云つて來た時に「はつきり仰言ひ」。なん云ふのは側で聞いて居る、私は分らぬ告白して居る様なものである。「先生」云つて來たのを「何か用？」云ふ人がありますが用がなくて追馳けて行く奴はない。その位の事はちゃん分る。何も、先生の方が分り過ぎる必要はない。之は訓練の上からもよくありますまいし談話云ふ問題は出て來ませぬ。「ね、ね」言つても「若し」言つても「あの」言つても、「あのが何うした」云云

ふ意地の悪い事は言はないで、その中の用件をちゃんこ聞き分けてやる。所がこの方はまあ發展して、日常談話の方へ這入つて行くのでありますが、もう一つ、子供は用件ばかり持つて来るものじやなくて所謂心境を持つて来る。人が人に物を言ひかけます時には單にその用さへ足りればいゝ云ふ場合こ。

もう一つ、此方に或心境がありましてその心境を向ふへ傳へ度い云ふ様な氣持で話すものじやないかと思ふ。私が昨日、恐らく皆さんの多數の方に始めてお目にかけます私の處にいらして下さつてニコ／＼笑つて下さる方がある。其時に「何か御用ですか」云つたならば非常な間違である。用はない、久し振りで會つて……まあ會つて嬉しい云ふことなんですが、會つて嬉しい云ふ様な心境をニコ／＼出していらしやる。さうすれば私の方で心境を汲み取らなければならぬ。子供が、いも蟲が轉つて居るのを見て驚く心境を持つて居る事があります。それをよくきいてやるのでなくちやならない。幼稚園保育項目の中に、談話云ふものがある以上先生は話手であつてきゝ手でないを申されませう。而も今迄保育項目の談話云ふ事に對しては、話方の方ばかりに研究が偏して居つたのじやないか云ふ事は申して宜らうと思ふ。極端に申しますと、幼稚園の先生は童話家じやない。話が上手でなくても聞き方が上手ならいゝ、うつかりこんな事を言ひますと何うなつて来るか分りませぬが、まあ言つて見ればさうだ云ふ譯であります。

よき返事を

さて、その用件を理解した時に、そのきゝ手である云ふ事は、きゝ手であるだけでは談話になりませぬ。向ふは談話をして居る。それを此方は聞いて居るんですから宜しいのですが中には斯う云ふ人がありますね。子供が何か言つて来る「あゝ／＼」何が何でも「あゝ／＼」まあ實に大きな、紙屑籠の様な腹を出して如何なる用件も「あゝのみ込んだのみ込んだ」云ふ顔をして居る。子供はおなかを觸つて見て「確に先生這入つたの、何だか受取つた様な顔をして居るけれど

も後から抜けてやしない？」實に心配である。吾々もさう云ふ事がある。あまり偉い人の處に行つて下らない話をする。「私
は實に今煩悶して居る」云ふ様な事を言ひますその人が「あゝ」云ふ。談話が其所に成立つて來ない。皆さんは偉
い人物だか、うるさがり屋だか、面倒くさがり屋だか知りませぬが、兎に角、聞いたら返事をしておやりなさらなければ
ならない。その返事から話がものになつて來ます。中にはもう返事を一つか二つ持つて居る人があります。何うした加減か
幼稚園へ始めて奉職した時に先輩の人が、子供が何か言つたら「さうを」云ふ辭があつた爲に「あらさうを」それで一切承
知して居る人がある。私外國に行きまして、外國人の言ふ事が分らない。知らない國の言葉であるから分らない。分らな
い私は、イエスカノーか何方かに相違ないから代るく使ふ。向ふが親切さうな人ならばイエスを三つにノー一つ、向
ふが不親切さうな人であつたらノー三つにイエス一つ、さうして向ふが變な顔をするま直ぐ「ノー……イエス」「イエス……
ノー」云ふ。そこで幼稚園の先生も、もつミ上手で、いゝ言葉を持つて居て、子供の顔も見ないで「先生此子がものを言
つて居ますよ」云ふ「あらさうを」云ふ。私共が色々の書類に目を通さないで判を捺すのをめくら判と言ひますが、
さう云ふのはめくら返事である。めくら返事で撃退して居る。子供の方からは心もなき至りであります。子供同志で
「先生がね、言つたよ、あゝ」言つたよ「あなたの時何と言つた？」矢つ張りあゝ言つたよ」云ふ。之も先生の方から
言へばその位でいゝでせう。一人々々そんなに事を分けてやらなくても大抵分りきつて居ると思ひますがそれじや話が發
生して來ませぬ。そこでよききゝ手である云ふ事には、當然返事をしなくちやならない。この返事云ふのが……返事
をあつさりすればそれだつて濟みますが、返事を丁寧にするミ其所から話が始つて來るのであります。この返事云ふも
のは大人同志でも却々難しいものです。作法なんかでも、人様に物を申上げる事許り先生が教へますが、人に言ふ事より
も返事の仕方云ふものは、より大切なものであります。まあ、私此處でお話して居りますが、此處では皆私ばかり話

して居る様に見えるかも知れませぬが、何うして何うして、あなた方の返事次第です。眼をつぶつて返事していらつしやる方もありますし——私は、深く考へて居て下さると思ふのであります——中には大きな口を開けて取込まうとしてゐる方もあります。聞き方一つ、返事一つで話が成立つて来る。西洋の作法でも、イエスミカノーミか云ふ言葉で追拂ふ事は失禮になつて来る。子供が「先生水を下さい」言つて来た時に「イエス」言へば用は足りる。中には黙つて水をやつて、用はさうに足りて居る、ミ云ふ人もありますが、水を下さい言つて来た時に「水が欲しいのですか」言つてやるのは話にする所以である。水を求めて来た者に水をやるのは事務です。之は丁度、往來を水を撒く車が水がなくなるミ柳の下の水の出る處に置くミ水が這入つて来る、あれと同じです。所が、子供の生活の中から談話ミ云ふものを成立たして行かうミ云ふのが主ですから、向ふが水を求めて来る。向ふは水を求めて来るからやるが、其上談話にして行くには「水が欲しいのですか」……水を下さい言つて来たのに水が欲しいのですかミ云ふのはおかしい言ひ方ではありますが「本當に暑いのかね先生も丁度水が欲しかつたところよ」等、何うでも話が出来て行きませう。ここによりましたら向ふが、水が欲しい言つて来た時に、欲しい言つて来たから上げるんだミ云ふ感じを起させないのが返事の秘訣である。「求めて来りしか、然らば已むを得ないから與へる」ミ云ふのじやない。色々秘訣もありますが、その方は暫く別ミして此方の問題……。

心境に即して

向ふが或事件に就て何かしら興味を持つてやつて来たミしたならば、興味を與へる驚き、悲しみ、喜び、即ち普通の凡ゆる分類に這入つて來ます。あの童話ミ云ふものを——色々話がたく致しますが——保育項目ミしての童話じやありませんね。童話學の方から言つて、童話を研究なさる人が随分世の中には面白い人があります。犬を扱ひし童話、猫を扱ひし童話、鼠を扱ひし童話、ミ云つた……童話の中に何を扱つて居るかで分類して居る。植物ばなし動物ばなし神様ばなし、

兎に角斯う云ふ内容に就て淡々として分類して居る人がありますが子供の方から言ひますならば……云ふより、人間に致しますならば、私は若しもその所を生活的に分類するならば、悲しみ童話、喜び童話、驚き童話、祈り童話、うまい事を夢見童話、なきこ色々やり度いと思ふのであります。その色々の情緒が童話の中にある。その童話の中には猫を取扱つたものも犬を取扱つたものも、亦鼠の這入るものもありませう。そこで、童話云ふものはその内容の、何が材料になつて居るかじやなく、それに就て何う云ふ心境を持つて居るか。心境が何う云ふ風に發生して行くか、云ふ事が問題であります。その心境を離れて童話はないのであります。日常の、世間の中から子供が「ねえ先生」を持つて來ますのは、それ／＼心境を持つて來ますから、その持つて來た心境を先生はグツミ握るのであります。之は必ずしも子供ばかりじやありません。誰に對する場合でも、人が話をして來ました時に……私は昨晩暗がりでも白いものに會ひました」云つて話して來た時に、その白いものを主にして聞くか吃驚した云ふ事を主にして聞くか、勿論大事な差別であると思ひますが、殊に子供なんかの場合には……殊に幼稚園の子供が持つて來る話は、材料的内容から言つたならば大した上手な聞き方をしてやらなければならぬ事は持つて來ませぬ。「さうか猫を見たのか、猫は随分居るわね」云ふ事になるのであります。「蛙が居た」蛙？例の蛙、別に變つたのじやないんでせう。」云ふ様な話になつて了ふ。そこで、その内容に就て「先生蛙が……」云つて來た時に、驚いたのか、可愛らしいと思つたのか、何だか此頃は雨ばかり降つて蛙が喜んで居る、云ふ氣を持つて來たのか、その所を擱へて行くのであります。其所のミところを擱へてそれに對して返事をする。その返事は、用件の場合ならば先生がイエス云つて呉れたならばそれで用が足りればいゝから早速歸るから、談話は其所で切れるのであります。が、「先生、私は蛙を見てびつくりしたのよ」云つた時に、その先生が「さう、びつくりしたの、まあ……」云うて呉れるミ、今迄吃驚して居た以上に吃驚して來るのであります。今迄吃驚して居た事が先生の返事の善し惡しで更

に強くなつて来る。單に強くなるばかりじやありません。蛙に就て驚いて居つた、蛙がビィ〜こやつて暗がりから出た。それで吃驚して居つた。何こなしに驚いて居つた。何所を要點とした驚きかは、はつきりして居りませぬ。其時先生が「後足で斯うやつて……」云ふに、驚きが纏つて來ます。何も理窟で「あなたの驚きたるや漠然として居つた。驚きの所以は、前足よりも後足に跳躍力があるからである。」云ふ事を言ふ必要はないんです。けれども「さう、あの後足でバーこやつたの」と言ひますに、「私の驚きたる所以、實に其所なんだ」と云ふ事が、先生の返事で出て來ます。或は先生が子供の顔を見て居りますに「さう、びつくりしたの」「そいでね、先生の處へ直ぐ來ようと思つたけれどもびつくりして見て居たら幾つもするのよ」。幾つもする、云ふところで驚いたならば先生がそれを捉へて「本當に根氣のいゝものね」と言つたならば、根氣云ふ所に中心が行きます。昔々小野道風あり、云ふのはその驚きの要點から話が續いて行くと思ふ。小野道風の話をするのが良い悪い云ふのじやないが、小野道風の話をするに就ても、此頃は蛙の居る頃だな、小野道風を聯想する。子供が生活して居るのを引張つて來て「有益な話をしてやらう。所で、有益なものにも色々あるが今日は、榮養料理豆腐の話をしてやる」云ふ。何處に豆腐が出て來たか分らぬ云ふ事になる(大笑)。私は、何時も小野道風の話をしなさい云ふのではないが、驚きの心境がすうつこそこ緊つて行く道が出来ると思ふ。

この子供が話して來ました事を上手にきゝ殊に上手に返事をしてやる云ふ様な事を申して居りますに、皆様の目の前に二つの場面が或は出て來るんじゃないかと思ひます。

一つは所謂自由遊びの中に於て子供が勝手に遊んで居ります時に、先生の處へ來て話す。そのまあ場合、それからもう一つは自由遊びミ大變に違つたものとしてお部屋の中で設定的に行はれて居りますあの時に、これは子供がさうがやゝこ話して居るのではない様でありますから、其處で先生がちゃんこお話承り係云つた様な顔をして控へて居る。中には

順番に「誰さん何か云ふ事はない?」「それが済んだらその次に話がない?」中には氣のいゝ子供が一人で話して居る。他の人は話が出來ぬ云つた様な場合に、砂糖を鹽梅する様に按配する場面。あの二つがくつきり別の世界として皆様の目の前に出て來はしないかと思ふ。其處で所謂自由遊びの中に起りますものは極くながらかなものでありますが、お部屋の中で所謂設定的保育をして居ります場合、その場合これの方に關してはさうも私、昨年の私のお話をお聞き下さいませぬ方があります。すれば私の書きました本の廣告を文部省の講習でする譯ではありませぬが是非一つよく讀んで頂き度いと思ひます。その自由遊びでなくお部屋がきちんとなつて居る時に鐘を鳴らして一齊的に四十人が同一にきちんとして居つてその形で話す其處へ私の云つて居る様な事を持つて來たつて話が始らぬのであります。

其處で幼稚園全體 もつゝ生活的な生活形態にしておいての話である事を充分一つ御承知を願つておきたい。部屋の中に居ります時でも子供は先生に何か云ひたくなれば勝手に先生に云ひに來る事の不思議もなく出來る様な豫めの生活形態を此處に想像して頂かぬ。問題がこんぐらかつて來る事と思ふ。其處でそのまゝ形態を私勝手に描かして頂くならば子供が先生の處へ來ましてある驚きを語る、先生が「さうを、びつくりしたでせうね」斯うまあ話をする。そのびつくりしたでせうね云ふ感情情緒それを基にして二つの發展が出來て行くのであります。今迄の考へ方では子供が蛙の話をして來ましたら蛙云ふものがある興味をもつて來ただけ取扱ふのであります。又さう云ふ様なものもあるかも知れませぬ。

毎日蛙の事ばかり云つて居る。よく調べて見たら祖先が蛙だつた云ふ様な子供もあるかも知れませぬ。併乍ら私の此處で取扱ひ度い、扱つて行く道は其處を中心にして、其處を中心にします。斯うなつて來るのです。皆さん太郎さんが蛙に就て驚いて蛙の話をして居ます。蛙に就て興味のある人は集つて來い。斯う云つた譯になつて來るのであります。所がその蛙じやない。驚いた云ふその興味、驚いた云ふ先生が、「さうを、私は昨日ね、矢つ張、びつくりした事があ

る」斯う話をすれば蛙ミ違つた問題に自由に入るミ考へるのであります。「先生何で驚いたの？」私はね、なめくじで驚いたの「さうするミ、片方の子供が「蛇で驚いた」それは實に三すくみになりさうでありますが、その材料に就ては、蛙、なめくじ、蛇ミ三すくみでありますが、「驚いた」ミ云ふ事に就ては共に語るに相應しき仲間になつて來るのであります。

これは普通に大人が話して居る間に話が次から次へミ續いて行くのもそれじやないかと思ふ。中には人が話をして居りますミ、その人の話を聞かないで、例へば私は汽車に乗つて旅行をした。その汽車が大變に面白かつた。實に面白かつたミ云ふ話をしきりにこつちの人が話をして居る。話して居るのを聞いて「面白かつたでせうね」「よかつたでせうね」「そんなに面白かつたでせう」「何しろ早かつたでせう」で斯うまあ云つて居る中に汽車の事は頭になくなくなつて自分が曾てヨットで海をすつミ横切つた時のあの早かりし事よ、愉快だつた事が一ぱいになつて「面白かつたでせうね」「早かつたでせうね」「愉快でせう、面白かつたらうね」ミ云ふのは汽車の興味に聯想的に話を合して居るのではなくして、その面白かつた旅の面白さミ云ふ事でその面白かつた話が受答へが出来るのであります。

其處で都合によりまして、向ふが汽車の話をして居るのを抑へつけて「汽車なんか鈍い^{のろ}のよ、私がヨットに乗つた時は」ミ斯う話をして行く人もあるかも知れませぬ。其處で話が擴くなつて行く。私の汽車は、二人引であつて後押しがついて居つた、いゝえ汽車に羽根が生えて居つたのである。ミ云つた様な、昔ギリシャには羽根が生えたのがあつた。昔支那にはね、何秒の間に宇宙 廻る早さ、なんて材料に結びついて行くのではなく、その驚きの感情に結びついて行く。凡ての人が話をして行く時、次から次へミ話のはずんで行くのはさう云ふ心理で行くんじゃないかと思ふのであります。同じ話題でなければ話をしちや不可ぬミ云ふのも非常に無理な場合でありますが、其處で先生が驚いた話をして驚きを受取る。びつくりしたでせう、先生もびつくりした事がある、昨日實は私は斯うだミ話をするミ其處で話が出て來るミ思ふ。今迄の話

では斯う云ふ事許りだつた。兎に角子供を集めて、これよりお話始め、何の話が始るか解らぬ、兎に角信頼して待つてゐ、それで子供は恐らく何等の感情なしに待つて居るのであります。何等の感情なしで唯お話をこれから承つて如何なる感情が心の中に起るか、吾等も楽しみで、手づまを見て居るのと同じ様な……其處で先生は話をして行く中には、全くそれ違つた心境に於てさつき迄生活して居つた子供が、まるで違つた處に行かなければならぬ様に、餘儀なくされる事もありませう。

先生はそれじや餘り出し抜けだと思つて心境整理云ふ様な段階で「世には驚くべき事が随分ある。私だつて誰だつてびつくりする事がある」云々云々云々云々の處に話をして行く。そしてびつくりの話驚いた話に向けて行く。これが從來の話の仕方の一つの技術、テクニクの法云ふ様なものであつた。私の今云つて居ります事は外の話をもつて來て子供の心情に觸れて結びついて行く。さうすれば生活の中に話が這入つて行くと思ふのであります。これには二つの條件を必要とするかと思ふのであります。二つの條件の一つは先生が随分話を餘計知つてなくちやならぬ。事、此處に至つて問題は極めて近火になつて來ましたが——近い火事になつて來ましたが——兎に角話を澤山知つて居なければならぬ。今迄は幼稚園の先生は殊によります、明日話をする用意を二つか三つまあ一つ、大抵一つ、若しアンコールがあつたら何うしよう、云ふのもう一つ位拵へて行く位が周到の用意であつた、話を色々もつてなくちやいかぬのである。談話云ふものが保育項目である以上は、イギリスに行く人は英語を知つて居なくてはならない如く、ドイツに行く人はドイツ語を知つて居なくてはならぬ如く、幼稚園へ來るには理窟では子供と生活が共に出來ないのでありますから、生活保育が出來ないですから、話の材料は先生は澤山もつて居なければいけません。一つ云々の話を旨くするの不味くするの、問題は第二第三の問題で兎に角澤山話をもつて居なければならぬのであります。所謂ステージに立つてお話を開い

て行く童話家でありましたら十八もつてればいゝでせう、私の話十八番ミか十八もつて居ればいゝのであります。聞く方も地方も段々變つて居れば二つでもいゝのです。そしてひよつミ前を見て前の話を聞いた人があれば胸がぎき／＼すればそれだけの話であります。此處では子供がどんな感情に出て行くか解らぬのですから、その心境に相應しきお相手をして行くには、あの太閤様の御相手をしました曾呂利新左工門ミ云ふ人は話の材料を澤山もつて居た人、まあもつて居たミ云ふより、其處で創作した頼智頼才の人であつて、豊太閤様が「世の中には馬鹿も居るものだな」ミ仰有れば太閤様が考へて居る以上に馬鹿の話をしてお相手が出来るのであります。「世には可愛想なものがある」ミ云へば曾呂利新左工門「いや拙者が先般逢ひましたものは」ミ嘘でも何でも旨く話が其處で出来て行くのであります。其處で豊太閤様は自分の心境に則した話が出る。太閤秀吉は「拙者は實に驚いたのである」ミ仰有るのに驚きは仕舞つておいて悲しみの話を申上げるミ云ふのでは御氣に入るまいと思ふ。幼稚園の先生は何も子供の御機嫌をこつて行くのではありませぬが、何處迄も保育項目を生活の中に發生さして、生活の中に成長さして行かうミするにはその用意がなくちやならぬと思ふ。幼稚園の先生の話が旨い不味いは問題ではなくて澤山知つて居るミ云ふ事が問題であります。都合によつたならば古い話を知つて居るばかりでなく、其處で咄嗟に作つて行つても宜しいのであります。先生が話が澤山あつて色んな心境に相應しき話をすぐ出せるミ云ふ事が必要であります。これが出来なければ旨くきく事は出来ませぬ。私が若しこの點で保姆採用試験ミ云ふものをするのだつたら、話をいくつ知つて居るかミ云ふ事を調べて、尠くも一萬以上知つて居なければ採用しないミ云ふ、この位の標準にしなければならぬと思ひます。

それからもう一つは心境に即して其處に話を發生さして、其處で實際に、育てゝ行かうミするにはその話の旨い先生が話をなさる相手が何人あるか、ミ云ふ事に就てこれを氣にしていけませぬ。生活はそんな聯隊だの大隊だの中隊だのこの

相手の人員で決つて居るものじゃない。或場合には太郎が來まして驚きを語りませう。先生も驚くでせう。その驚きの顔を見て驚きの光景を見て、「何うしたの」ミ寄つて來る子もありませう。或はひよつミ見るミ手の明いて居る、遊んで居る子供があるので「びつくりした話があるのよ」ミ呼びかけるのも宜しいでせう。鐘を鳴らして「お話を聞きに來い」ミ云ふのミは違ふので「こんなに太郎さんが驚いたの」ミ繋ぎをつける。或は子供同志が數人寄つて遊んで、互にクシャ／＼／＼云つて居る處に先生が顔を出す。今皆で話して居る所なんですが、ミ云つて始めからグループを造つて居る。始めからグループになつて居る場合もありませう。兎に角先刻お斷りました四十人が四十人耳の穴を明けてお話を聞かうミ待つて居るミ云ふ形を要求しては今の私の申して居る事は恐らく成立ちませぬ。其處で折角先生が澤山知つていらつしやるお話をなさるのでありまして、然も御研究になつて居るお話をなさるのでありますが、相手は何人でも構はぬ、ミ云ふ、其處に根據をおいて下さらなければならぬと思ふ。何人でも構はぬミ云ふ事は消極的に云へば、必ずしも揃へて話すミ云ふ、あの修身講話の様な形のを幼稚園の談話形式ミしないミ云ふ事でありますから、幼稚園保育項目ミしての談話は相手の揃つて居るミ云ふ事を一つ絶して仕舞はなければ生きて來ないのであります。ほんの數人ばかりで話して居る事もありませう。あんな立派な話をたつた二人を相手に話して居る事もありませう。それでちつミも構はない、然もさう云ふ事を意味するのみならず、私のもつミ云ひ度い事はその少數或は一人二人を相手にして居る話がそれが本當にしつくりミ先生の心境が高潮して行けば自ら話を聞くグループが出來て來る事を信するのであります。子供が二人でジャンケンしてたつて皆んな來て「入れてお呉れ」ミ云ふのであります。一人が蟻の穴を見付けても「何に」ミ云つて寄つて來るのです。先生が其處にお在でになつて眞實の話をして子供がへ「エ」ミ云つて驚いて居る。その光景が廣くもあらぬ幼稚園の一隅に行はれました時に、子供はそんな事より一層面白い生活をもつて居る子供には影響しませぬでせうけれども、生活にも色々あつ

て、今すき間のある子供でしたら「一體何に」ミ手をふり乍らやつて来るであります。少數を相手にして居る話が集つて一つの全體になつて来る位でなくちやならぬし、なるからこれが生活の中に這入つて来るやり方から申すのであります。

この點に就て皆さんは話を澤山知つて居る人であると同時に緣日のあの話をする人と同じ様な仕組でなければならぬミ私はさう思ふのであります。緣日のあの商人に私は實に同情する、又非常に感心する。たつた一人か二人の人を相手に話して居るけれども——東京中の人が集つて来るんじやありませんか——東京中の者が集つて来る——集めなければならぬ話をしなければ、ミ云ふ態度をミつて居らなければ、あの話は決して生きて來ないのであります。

談話ミ云ふものを一例にミつたに過ぎませぬけれども、保育項目を生活の中に發生させ發達させ生活の中に育て、行くミ云ふ事はこんな風なこつからして行くかミ思ふのであります。これを更に云ひ換へますれば、始めから聞かせようミするミ無理が起ります。人の話を聞く所に自分の話のきつかけが見付けられて来るミ、斯う云ふのが生活の自然の法則ではないかミ斯う思ふのであります。

(三) 遊戲の場合

遊戲の方に就きましてはさうも斯う簡單に行かぬかミ思ふのであります。遊戲の場合には若し子供の方で踊り出しますならば、その踊をこつちから伴奏をつけて行く、斯う云つた様なやり方は出来る場合もあります。出来れば大變にいい事ミ思ひますけれども、さうも實際に於て中々難しいかミ思ふのであります。其處で遊戲の場合に於きましては私はこれをぐつミ逆にして行くのも一つの考へ方ミ思ひます。話は子供の方からずつミ何時の間にか、さうさうこれが話になつて来る。遊戲の方はさつちかミ云へば先生が先へ其處で踊る。遊戲の方から子供の方へずつミ及んで来る。斯う云ふ道筋をこるべき外ないかミ私は考へるのであります。その所謂先生の方が先に踊るミ云ふ事を字義通り解釋して與へて來ます

ミ、鬼に角先生が氣狂ひ踊をやつて居る、子供は傍にやつて來て自らつられて踊出して丁ふ、斯う行けばいいのであります。これはお花見なんかも皆んなさうであります。なにか踊つて居りますミ皆んな其處へ寄つて來て踊ります。盆踊なんかでも好きな人があつて先に踊つて居ります。それへくつ、ついて來ます。所謂このやり方、先に踊るミ云ふ事をもう少し廣い範圍に解釋しまして、或は先生が數人の子をかたらひまして其處で踊るのは宜しいかと思ひます。先生が先に踊つて居なくちやならぬミ、窮屈に解釋しなくてもいい。數人の者を連れて來て踊る。先生ばかりが先に一人で氣狂ひ踊をして居たつて子供はミても這入つては來ない、出ては來ませぬから數人でやつて居る方がいい。

或は又踊を踊るミ云ふ事でなく、その踊のミ、なりなます伴奏の様なレコードをかけておくミ云ふ事をやつてもいいかと思ひます。何か踊を子供の方へ引出さして來るもミを先生の方が造つておくのであります。但しそのもミを造つておくミ云ふ事は、子供を集めて「さあこれから踊をしませう。それには斯うなさい」。ミ云つてして行く今迄のやり方ミは違ふのであります。これでは所謂保育項目が幼稚園の中で一つの宿を借りてやつて居るやり方になります、幼稚園の中で先生が踊つて居る、或はレコードが鳴つて居る、それが自ら子供を踊の方に導いて行くミ云ふきつかけになつて來るミ云ふ事になりますならば、これは自ら生活の中に這入つて行く事になりはしないかと思ふのであります。踊り出したその踊を其處から何う云ふ風に指導して行つてもいいでせう。此處の所でトン／＼ミ拍子に合した方がいい。「御免なさいよ、今度私は私があなた方の踊を引出すのじやなくて、踊り方を正しくする爲に御手本をしてみますよ」ミ所謂指導法に這入つて行つても構はないのであります、出發點は其處にあるミ考へるのであります。これが今度の戸倉先生の講習の中にあるか何うか私は實は今度のはよく承つて居りませぬので知りませぬが、昨年の場合には特に先生ミ御相談をして所謂團體遊戲指導ミ云ふものを特別な題目として入れて頂きました。その團體遊戲指導ミ云ふのは私の考へでは子供が一人／＼遊ぶ遊

びの中には生活的なものが多くのでありますけれども、團體的にやつて居る時には大體はこれは遊戲になつて來るのであります。鬼ごつこでも輪を作つて何うかして居るのでももう所謂團體ミ生活する時にはもう既にこれは個人的なものミ違つて多少の規約をもつて居りまして、互に集合的に樂しもう、ミ云ふ所が藝術的になつて來る。昨日申しました様に一人で遊んで居るあの遊戲は藝術にはなりませんけれども手を繋いで歩いて居る時は一人が早くやつたり遅くやつたりしては面白くないので其處に規約ミ云ふものがあつて團體的な遊びをやつて居ります。その團體的な遊びをやつて居りますそれを何う云ふ風に擱^{つかま}へて行かうミ云ふ事を考へて、其處からこの幼稚園の遊びミ云ふものを、遊戲ミ云ふものをずつミ引出して來ようかミ、これが戸倉先生ミ御相談して居つたのであります。その團體的な自然に子供が所謂保育項目ミ關係なくやつて居ります色々な團體遊戲、あの團體遊戲ミ云ふものを指導して來ます時にはこれは餘程生活の中からずつミ遊びの方に、もつて來たいのでありますが、併しこの團體遊戲ミ云ふものが實は私は昨年は團體遊戲をするミ云ふ事を、其處を擱^{つかま}へて、其處から引張つて參りましたが、もう一つ突込んで來ますミ團體遊戲ミ云ふものが子供の中に自然に發生して來るが、矢ッ張これは遊び方ミして、何處^{どこ}かで習ふミ云ひますか、傳へられるミ云ひますか、眞似するミ云ふか、さう云ふ何處^{どこ}かに一つの遊び方、即ち手本の様なものがあつて出來て來るかミ斯うまあ考へ度い。蟻ミか蜂ミか穴を掘るミか個人的な遊びは手本なしで子供が始めるのであります。トウダンスミか何ミか輪を作つてするミかは幼稚園に來て先生から特に習つたものではありませぬが子供達の中には何處^{どこ}がそのミミがあつて始つたのであります。そして小さなものが段々大きな遊びになつて居るものだミ斯う私は考へるのであります。そこで理論的にはさうも遊戲ミ云ふものは矢張誰かミ先になつてします。それをやつて行く事でそれを出發させる外はないミ考へるのであります。ずつミ古い事でありますが、未だお茶の水に居りました頃にある先生にそんな風な事を始終話して居りまして、そして遊戲室へレコードをかけ放しに

してわざと先生が其處の座をはずして見た事がある。さうするに其處へ子供が這入りましてレコードに合せて踊つて居たのであります。この事は外國あたりのやり方を見ますに、珍らしくない事ではありますが、まあ私の経験としては非常に愉快な一つ場合であつた。即ちレコードが先にありまして、そのレコードに合せて子供が何かやつて居る。所謂リズムに相當な運動を子供が創作して居るでありませう。所でそれを何う發達さして行かうか云ふ所に随分難しい問題があらうと思ふ。今も私解決出来ないで残つて居ますのは、その子供がレコードを聞いて自然にやつて居つた。レコードが終るに續きをかけてやる興味が湧いてやります。レコードに數人の子供だけにおいておけば、或る長さずつに續くのであります。先生が其處へ何う這入つて行くか云ふ事が實に難しい。若しその時に聲をかけて先生が這入つたならば子供達が散つて了ふのは普通だと思ふのであります。若しさうやつて居る所に先生が這入つて来る。此處のトン／＼／＼／＼云ふ所が旨く合はないが、「先生、何うしたらいいか教へて呉れませぬか」云斯う、斯う出て來れやあ、大變いゝ都合のいいきつかけを與へられるのであります。これは幼稚園の程度では随分難しい事ではないかと思ふのであります。所謂リズムに引出されて夢幻の様な氣持に踊つて居る時、這入つて来る先生云ふものは大體子供の幻を覺ます方の任務をなさる方であります。踊つて居る子供に大きな手を叩いて「いい／＼」皆でさうしてやつて居るに實に旨い、云つたら、子供はすぐに幻から現實に歸つて来る。「アラきまりが悪い」云「可笑しい」云云つてやめて了ふ。これを何う導いて行くか云ふ事が問題であります。何うしても私は先に先生が踊つて居るに先生につれられて踊つて行くのでなくちや保育項目の眞實なものを充實して行く方へもつて来るのに便利なものになりはしないと思ふのであります。

其處で先刻のお話に就て先生は澤山お話を知つて居なくちやならないと申しましたと同じ釣合で話しますに、幼稚園の先生はさうも踊る先生でないに困ります。今日の先生で遊戲を何う指導なさるか云ふに、「さあ、遊戲をしませう」云云

つて先生はあの大なるピアノの後に城塞を構へて「さあ踊りなさい。踊りなさい」「誰が旨く踊れるかな」何て云つて「皆んなが踊れば弾いてやる」云ふのでは先生が踊そのものを其處へ相手の中から引出して来る云ふ事に就ては矢張足りないのではありません。勿論幼稚園で肥つた身體の重たい先生もありませうし、神経痛の方もありませうし、踊る話が……踊が何處からか落こつちまふ云ふ話の得意な人もありませうから、誰も彼も踊らなければならぬ云ひきる譯には行きませぬけれども、けれども併しその幼稚園の中に踊る先生がいまして、その先生の踊つて居る事で子供の踊が引出されて来る事がなければこれが生活の中に引出されて来る事が難しいかと思ふのであります。遊戯の事、その事をお話するのではなくて、保育項目の中に製作、(手技)、觀察、(遊戯)遊戯の中でも自由遊戯は何でもないのであります、生活の中に一番生の儘入れて行かう云ふ事は、談話ミ所謂形の決つた遊戯ミこの二つであるかと思ふ。何故さうであるか云へば、實に無理もない事でありまして、談話は發生して文學ミなつて人間生活の現實ミ離れて行く傾向にあるものであり、遊戯は所謂舞踊ドラマミなつて吾々人間の生活からずミ離れて行くものであります。さう云ふものでありますから、あんな幼稚園の中に居る時でも、日常生活の實際の中に取込むべく随分離れて居る所が多いものでありまして、この二つを如何に處理して行くか云ふ事が詰り保育項目を取扱つて行きます要領を考へる一つのサジェスチョンを與へるものであると思ふのであります。前にもお斷りしました様にこの保育項目の取扱ひの材料に就て私は困つて居る材料、その困る問題を申上げまして、そのこんな風な所が多少考へて行く價值がありはしないか云ふ所に皆さんのお考を促したに止まるのであります。(第二日了)

二日間大變綺麗な中幕が這入りましたが、又前に續けまして話して参ります。

其處でさう云ふ風なその立場、即ち子供の生活の中から見て行きますと、保育項目に云ふものは極めて生活の中にある自然のものになつて了ふ。子供が話をして居ります。それを此方（こゝち）はよききゝてゐなつて、其處から談話に云ふものを發生

さして行く。遊戲の方はさうは行きませぬが多少此方が先に踊りかけて生活の中へ持ちかけて行く。觀察さが製作さか云ふ様なものはそれよりも一層生活の中に其儘捉つかまへられるものであります。

併し乍らこれは保育項目と云ふものゝ保育の中に於ける位置及び取扱ひの要領でありまして、更に方面を換へて、先生……と云ひますか……の側になつて見ますと、その保育項目によつてそれ……の効果、即ち教育的効果とでも申しませうか、少くも効果を其處に期待……その効果を現はす爲に保育項目を使つて行く……と云ふ方面は勿論あるのであります。保育と云ふものは改めて申します迄もなく、子供は子供で生きて居り、先生も半分位生きて居る……子供と較べますと……その生きて居りますものが一緒に生きて居ります其處に行はれて居ります生活事實、これが保育なのでありますから、子供の方の氣持と先生の方の氣持と、兩方がぶつかつて行く。或は解けて行く。しよつちうぶつかつてばかり居る。火花を散らして居る、火花幼稚園もありますし、それがなだらかに解けて行く處もあります。丁度川が海に這入るあの川口の様なものでは海の波でよせて居ります、川は川の流れでそゝがうさして居ります。それが旨く行けば何時の間にかずつと海

に入つて了ふのでありませう。殊に子供の方が勢力が弱いならばずつと行く隅田川が東京灣に何處から這入ることもなく這入つて行きます。それは東京灣の波が海らしくもない淀んだ海であるからであります。所がその海が海らしい烈しさをもつて居りますれば、其處へ流れて行く川は弱く這入らない強くぶつかつて其處でがや／＼します。それからあの川の急流が荒波にぶつかつてがや／＼して居る状態、あゝ云ふ幼稚園があります。泡立ち浪騒ぐ、傍に居る者は掌でびしょ／＼になつて了ふ様な幼稚園であります。其處で先生の方から子供の方を抑へて、まあ此方から流れない時はお前、勝手にやつてもいい、併し此方が流れて行く時はお前の方で制して呉れなきや困るじやないか。斯う云ふ行き方で行く幼稚園もあります。それから又、向ふを「うゝ」云々唯、猛らしておいて、此方はあゝ同ふが生きて居るのに此方が生き様としてはどうも彼處でがや／＼しますから、兩方ともくたびれますから、況んや尙此方がくたびれますから、此方はそつと控へて居ります、丁度今、海は上潮でありますから川が逆様に流れて居ますと退去法をこる保育もありませう。兩方生きて居るものがぶつかつて居る。其處に何時でも保育の問題がある。其處で先生と子供が唯、たゞ云ふのは在來の言葉を借りて云ふので、たゞ云ふ以上はたゞならぬものが何處かになければならないのであります。所謂たゞ遊んで居る時はこれがそれで済むとして、所謂保育項目なんぞ云ふものを持出して來ますと、其處で問題が起る。保育項目を注ぎ込ませ様云ふ方を第一において向ふの方を後で考慮するか、向ふの波立つ、向ふの勢ひ、力強い生活そのものゝ中で保育項目の問題を結びつけて、此方を捨てるんじゃないが、此方がなくなるんじゃないやありませぬが、それは寧ろ後から考へて行くが、其處で問題の考へ方に分れが出來て來るのであります。

其處で私の前二日のお話は在來往々にして子供は保育項目なんぞ云ふ事は全く無關係に生活して居るものとして、此方から保育項目をもつて行くを考へられて行く從來の考へ方を逆にしまして、子供の方に保育項目が、あの生活の中にあ

るに、あるに云ふそつちの方を活かして行く。こつちの方から保育項目を發生させて行かなければならぬ所謂、保育の中に於ける保育項目に云ふ正しい位置にはならない。斯う云ふ事を申したのであります。従つて云ひ換へて見れば、子供の方の側に先づ則して保育項目の問題を考へたのであります。これが前二日の私のお話、其處を何處迄も認めておきますが其處を認めなければ保育項目にならないに私云ふのであります。曰く遊戯曰く談話曰く手技曰く觀察に於ても保育項目にはならないに斯う云ひ度い。それ程子供の方を本體にして生活の方を本體にして考へて行きますが、この「が」に云ふのは二日の間に「が」に云ふのが出て來たのであります。二日の間に、一寸まあ二日間^{あひだ}があつて宜しかつたと思ひます。別に「が」に云つたつて、強く響きませぬが、二日の前には子供の方を本體にしてそれを何處迄も考へて居つた。それを今日別に轉向したのじやありません。二日の間につらく、考へて見たが、あれは間違ひであつたに云ふのではありませんが、二日の間それを、僅か二日の間ちやんこ落つけておいて、「が、併し」こつちにもこつちの所存がある、に云ふ所に今日から這入るのであります。

こつちの所存は即ち保育項目を効果的に何うねらつて行かうかに云ふ所であります。

保育に云ふ事の中に於ける保育項目は必ずして効果を先にして發生して行くものではないのでありまして、子供の生活の中に成程あんなものがあるな、に云ふので出て來るのであります。併し乍らこつちの側に就て云へば効果に對する所存があるに、斯う云ふ話になつて來るのであります。もう一度申しますが保育項目に云ふものが往々にして先生の方の教育目的の方から、造り出されたものゝ様に考へられて居るのを、私は絶対に反對する。子供の生活の中にあるものだから、生活として生長させて行く性質をもつて居るものである。これが保育項目の効果的ならひどころ、に云ふものを幼稚園の中で實際に取扱つて行きます要領であり、或は原則であります。然もその子供の中に保育項目をさう云ふ要領で取扱つて

行き乍ら、こつちには願くば斯う云ふ効果が現はれかし、效果的ねらひぎころを現はしたい云ふ所存があるのであります。こつちに所存がある。さうもその幼稚園の先生ばかりじやない。一般の先生云ふものがさうですか、……何うだか私知りませぬが……所存を持つて居るミ、所存を顔の先に出して丁ふ人が随分あります。これは淺はかな人である。胸の中に所存をちやんこもつて居つて、向ふ様に則してやつて居つて、所存は所存で、ちやんこもつて居ればいい。向ふ様に則した保育をやらなければならぬと思ふし、所存をもつて居れば所存が先に出てしまふし、さうも其處の所が實際に於て旨く行かぬ様であります。保育項目の取扱ひ方は何處迄も向ふ様を主にして行くけれども、その中にこつちには所存があるミ、その所存を效果的ねらひぎころとして、可笑しな假名で書きましたが、本字で書きますミ、一口に丸藥の様に於て飲んで御了ひになるミいけないから假名で書きました。ねらひぎころです。ねらひぎころ、さう云ふ意味で何れからやつて行つてもいいのでありますが、まあ此處にお話をもつて來ます。

(一) 談話

取扱ひの要領云ふ事で談話の事を申しましたのは談話そのものゝ事を語つたのではなくして、保育項目全體に關する具體的一例として談話といふものを引いて來た。今度は談話といふものを一つ抜き出して考へる場合、これには何ういふ所存をもつて居るか。丁度それ〴〵の食物をあてがひます時に、こつちから食はせようなんて接待法はありやませぬ。向ふが食べたいか、「何が好きでござんすか」と聞いて食べさせるなんて接待法はない。何か好きか、なんて聞かなくつても向ふが好きさうなものは大抵解つて居る。好きさうなものをこつちで考へて御馳走するのですから。……食物に就ては色々な食物がありませう。こつちの食物の方が榮養があるミ、一つの所存をもつて居る。その榮養を與へ度い云ふ所存を、まるだしいとしては食物になつて來ないし、「君が食べたい云ふから榮養もなくて毒にも藥にもならぬけれども、それ

を持つて来た」云ふのも食物の出し方じゃない。その食物には一品一品の特有のねらひどころが出て来る。談話に就てそのねらひどころは何處にあらうか、云ふ話になります。これに就てまあ、先づ普通考へられて居ります談話の保育項目の効果はこれによりまして、或は教訓を與へるゝか、或は觀察をさして智識を與へるゝか云ふ様な、所謂内容効果……

一 内容効果

この内容効果の中には色々あります。

忠義の話をするれば、忠義云ふ事に就ての内容効果が子供に與へられませう。親孝行の話をするれば孝行云ふ事に關する内容効果が與へられませう。親切云ふ話をするれば親切云ふ内容効果が與へられませう。これは確かに教育である限り大事な事であるし又さう云ふ効果が現はれるに決つて居りますが、これはまあこゝで改めて云ふ必要もない程決りきつた事であります。つまらぬ云ふものではありませぬ。これは決りきつた事かと思ひます。決りきつた事かと思ひますからもうこれ以上申しませぬが、そのみならず私は談話云ふものを保育項目として取扱ふ時にこれは勿論大事ですが、これだけに止まつて居りはしないか云ふ事を心配する。「あなた今日は何のお話なさるの」「今日はね、楠正成の話をする。だつて忠義の心を養はなければいかぬでせう」「私はね、もう忠義は先週やつちやつて今週は正直云ふ事を養はうと思ふから何か正直を養ふのにいゝお話はないか？」正直談話集云ふものを探します、ワシントンの子供の時の話、あゝこれがある。さういふこれをもつて來て話さう。それをやるのであります。斯う云ふ事は悪い事ではありませぬ。皆さんが子供を教育する時にそれ／＼大事な道德的訓育的效果をねらつていらつしやるのですから必要の事でありませうし、それを達する手段としてその内容をもつて居りますお話をお持ちになる事も賢明な一つの方法であります。それも宜しい。ちつ

さも悪くない。私決して反對して居るものではありません。併し此處に私の問題にしたい事は正直云ふ事を教へる爲に、解らせる爲に、訓育する爲にワシントンの話をする云ふ事だけで折角の談話云ふものゝ効果がそれつきりじや、誠につまらないと思ふのであります。若し正直云ふ事を子供に感じさせ、教へる云ふ目的だけならばまあ、極端に云つて見れば、正直でなけりやいけない。兎に角正直になさい。「私はあなたを正直者にしたくつて堪らないのよ」斯う云つて頼んでもそれでいゝのであります。現に折角ワシントンの話をし乍ら、さうやつて居る人があります。「今日、正直に皆さんがなる様に願つてお話をする」、子供は顔を見合して聞かない中から解つてゐる。「後には正直になるぜ」なんて云つても、先生心配なものですから話の途中で「アメリカにワシントン云ふ子供があつて……今、私正直の話をして居るのよ、子供の時に櫻の……櫻の話じやない、正直の話を……」絶え間なくそれを云つて居る。さう云ふ事をやつて居られるのは、ワシントンの話をし乍ら、ワシントンの話云ふもの、それを、折角、あなたが談話云ふ一つの藝術ですが、その藝術としてお取扱ひになつて居る云ふ事を餘り無視して了つて居る云つてもいゝが、内容効果をおねらひになる事、それ自體は決して悪い事じやありません。お話の材料を選ぶに就ては、内容効果を充分にお選びになりまして、日本國民として學ぶべき色々な方面に就て行届いた内容効果のお話をお選びになる。お話選擇の要件としては大事であります。一寸又餘計な事を云ひますが、お話は選擇じやありません。お話選擇は樂屋でする事で、お話しは今子供に向つて今度、舞臺で話して居るとして、「實は私はこの話をするに就て色々樂屋で苦心したのよ」なんて事は餘計な事です。役者が舞臺に出まして「斯う云ふ風に見えますには、これで色々苦心致しました」なんて事を云ひはしません。その所謂、樂屋の問題としてはお話の内容効果を大いに御考へにならなければなりません。換言すればお話を選ぶ迄の問題であります。

さて本當に生々しく生々しく子供に向つて、あなたが話を始めて行く段になりますならば、別の問題が起つて來るので

あります。一寸此處で纏めた言葉を使ひます。「教育者は目的に片寄り過ぎて、そのやつて居る事の特質を充分に尊重しない。」ミ斯う云ふ、これは、吾等ら大事な言葉だと思ひます、そのお話をする、お話の目的の方は考へていらつしやる。そのお話をしていらつしやる特質に就て忘れて居るから、お話が本當に生きて來ないのであります。

そこでその所謂内容効果を捨てるんじゃない。これはもう樂屋で濟んで了つて居る。非常に大事な事も、今此處で子供にお話をして居る時に何處をねらつて居るか云ふ、そんなに偉さうな前置きをして居ますが、極めて大事な、

二 聽かせるこいふこと

聽かせるこいふこと、或は聽くこ云ふことを養ひたいのであります。「なんだ、お話をして居れば、向ふが聽くに相違ない。そんな事をねらなくても向ふは聽いて居ます。」云ふかも知れませぬが。人の話を聽くこ云ふ事は生活に於てかなり特有なる重要な態度でありまして、相當に教養を要する問題であります。この前に保育項目を生活の中に取入れて行く要領として先生は話の旨い人であるのみならず、先づもつて子供の話をよく聽き得るきゝて、こしての優れた人でなければならぬ云ふ事を申しました。先生が子供の話をよくきく人でなければならぬ。紙屑籠の様な大きなお腹をもつて居る人で、何でも入れちまほうとする人でない事であります。

きくこ云ふ事が先づ先生に大事だ、云つた事さ結びつけまして、子供に人の話を聽く事を養はなければならぬ。話を聞くこ云ふ事は勿論内容が面白いから聽くでせう。けれども私は内容の面白い、面白くないに拘らず、人がものを云つて居る時にそれを本當に聽くこ云ふ事は立派な生活態度だと思ひます。何も私の講演を聞くのに……事をかう廻り遠く云つて居るのではないですが、假に私の話が非常に面白ければ、どんな人でも聽きます。猫でも犬でも猪でも蛙でも聽きませう。さう云ふ話、よくきくのですが、音楽をやつて居たら、獸がみんな集つて來た。私のつまらぬ話をきいていらつし

やるに就ては所謂、内容効果が養はれた云ふことは、きく云ふ特殊なる態度に於て優れたる諸君である、斯う云ふ事になつて来ると思ふのであります。その聴く云ふ態度に就て、併し乍ら又、思へらく、皆さんのは多分何時又、私の申します私の話を今此處で聴く爲に來て居る云ふよりは、後でなんか役に立つだらう云ふ、その時に、今聴いておかなければ困るだらう云ふので、今は仕方なく聴いておいでになるんじゃないかと思ふ。戸倉先生の遊戲なんかはつひ釣込まれて踊つちやつて、後で忘れちやう事ははつきりして居るんですけれども、此處の場合は取敢えず後の爲に今聴いて居る。これはまあなん云ひますが、自己お爲ごかし、ミでも云ひませうか、自分云ふものは聴くのは嫌なんですけれども、右の手に言ひつけて「何處が大事なのか、兎に角書いておけ」。書いておいて後でひつくり返して見るとして。

中には氣の利いた人は何か速記していらつしやる様だから、後は後、なんて他の事を考へて居る。私の此處で云ふのはさう云ふのではないのです。内容の面白い云ふのでもなければ、後で何か爲になるから、云ふのでなく、人がものを云つて居る時にこつちが聴いて居る。これだけの事であります。これが出來さうで出來ないのであります。先生だつて子供の話「きゝ上手」云ふ事が却々難しい事、私この間申しました。その先生によつて教育された子供は段々そつちへ行くべきであります。

若しそれがお話の効果としての一つのねらひどころとすれば、さう云ふきゝてになる様にこつちは話して行くこつちが大事です。所がこれを又ちやん云つて居る人がある。「聴きなさい。解つても解らぬでも兎に角人の言つて居る事は聴きなさい。」なんて言つて耳なんか引張つたりして、そして聴く稽古、この所謂聴かせる爲には勿論こつちも聴かせる爲に旨くやらなければなりません。何故お話にあなたは技術をお用ひになりますか。何故話方の技巧に就て苦心なさるか。あの精神を集注する事の出來ない未だ年齢の子供がある時間の間、兎に角先生の話を聴く事を楽しみ、聴く事を生活する。その

練習をさせたい爲だ。ミ私は言つて居る。子供に話なんかしていちやうしやる若い先生の傍へ私が立つて居りますミ頻りに斯う旨くやつていらつしやる。子供ミ先生ミ斯う話を先生がしていちやうしやる處へ時々私立つて居りますミ、こつちばかり見ちやあ斯う斯うやつて居る。先生も子供に聽かせるなんて事は考へないで「何うです」なんてやつて居るし、子供の方も「うちの先生、旨いでせう」。ミ云つた様な顔をして居る。斯う云ふのはこれは技術を技術ミして用ひて居る。遊んで居るあの子供に聽くミ云ふ練習をするのです。所が技術が餘り拙くつちやあ、聴いちやあ居られませぬでせうね。まあごんな好きな人が拵へて呉れた御料理だつて餘り不味くつちやあ食べられませぬ。一寸斯う吃る先生の話は、聴き度いミ思ふ聴き度いミ思つて居る所迄がいゝので始つちやあやりきれないミ思ひます。ですから一通り旨くなくちやあいいけませぬ。旨くなくちやいいけませぬけれども、其處の所で私、實に變な事を申します。餘^{あま}まり旨くちやあいいけないミ思ひます。私なんか話をするのにこの位の旨さで止め様か、ミ云ふ事に苦心慘憺して居ります。私が一ぱいの話をすれば、旨さそのものに酔つて了ひます。私が水を注いで出しても、向ふが酔ふ程にお酌が上手になり度いミ思ふ。「勝手に飲め」言つても、酒がいゝから向ふが酔つて了ふのでは何處に私の存在が生まれようか。まあ、私の注いで出します水を、それを受け取つて飲むミ玉露だミか何ミか言つて飲んで了ふ。如何にこれを旨くしようか、ミ云ふ事も苦心しますが、餘^{あん}まりこれが旨いミ私ミ云ふものゝ存在がなくなつて了ふ。度々申します。話ミはあなたがその子供にして居る事であります。話そのものが幼稚園の中に、フラ／＼泳いで居るのではありませぬ。あなたが居なくなれば話はなくなる。子供が居なくなつても氣がつかないでやつて居る人もありませんが……所が餘り旨い話、餘り旨い話ミ云ふものはつひ其人^{ひと}がなくなつて了ふ。多分此處の頃は申上げる迄もないかも知れませぬ。「いやそんなに御心配か」ミ仰有りさうなものだミ思ふ。「今、私話して居るんですが、うっかりこれじや私、旨過ぎるかしらん」ミ御遠慮にならない方がいゝミ思ひ

ます。

寧ろこつちが子供に何うしたらつくか、ミ云ふ事に技巧以上に……やる話の技巧ミ云ふものも大事ですけれども……その後、何うすればその話がその事へくつつくか。……

あの美味しいお菓子を子供におやりになる時……子供を喜ばせる爲に美味しいお菓子を選んでおやりになりますうが……子供に一す、やつたらよささうなものを、子供にやつて、子供に持たして、その上御自分の手で又持たして「上げましたよ」「これおばちゃんが上がりましたよ」「貰つたものは「おばちゃん有難うよ」「詰らないお菓子ですけき」なんて……家へ歸つて明けて見たら、皆んな潰れちやつた。それでも嬉しいものです。

さう云ふ事をなさるならば、話だつてその人にする。それに行かなければならぬ。中には話を天井にして居る人がある。そりやあ、何か、雲の話をして居るなら別でせうけれども……

或は技術でちやんミ、此處で手を打つて、何う……ミ何處かで習つて來た技術でやるものだから、見えなくなつて了ふ。こじによつたら、子供の頭なんか一つ位、擲つたりしてやつて居る人がある。

その人に話して居るんですけれども、こても妙な人があります。あれだつて二人で話して居る。廣い世の中、二人で話して居る時でも話の相手の顔を見ないで話して居る人がある。私はぎつちへ行つていゝんだか、私心配しちゃいます。これが私ミする。「先生、さうも御機嫌よう」なんてあつちを向いてやつて居る。私は向ふへ廻つてしなければならぬ。子供に話をする時にはこれへ話さなくちやいけません。兎に角話なるものをこつちはするんだ、「耳を開いて聞いてろ」なんて行き方ではいけません。その話をこつちからちよつちよつこの眼で話をしなければいけない。眼で話をする。眼を使つて話をする。眼を上げるミ話を忘れちまふなんて人がありますが……その眼をちやん／＼ミ動かして行かなければなら

ない。一組居りまして、先生が話をして居ります。本日は先生の御眼を頂くものは半分、片方はお話のおこぼれを頂戴する。「今日先生話をしていらつしやいましたね。けれども僕の方には一度も眼が来ませんでしたね」眼をちゃん／＼使ふ。餘りぎよろ／＼してはいけませんまいが。………

話をその子へする。さうするに云ふ態度が養はれる。聞くに云ふ態度が養はれる。若しその子が先生が眼をちよつ／＼使つても聞くに云ふ態度がなかつたならば、何うかして聴かせる様にひきつけて行く。話なん／＼いふものはまあ／＼なんでもないんです。私、話はちゃん／＼昨日選ばれてる話で練習の出来てる話です。唯本當に苦勞が要るのはあの子が聴いて居るか、あの子に聴かせるか、に云ふ事に注意を配つてする、中には後で一番終ひに「これでお終ひ」なんて云ふ人があります。「要するにお解りですか」片つ方は「聴かなくなつて解つてら」「あゝさう／＼いゝの、解りやあいゝの」なんて云ふのは、内容效果に偏し過ぎたものです。この時間が済みます、放送局へ行つて放送しますが、放送局へ行つて居ります、こいつが出来ない。唯、話を天に向つて「あゝあゝ」に云つて居る。「あなた」に云つたつてどんな野郎だか解らない。「あなた」に云つたつて誰も居ないか解らない。向ふの人がどんな顔して居るか。私の眼で睨んだつて何うにも通じない。だからあれは、唯、唯、内容を傳へるだけなんです。

所がさしむかひ、そして僅か十人か十五人の少數の子供を集めて、話手が話を聴く人に結びついて、子供の方では、二回、三回、四回、人の話が聴ける様な精神的態度に變つて行かなければならぬ。「家の子は幼稚園に行き出しましてから、人の話がよく聴ける様になりました」に斯う云ふ效果にならなければならぬ。

三 情緒の素直な受取方

聴けるに云ふ事の中に這入つて来る事ですが、一寸其處は内容の方にもう一度進んで行きます、話の中にある色々な

感情、話とは何處迄も情緒、情であります。何もその人に悲しい、センチメンタル云ふのじやありませんねけれども、何か話手には情があるんです。その話手の情、その話の中にある情、それがちやんこ素直に受取られる態度を養ひたい。これを、情緒の素直な受取方、妙な言葉ですけれども、これが却々なんでもない様で出来ませぬ。人が悲しんで居る時に素直に聴いて居る中に笑つて居る人がある。さう云ふ人は反對に受け取るのです。人間人間の觸れ合ひに於て非常に大事な事と思いますが、さう云ふ事の練習云ひますか、效果云ふものは此處に得られる。先生のお話をしていらつしやる時の情緒、お話し云ふのは情緒ですから、そのお話をしていらつしやる時の情緒を素直にそれを受取らせる、お話が解る、云ふ言葉はお話し云ふものゝ理智的部分に對する受取方であります。「成程、なる程、さうですか、強い者があつて弱い者より矢ッ張勝ちましたか。なる程」なんて云ふのは「なる程」です。その「なる程」じゃないんです。先生が悲しい心をもつて話中の人物に同情をもつて話していらつしやる方に同情して来る。その感情が、情緒が素直に子供の方に受取られて行く。これですね。話のいゝ味ひ方がありますが、話で養はれるのではないかと思ひます。「人の情緒なんか素直に受取らなくたつていゝや」云々仰有ればそれつきり……。私は根本に遡つて道德論をして居るのではない。部分的にお話をして居るに止まるんですが人の情緒が素直に受取れなくなつて何うする？こつちに色々な情緒が起る云ふ話じゃないんです。人の情緒が素直に受取れるんです。所がこれをまあ所謂效果のねらひどころなさいました時に何う云ふ効果を實現して行く可く、皆さんが此處の所では、さうも教育者云ふものは世話がやけるんですが、「今私は正直な話をして居るのよ」云々吹聴なさる如く、此處の所でも「よくお聴きなさいよ。兎に角よくお聴きなさい」云々如く、此處では又、「あゝ本當にね、花ちゃん可愛想ね、可愛想だと思はない？」なんて事を仰有る。「先生可愛想で堪らない。先生と同じ様に可愛想だと思ふ人手を上げて」なんて事になります。これは成程、先生のもつていらつしやる花子に對する悲しみを素直に受取ら

れるとお思ひになるから、仰有るのでせうが……

何故素直に云ふ字を私使ひましたか、それには二つある。

一つはすぐに人の感情を反對的に受取らない。さう云ふ人があるんですよ。實際さう云ふ子供がおりませう。花子が可愛想だと思つて話して居るに「あゝいゝ氣味だい」云ふ様な、何だか大した、罪もない事を云ふ子に、もう一つ、私が特に素直に云ふ字を使つて居りますものは、觀念を通さずして、云ふ意味がある。花子の可愛想な事を話して先生も可愛想になつていらつしやつて、話をし乍ら、「あなた可愛想じゃないの、誰だつて可愛想に思ふべき筈のものである」斯う仰有つて子供が始めて可愛想になつて行くのでは、觀念を通して居るのである。折角お話し云ふ藝術的な效果をもつて居りますものをお使ひになる時に、それを觀念でくるんだり、觀念を仲介にしたりするといふ事は實に惜しい。實に惜しい事である。惜しいし、談話としての眞價を失つて了ふ事でもありません。

其處で目的に就て觀念的に云つちやならぬ如く、此處でも觀念的に云つちやならぬ。

さうだからこそ、先生は話の一つに充分なる情緒をお持ちにならなければこれが實現しませぬ。

多分、「あの花子可愛想ね。氣の毒で堪らない」で、「斯う云ふ場合には氣の毒になるのが普通の人情、あたり前ですわ」云ふのは、可愛想だ、云ふ氣持が一ぱいになつて先生が話していらつしやる、ここによつたら先生話して居る中に涙が出て来る、その子供が見て、「やあ涙が出てらあ、先生泣いてらあ」云ふのじやなくて、あの可愛想で眼が潤んで来る云ふ所に行き度い。「悪い奴ね、弱い者をいぢめて」先生も話して居乍ら義憤に燃えて来て、本常に悔しい、云ふ、斯う云ふ氣持で話していらつしやるに、子供も本當に「うゝ」云つて聽いて居る。うづかりその時ですね、「斯う云ふ時には誰だつて義憤に燃えますね」なんて云つたら潰して了ふ。先生は本當の情緒が出て居なければいけない。幼稚園で氣の抜け

た話を聽いて育つ子の不仕合せを思ふに氣の毒に思ふ、氣の毒に思ふ……云ふに觀念になるから斯う(身振にて)やつておきます。

子供の方では斯う話を聽いて本當に可愛想だと思ひかけて来るんですけれども、先生はその話を就職以來、三百六十五回やつて、もう何の悲しみもなくなつて……子供の方は顔を見合して「先生はちつとも悲しくないぜ、さうも變だ變だ」に思ふ中はいゝんですが、折角やつて居る人が悲しくないんです。こつちも聽いてる中に段々麻痺しませうし、段々すれつからしになりませう。幼稚園でお話は斯う云ふ所に考へます云ふさかなり、眞剣なものでなくちやならぬ。だから旨い話に云ふ様な事をうっかり言へませぬ。旨い話、技巧上の旨い話、こんな事は出来ませぬのです。大きな子供を擱へて行く時には又別な問題になつて行きますが、幼兒に素直に受取らせる場合は技巧なんかで行くより、もう少し進んだものがあります。斯う云ひます云ふに、話をする爲に先生は義憤に燃えたり、悲しみて悶えたり、こつちの部屋では先生が言ひかけて泣いて居たり、こつちの部屋では怒つて居る大變な事になつて了ふ。まあさう云つておきますが、一體が幼兒の世界に於ける情緒の生活が淡いものでありますから、そんなに先生が、青年に向つて失戀の話をする様な濃厚な感情を動かさなくたつていゝのであります。この狸のお嫁さんが、この王様の所に行く事になつたれども止めたんです。なんて云ふ……子供はそれ程に思ひませぬ。「矢ッ張、尻尾を動かしたの」云ふ位の話で行くんですから、その淡さは淡さでいいんです。情緒云ふから濃厚にいつて居るんじゃない。然も先生は情緒を起して、兎に角それが素直に向ふに受け取られて行き度い、こ斯う思ふのであります。

この抽象がさう云ふ様に受取られて行きますからこそ、本當に聽けて来る。「私は聽いてる。餘程、鼓膜は目下、振動して居るけれども情緒は動かぬ」云ふのは物理的に聞いて居る。これこれには實は一つであります。こつちは態度、心の

中で動いて居ませう。

此處で線が又一つ這入りまして、變つた問題になりますが、聽いては居るんですが、……聽いては居るんですが、何云ふのでせうね。實は此處の所が奇妙な問題でありまして、

四 動的聽き方(或は活動的聽き方)

動的聽き方、或は活動的聽き方でも言ひませうか。聽く、云ふ言葉の本來は受動的受取り方です。所が幼稚園で話を子供にします時のあの談話云ふものゝ持つて居りますものは、受動的にきくばかりじゃなくて、發動的にきく、精神活動を促し度い云ふのが動の一つのあらはれとなつて居るのであります。あの話をきくのゝに話の種類に依て……種類云ふのは話の内容じやないが話云ふものゝ性質によつて色々のきゝ方があります。例へば軍隊なんかでちやんこ命令をきいて居る時なんか「ハッ」きいて居りやあい。「何か斯うして……」「ハイハイハイ」きいて居ればいい。或は、叱られて居る時なんかは黙つてきいて居りやあい。頭を下げてきいて居る。「ハイ、恐れ入りました」もう一度悪い事をしたいと思ひます、なんて言つちやあいけない。言つて居る方も「分つたら後できつくり考へて御覽」云ふだけで下つて了ふ。あまりうるさい小言なんかは「ハイ……」言つておけばいい。斯う云ふすべからず、かきゝ方云ふものがあります。所が幼稚園に於ける、先生方が子供にお話になるのはさうじやないんでせう。「皆さん、雨が降つたらば傘をおさしなさいよ」「ハイ」そんなのならばあの情味たつぷりで話していらつしやるあの話じやないでせう。その用件を傳へるんでもなし、此方の氣持を向ふに傳へるだけでいんじゃない。話、云ふのを取扱つて居る時には、きく、云ふ受動的態度でもありますしその實……何言つたらいいんでせう、きいて居るんだか言つて居るんだか分らぬ様な態度にならなくちやいけない。「先生の仰言る事一々分つて居ります。決して居睡りはして居りませぬ。一言漏さずきいて居ります。

肝に銘じて居ります。肝よりも、もつゝ色々な物に銘じて居ります」云つてきいて居る丈じやないんでせう。「昔々或處にね」斯う仰言るゝ「或處にござうかなつた」思ふ。あの話をきいて居る時には、先生が云はれて、ござうかなるのみならず自分で……何方が先だか分らない。「狸も出て來たの、狐も出て來るに相違ない」なん云つて居る。「それから何うなるんでござんすか。それだけでござんすか、もうおしまひでござんすか」云ふ話ではない。先生が云ふのあとさき後先して自分が言つて居る如くきいて居る。之を心理上の言葉で、想像力を働かせつゝきいてゐる、云ふさあなた方の様な學者にはお分りになります。單に受動して居る丈でなく、想像力を働かせつゝきいてゐる、私は何時でも妙な事を思ふのであります、本當に子供にうまい話が出來てその途中で、先生が用事が出來、三分の二位で先生が行つて了つたら残つた子供は何うなるのがいゝでせう。「先生が來なくちや話が始まらない。兎に角その間黙つて居よう」、「これから何うなるか先生が來なくちや後が續かない」云つて煙草でものもんで……まあ幼稚園の子供じやあ煙草ものまないでせうが、そんな事をやつて居る。さう云ふ事があります。吾々呼び集められて委員會の相談なんかの時に「皆様のお力を借りなければならぬ。斯うくくくく」云ふ段取りで「一寸失禮します」云つて了ふ。此方からさう云ふ事を進んで考へて行く云ふ事は嫌ですから願はくは其處から行つて了ひ度いが、さう云ふ譯にも行かず、出て來たら話が始まるだらう。それ迄は他の話をして居よう云ふ態度で、それこそ煙草でも吸つて居る。

所が、先生が面白い話をしていらつしてそれが途中で切れたら、その切れた事も忘れて、先生が居ない事も忘れて「それから斯うなるんだよ」「先生が居なくなつて斯うなるんだよ」「僕はあの話と一緒に動いて居たんだよ。しまひ迄は行かないが暫くの情性は僕残つて居るよ」「いや僕は斯う思ふよ」云つて、積極的態度で話し出す位に動的性質のきゝ方をして居る。斯う云ふ態度云ふものは詰り人生に於ける熱です。「あゝさうで御座いますか、へー」それだつて宜しう御座います

ちやいけませぬ。ボカツミ止めて、何處が續きであるかミ云ふのはいけませぬ。そこでうつかりミ「あれなんです。野原で誰も居ないでせう、小さい狐が大勢に追かけられて……」なんて云つて待つて居る。さつさミやつて了ふミ困つた、ミ云ふ話が生きて來ない。「随分困つて彼方へ逃げ此方へ逃げ……」ミ先生がやつて居るミ、子供達がその間に「此處に行けばいいのに、あゝ助けてやり度い」さう考へる。中には其時「大丈夫だ、逃げるよ」確に逃げるよ、利口なんだもの「ミ云ふ、將來男伊達にでもなりさうな子供も居る。さう云ふ氣持。女の子なんかは助けてやりたくてジリ／＼しませう。何うしませう、あなた「ミやつて居る。そこを見まして置いて、あなたの既に考へたる如く」なんて言つたのじや手づまの手が出て了ひますから知らん顔をしてすん／＼やつて行くのであります。このポーズミ云ふのが上手に使へるミい。所が「私、今日話をし乍らつかへたの、さんでもない所でつかへたの、昔々々……」之じやあ子供が出さうにも出せない。イマジネーションの動きに方向づけがしてないから仕方がない。イマジネーションが行くところ迄は先生が持つて行く技術がある。言ひ盡して／＼ミ云ふのは、話術の極致です。黙つて居れば皆私が言つてあげるから、ミ云ふのは、此意味から行けばいかんのであります。斯う云ふ事の効果が段々現はれて來たミしますミ、お話に依て、子供は、心の充分働く人間になつて來るだらうミ思ふのであります。あの、文學をよく讀んで居ります人は大層心が色々ミ働きます。學術の理を通した本なんか讀みつけますミ、人からきかなければ眞實はないミ云ふ事になります。本を間違つて讀む人は、眞實は他所にあつて、寄りかゝつた氣持になります。が文學を讀むミその中からイマジネーションが我々をリードして呉れるから、我々もさう云ふ風になつて來まして、子供の心の本當の動きを造つて行く、斯う思ふのであります。こゝで又切ります。

第五ミしまして

これは大した事ではありませぬが、話によりまして斯う云ふ事を色々やつて居ります中に斯う云ふ事が出て来る。第二次的効果云つてもいゝでせうが少し言葉が強過ぎますが……寛容云つた様な事が養はれる。寛容、云ふまゝ少し言葉が大き過ぎます、強過ぎますが……。この寛容云ひますのは何う云ふ意味か知りませぬが私の符牒で、これに私二つの意味を持たして居るのであります。一つは少し大きなのですが、人生には随分色々な場面もあり、種類もあり、方面もあり、フェイスもある云ふ様な心持が養はれる。言ひ換へれば我々が現實の生活に於て、色々な人に會ひ色々な場面を経過して來ます、我々の心にある寛容性が養はれる。言ひ換へれば自分を本體とした一切の判定斷定云つた様な事から、まあ色々な事もあるもんだ云ふ事から一種の寛容精神が起つて來るのは、世の中で經驗を積んで居る人に屢々見るところであります。之に似たるものが、お話を色々聞いて居ります中に起つて來るのである。そこで、その寛容的精神云ひますか……寛容的態度云ふ様なものを養つて行きます爲にはお話は色々ミヴラエティー……種類の多い方がいいのであります。若しも或内容的効果を徹底して行かう云ふ事だけ思ひましたならば、効果を徹底すべき様な事だけを澤山話して行けばいゝ事になりますし、往々さう云ふ事があります。所が私は、内容効果も大事ですけれども、あゝ云ふ文學、藝術云ふ様なものから特有に與へられます修身ではなく、文學藝術云ふ様なもの特有の効果、斯う云ふ所にあると思ふ。私は世間をあまり知りませぬが、色々な小説を読みますので、人の心持は色々ある、云ふ事が分る。色々芝居を見る、馬鹿々々しいと思ふが尤もだと思ふ事もある。それで私がどれだけ寛容な人間になつて居るか居ないかは別問題であるが、目下しつゝある。そこで、色々ヴラエティーのある話を子供に聞かせて行けば——此方から言へば弱い様であるけれども——文學のお話でも、此方を狙ひ度いと思ふのであります。

皆さんに敢へて問ひます。皆さんは幼兒を保育して受持の先生となり乍ら、自己云ふものを子供に及ぼして、如何に

考へていらつしやいませうか。或人は、自己を本體にして、もつと自己的に、子供を凡て私の様な人間にしようとお考へになつていらつしやる方もあるかも知れませぬ。或は、自分の様な駄目な者が擔任になつて皆にさう云ふ感化を與へてはいけないを考へて居る方もあるかも知れない。それで一週間交代にして行けば色々な先生に會ふ。私は、「私」が一年間二年間一人の子供を持つて居りました時に、私云ふものの狭さを考へました時に、何うして、子供に廣い世界を觸れさせるその手傳ひが出来るかと思ふ。其時に私の主觀をもつて訴へたならば、私の意見、私の主義、私の主張を以てやりましたならば、何時迄經つても私ですけれども世にある所のよき童話……或は日本の童話、イギリスの童話、フランスの童話、或はアナトールフランスの童話、トルストイの童話、小川未明の童話、云ふ様に色々な文學藝術の中から偏らない様に話をして行きました時に、私も亦その話を通して、廣き友を通して、眼を開けて行く事が出来ると思ひます。之は他の保育項目では出来ない、觀察なんかでさせる世には様々あり、なんて言つても寛容にはならない。けれどもこの所謂文學の世界に盛られたる色々な世界がある。或人はキリスト教精神の盛られたる人もありませう。佛教精神の盛られたる人もありませう。或人は……まあそんなで、寛容云つても程度がありますから、さう無暗に變つた廣い事を持つて來なくてもいいでせう。大人なんかならば可成り罪惡を盛られたる文學を読みまして始めて、道德的文學許りを讀んだ人間にない效果を得られる事がある。けれども幼兒にはよくない。まあ色々取り交ぜて行く。實に寛容精神は、話に依て養はれるのであります。私は、文學を讀まない人、藝術……主として文藝の方へ行かぬ人は年々共に、かくになつて行く事を屢々見るのであります。段々その人流になつて了つて、大きくなるに隨つて狭くなつて行く。所が文學、藝術の方に行く人は年々共に廣くなつて行く様な教養の仕方云ふものはあると思ふ。けれども幼稚園のところでそんな大きな效果は得られないでせうが、少し斯う云ふ事を狙ひ度い。

寛容云ふ事のもう一つの意味は、横にヴラエティーが擴つて多種多様になる云ふ事の他に生活……この次が實に難しい問題です。一つの實に難しい事件を一寸離れて見る云ふのが寛容です。所謂餘裕が出て來るのです。その餘裕云ふものが餘り激しくなります云ふは、之は眞實を失つて了ひます。文藝、藝術に滯^ちむ者が屢々陥ります所の大きな弊害は、餘裕が出来て來て眞實に離れて行く事であります。之は芝居なんか餘り見て居ります、眞實から遠ざかつて行きま。世間が皆芝居の様で、彼處で夫婦喧嘩して居る。却々いゝ取組だ、云ふ様に劇的に感じて來る。小説なんか讀んで居ります——下手に讀む言つていゝか、下手な小説を讀む言つていゝか——眞實性の盛られて居ない小説を讀むに斯うなる。けれども本當の文學を本當に讀んで行く人は隙間だらけの頭にはならない。又それに捲き込まれて眼も見えなくなる云ふ事にはならない。この餘裕の最もうまくいつて居るものをイギリスではユーモア申します。ユーモア云ふものは、一寸其所に隙間が出て來る。健全なる常識、健全なる生活云ふ様なものを少しづゝ具へて居るイギリス人的の常識であります。ユーモアがない……凡ての問題を餘り向ふや此方につけますサタヤになります。ユーモアサタヤがある。サタヤは日本で言ひます……何言ひますか、皮肉でも言ひませうか、チクリチクリ云つた様なものです。惡口を言ふのでも、ユーモアで行くのはサタヤで行くのとあります。睨むのだつて、睨まれる程氣持のいゝ眼、チクリ来る眼もある様に、同じ事を言ふのでもユーモアさうでないものがある。文學でも、ユーモア文學サタヤ文學とあります。サタヤの方は苦^{にが}い辛い澁い。何故さうなるか云ふは、事件を、餘り向ふをキューツと見つめる皮肉です。ユーモアになりますと軽く春霞でボーツと包む。こゝに何か喧嘩がある、非常に悪い事であります。それをユーモアに置き換へる。それが度が過ぎると不眞面目になる。實に兼合が難しい。

まあ、こゝのところに私はユーモアを少し養ひ度い。ユーモアは何も、洒落を言つたり笑つたり云ふのではない。も

のを見るに、チョツ／＼と樂な見方をするのであります。これは自分の健康にもいゝ事です。他人が何か悪い事をして、見るに耐へられない事があるがそれをユーモアで「色々な人もあるさ」と云ふ。「あのまあ本氣に怒つて居る顔のおかしい事」ミ言つちやあ人が悪くなつて了ふが、おかしい事じやないんですけれども、此方もボーツミして了はない餘裕です。斯う云つた氣持は随分兼合です。この、文學、藝術の人生に及ぼす力で、お話ミ云ふものも自然に其所のミところを狙ふべきではないかと思ふ。

あの恐い話を、先生が腹の中に情緒をいっぱい満して置き乍ら、先生はニコヤカな顔で話して居る。事件そのものに直面しないで眺めて居る形、眺めて居る所に上品さが傳へられるかと思ふのであります。之はまあ可成り難しい問題ですが斯う云ふ風に考へる。

そこで、談話の話が大分長くなりましたからこれでお終ひにしますが、私のお話をもう一度説明します。

談話の効果のねらひどころの、内容効果にある事はミより保育項目ミして大事であります。大事でありますけれども改めて申上げる迄もない、誰方も御承知の事であるから、此處でそこに力點を置きませんでした。この内容効果は、大事ではあります之はお話ミ云ふ特有なる保育項目に就てそれに限られて考へられる事でありませうか、之は一體、子供を教育しようミ云ふ全體の効果のねらひどころとして、常に何事に就ても考へられて居る事じやないかと思ふ。お話ミ云ふあの特有なるものに就ては、寧ろお話の持つ形式的な特質の方からの効果を狙ふ可きであつて、斯う云ふ問題がそこで出て来る、ミ斯う云ふ考で申上げたのであります。もつミ突込んで考へますならば、内容効果で限つて了ふ、こゝでお終ひにしてさふミ此方が留守になる傾向がある。お話をして居て、お話の目的を考へてお話をして居ないミ言つた様なおかしな事になつて来る。丁度、小説家が、小説を書くミ言ひ乍ら、出來た物を見るミ論文であつたりする様な、馬鹿々々

しい事に、幼稚園の話がなりはしますまいか。

こゝの問題から、寧ろ後の方に力點を置いて申上げたのであります。今日はこれで終ります。

(二) 遊 戲

これは、保育項目の効果のねらひどころ、ミ云ふのゝ中の第二、であります。

保育項目の、談話ミ云ふ方面に就きましては、昨日申上げた様な事を狙ふミ致しまして、あの遊戯ミ云ふ言葉は、何時も話に出ます様な工合に、自由遊び、それから所謂律動遊戯ミか、表情遊戯ミかミ云ふ様な多少特別に考案されました遊戯、この二つを含んで居る様でありますが、自由遊びミ云ふ方は、これは別に先生の力を以て始めて行はれて来るものではないのでありますから、幼兒生活そのものを問題ミして見て置いていゝ事かミ思ふ。その自由遊びの中に、教育的効果が、如何に潤澤に豊富に生き／＼して存在して居るものであるか、ミ云ふ事は、改めて申す迄もないのであります。隨て自由遊びを、幼稚園に於て尊重します時に、大きな教育的効果が、そこに現はれて來ます事も、言ふ迄もないのであります。これもさう云ふ事を狙つて自由遊びをさせるミ云ふよりも、子供が自然にします自由遊びそのものゝ中に、自らさう云ふ効果が起つて來るミ云ふだけの事でありまして、保育項目の効果のねらひどころ、ミ云ふ様な問題からは、少し別にして置いた方が分りいゝかミ思ふのであります。

そこで、さう云ふ意味で自由遊びを、あの保育項目の、遊戯ミ云ふ言葉から除く——要らぬ問題だからミか、詰らぬ問題だからミ云ふのじやないのであります。あまりに子供の生活にピッタリ自然に則して居るものでありますから、先生

ミ云ふ要素が、あの遊戯を幼稚園に入れて来る事に於てそんなに著しくないのでありますから除きまして、さうするミ私、こゝに……わざミ括弧をつけて置きましたが、括弧付きの遊戯が、保育項目の實際の問題ミして残るのであります。そこでこの遊戯は、或は舞蹈ミか、或は劇的な……ドラマティックな表現ミか、色々ミ種類があるのでありますして、「お話」が、その内容効果を異にするに拘らず凡て、お話ミ云ふものミ藝術的效果は、昨日申上げた通りである様な簡単な取扱ひは、「遊戯」には一寸難しいのであります。即ち舞蹈の場合に於きましては、舞蹈獨特の問題があります。劇的な表現の場合に於きましては、そこに又獨特の問題がありませうし、體操的性質を主にして居る場合には、そこに又問題がある。即ち、芝居ミ云ふものミ踊りミ云ふものミ體操ミ云ふものが、同じ身體を動かして或表現をやつて居る事でありませうけれども、まるつきり文化的に、違つた特質を持つてやつて居ります様な譯であるのであります。

そこでこの、遊戯の効果のねらひどころ、ミ云ふものを論じて行く事は、却々簡單に行かぬのであります。私はまあ斯う云ふ所で、今回のお話をつけて行き度いミ思ひますのは、その遊戯が、舞蹈であつても、劇的表現であつても、體操的であつても、幼稚園の子供がやつて居りますミ云ふ程度に於きましては、此方で……先生の方で考へます程、それ等がそんなに強い特色を以て區別されない部分が澤山あるだらう。もう一度、言ひますが、如何に幼稚園の子供ミ雖も、舞蹈的な遊戯をやつて居ります時ミ、劇的表現的の遊戯をやつて居ります時ミ、體操的遊戯をやつて居ります時ミは、それミ違ふのであります。違ふのでありますけれども、然しこれが非常に完成したる文化の形式に於きましては、全く違つた特質をもつてそれが行はれるのであります。幼稚園の子供の場合に於きましては、違つては居りますけれども、その差別の點がそんなに完成して居りませぬから……それ程充分に差別される許りに出來上つて居りませぬから、つまりまあ程度が低いから、そこで、そのされにも共通な、ミ云ふ點が相當に認められて来るのではないか、さまあ斯う見度いのであり

ます。そのされにも共通なる様に見ていふものが相當にある。その所を捉へて狙ひ所を考へて置く、ミ云ふ事で、このお話は止めて置き度いのであります。

そこでさう云ふ風に色々の種類に依て、それぞれ效果の違います遊戯を、さう云ふ意味で一括して見ます。私は皆様に充分御研究を願ひ度いと思ひます點に於ては、從來の如く幼稚園遊戯ミ云ふ一つの塊りで、何でも論じて行く行き方は段段に變つて來なければならぬのでありまして、詳しく研究しますには、舞踊性の遊戯ミ、劇的表現性の遊戯ミ、體操性の遊戯に就ては、全く一つ／＼研究をしてはつきり之を取扱はなければならぬので、これをお奨めしたいのであります。然し今回は其所迄論を進めませぬで、その全體を一緒に取扱つて了ふ事は出来ませぬが、その差別が、幼稚園の子供ミ云ふ點に於ては、もう少しボーツミして、共通的に取扱つて居るもの、斯う云ふものを見度いと思ふのであります。

尙もう一つ他の方から、保育項目ミしての遊戯を考へるに就ての問題を申します。昨日考へました「お話」ミ云ふ様な場合は、これは先生の方が、或一つの童話を子供に語つて行く、ミ云ふ様な場合に於ては、相手が幼稚園の子供であらうミ、相手が立派な大人であらうミ、その言葉の使ひ方を易しくするミか、話を短く切り上げるミ云ふ様な、極くテクニクに屬す問題は、相手に依て違ひますけれども、その話そのものに就ては、そんなに變らないのであります。幼稚園の子供に話すのだからミ云つて、その話ミして別にミさうも、いゝ加減に、ミ云ふ譯にも行かぬのであります。桃太郎の話を立派な文學者に……例へば西洋の、外國の、立派な文學者が、日本に桃太郎ミ云ふ話があるさうだがそれをきかして呉れ、ミ云ふ時にします桃太郎の話も、幼稚園の子供にします桃太郎の話も、別に變つたものじやないのであります。詰り、其話を幼児の方で何う云ふ風に取つて行くか、ミ云ふ事はこれはその子供々々で色々な取り方をするかも知れませぬが、お話ミ云ふものをその幼稚園の中へ持つて來る、その幼稚園の話ミ云ふものに就ては、別に變らないのであります。之はもう一つ説明し

なければ分らぬかも知れませぬ。世間ではよく「幼稚園話」云ふ言葉がありますし、幼稚園向きのお話云ふ言葉がありますから、それ、私の言つて居る事との關係も言つて置かなければならぬが、勿論、青年向きの話、少年向きの話、幼稚園向きの話云ふ事が、その内容ミか、言葉の内意ミか、短かさ長さ、仕組の單純な複雑さ、云ふ事に於て、年齢向きに違つた標準で、選擇せられなければならぬ事は元よりであります。然しそんな、内容の簡單な、言葉の易しい話であるにしても、それは矢つ張り、その大人が子供にきかして居ります時に於ては、立派な一つの文學でありまして、易しくても何でも文學である。その文學としての、子供に及ぼします所の效果云ふものは、その文學としての一ぱいの效果を、其所に出して行くものののであります。内容に就ては、小さい子供に難しい事、複雑な事は語りませぬけれども、そのお話云ふものゝ本質が文學である、云ふその事から申しますミ、昨日申しました形式、效果に於ては、幼稚園の子供にする話云ふものは他愛ないものである、ミかいゝ加減なものである、ミか云ふ様な意味合は、少しも出て來ないのであります。所が之ミ比べまして、遊戲の方は、之は同じ遊戲を、幼稚園へ持つて來た時には、色々そこに變つた事が起つて來ざるを得ないのであります。こゝがこの問題の「お話」ミ違ふ所で、「お話」の方は、先生がその文學を話すのでありますから、勿論易しい簡單な話を、易しく簡單に話さなければなりませんミが、その先生は、その易しい話の一ぱいの話方をして居る。所が「遊戲」の方は、子供がそれを眺めて居るのじやなく、きいて居るのじやなく、子供がそれをやるのであります。やるのでありますから、先生が持つて來ましたその完全なる形態ミ、子供がやるに就て此方から要求します形態ミは、餘程、違つて來るのであります。例へば鳩ボッポミ云ふ遊戲ですか……或は、餘りそれじや私が何も知らぬ様ですから例を擧げるミ……鳩ボッポばかり言ふミ云つて笑ふかも知れませぬから、「眠れ眠れ」ですか、最近に發表されました……例へばあれなんか、相當藝術的な……歌詞も藝術的な、リズムも藝術的なものでありますが、あれを上手に本當

にやれば、何も幼稚園向きに云ふ丈のものじやないと思ふ。皆様の誰方でも、あれを熟達していらつしやる方がその遊戯を完全舞踊として發表なされば、立派に日比谷公會堂は満員になると思ふ。或は藤原義江なら藤原義江が歌つた時に、曰くトスカミか、曰くカルメンミか云ふ立派なオペラを歌ふ間に、鳩ポッポを歌つたにしても、私は、藤原義江の鳩ポッポは大したものだらうと思ふ。その大したものゝを、先生は幼稚園へ持つて来て、先生が踊つて居る時には、大したものなんです、實に大したものであるが、皆さんには幼稚園向きだから此位で宜らう、云ふ様な事は出来る筈はない。乍然子供がそれをやる時に……そこです。先生が、あの舞踊に就て、先生自身として持つていらつしやる高さミ、子供が表はし、又子供に要求なさる事は全く違つて居る所じやない、大變段階が離れて居る。お話の方は、自分の一ぱいの話方を……その文學としての一ぱいの表現をして行く。さうして子供は、それをきいて居れば宜しい。遊戯の方は、子供にそれをさせる。させる、云ふより、恐らく自然にするのでありませうが、そこで、先生が持つていらつしやる高さミ、幼稚園で子供がやつてる高さミが、餘りに違つて居るのであります。その違ひ、云ふものが、實に幼稚園の保育項目の「遊戯」云ふ問題を複雑にして來るのであります。實に悩ましいものにして來るのであります。屢々、こんなでもない間違を引起させて來るものになるのであります。更に舞踊云ふ様な事になつて來ますミ、初めの、さう云ふ文化の發達の上に於きましても現代に於て、所謂舞踊藝術と稱される様なものは非常な發達をして居ます。實に發達をして居る。「お話」の方は文學……文學と言ひますけれども兒童文學、子供向きのお話として、今もその性質を失はずに發達して居るのでありますから、そんなににえらい發達……文化としてそんなににえらい發達もして居ないかも知れませぬ。云ふ私の意味は、今から千年前に上手な話だと言つたものミ、今日上手な話方だ云ふものミ、そんなに違はないかも知れない。勿論違つて來て居りませうけれども相手が子供で終始して居るものでありますから、そんなに違つては來ないかと思ふ。舞踊の方なんかは、子供

のものに限られて居るものでないのですから、寧ろ大人のものをこして發展して來て居るものでありますから、これは大變な發達を遂げて居る。寧ろ皆様が幼稚園遊戲だけを習つて居つて、本當の舞踊を一つも御承知ないならば、お仕合せな事でありませう。實に世の中は天下太平であります、若しも子供にあてがつて居りますあの舞踊を併せて、藝術としての文化の高さに發達して居る舞踊を片方でお持ちになつて居るにしたならば、大變離れたものになつて行く、まあ大體私共——口が悪いかも知れませぬが——見て居る所では所謂舞踊の先生が、中間を程よい加減に、子供には少し高過ぎる、舞踊藝術としては一寸低い、ミ云ふ所で納つて居る人が多いから、事は其人をして單純に濟んで行きますが、本當は大變に違つたものだと思ふのであります。そこでその所謂非常に高く發達して居ります舞踊ミ云ふものゝ持つて居ります效果ミ、幼稚園の子供に、吾々が要求し、幼稚園の子供に要求し得るあの舞踊的遊戲ミ云ふものゝこは、これは效果の狙ひ所がずうつミ違つて居るのであります。

さう云ふ意味で——これは何故こんな事を長く申すかミ申しますミ云ふミ、遊戲ミ云ふものゝ中には、舞踊なり、劇的表現なり、體操なり、ミ云ふものが這入つて居りますけれども……さう云ふ分類が出來ますけれども、さう云ふものゝ、文化としての高い效果ミ云ふものを、幼稚園に持つて來たならば、實に押し潰されて了ふ様な事になつて了ふ、ミ云ふ私の心持を、そんな風に説明して置くのであります。

そこで、私のさう云ふ心持を……所謂發達したる文化としては違つたものだミ云ふ事を、グーッミ極端に持つて行きますミ、幼稚園の子供に、やれ舞踊だの劇的表現だの體操だのミ云つた事の要求が、一體出來るもんだらうか何うだらうか。或は、さう云ふ事をしなけりやならぬものであるか何うだらうか、ミ云ふ問題になつて來るのであります。もつミそれを皆様にピンミ來るか何うか知りませぬが、ピンミ來させる積りで、斯う云ふ言ひ方を私はして見度い。幼稚園で先生

が、何んなに難しいお話を子供にきかしてお出でになつても端で見て居て、そんなに矛盾を強く感じませぬ。「あゝ、子供に分らぬだらうな」云ふ丈で、或は「案外に分るかな」云ふ丈で、矛盾を感じない。或は子供に向つて、製作をおさせになる時に、その製作が、先生がなさる製作、それ程緻密なものを子供がやつて居るが、片つ方、先生は自分の上手さでやつて居るのを、端で見て居つても、そんなに、子供に無理も起らぬだらうと考へる。所が、子供達が幾人か集りまして、先生の妙なるピアノにつれて、相當に微妙に、舞踊なんかをやつて居る光景を見ますと、如何にも楽しさうだと言へばそれつきり、あゝくと言つて、涙を流して見て居ればそれつきりでありますけれども、私はどうも幼稚園の中で、あの舞踊をやつて居ります時が一番、子供の不斷の生活から離れて居やしないか、云ふ氣がするのであります。打つちやつて置きましたら、子供が彼處迄行くだらうか何うだらうか、先生が舞踊云ふものを、こゝで、お教へにならなければ、あゝ云ふ事は、幼稚園では始まらないんじゃないやからうか。まあ、舞踊とは、却々大變ですな。先生が遙々東京に来て習つて、やつこささ覺えて、然もそれも元の先生から見るとちや居ないかも知れませぬ。戸倉先生、いらつしやらぬから遠慮なく言ひますが、もこの先生だつて、本當の舞踊家に言はしたならば、なつちや居ないかも知れない。然し段々に受けて持つて歸る。さうして子供に、昭和九年度の踊り方、言つてまあおやりになる。然も先生はその踊り云ふものをやつて居ります中で、踊りそのものゝ中で、幼兒云ふ事を離れて踊りそのものゝ中で、所謂自己に藝術的満足を與へる爲に、段々難しくなつて來ます。凝つて來ます。その、自分で凝つて來た難しいものを幼稚園に持つて歸つて「あなた方にはさうは行かないからいゝ加減でいゝのよ」云々寛大には仰言るでせうが、子供にはそれを、兎に角手本として示して行くのであります。さうして子供は、よく覺えたとか、揃つたとか揃はぬとか何とか云へば、手を叩いて義理にも踊らなければならぬ様に煽てたり、云ふ様な事で行くのでありまして、その踊つて居る光景は、子供らしい世界でありませう。けれど

もどうも私は、他の保育項目よりも、一層これが子供の當り前の生活から離れて行く傾向の多いものじやないか云ふ事を思ふのであります。

斯う長々しく言ふ迄もなかつた。實は、斯う長々しく言ふ迄もなく、一番初めに括弧をつけた、あの保育項目の遊戲の中で、自由遊びなるものゝ、所謂藝術的遊戲なるもの言ひました時に、既に今私が長々しく申しました事は、含まれて居る。

自由遊びの中で木の下で桃太郎の話をして居る時、皆を集めて本格的に桃太郎の話をする時違はない。たゞ、遊戲であるゝ、外で子供が、こんな事(手振り)をして居りますのゝ、何か違つた括弧つきのものであるゝ答へざるを得ない。これは子供の自然の生活で保育項目として吾々が取立てた遊戲なるものからすつゝ離れて居り、氣を付けないミグーツミ離れて行くものだ云ふ事を豫想されるのではないかと思ふ。

序でもう一つぐだりますが、保育項目をその先生方の教育目的の方だけから御覽になるならば、實に遊戲云ふものには、非常に大きな目的が……従つて効果が現はれて参りますから、これを幼稚園でやる事に就て、何等の疑がないのであります。何ゝ結構なものであらうか云ふ事に就て問題はないのであります。先生の方から考へますならば……。然し私達が今回……或は昨年來取扱つて居ります様に、保育を、先生の目的の方から見るのではなく、子供の生活の中から見て行かうとする時に、遊戲云ふものは、一番子供らしくなくて無理なものじやないか云ふ事に私の話が行くのであります。私は正直に言ひます。幼稚園の子供が上手に踊つたりなんかして居ります時に素人は、可愛らしい、きれいだ、無料たゞで歸つていゝんですか。言つて見物して、繪でも見る様な積りで喜んで居る。幼稚園に來さへすれば、さう云ふものを見て行き度い云ふ事を言ひます。先生の方でも、この遊戲を子供にさせる事に依て、先生の考案通り、手が何本動き

足が何本動き、其度に心臓が何う……、情操教育が出来た喜んでお出でになる。けれども私は、子供の生活の方から見て行きます云ふに、随分子供の生活ありのまゝ、宛らから見ると、高い事をして居るな云ふ氣持がする。私は、子供が幼稚園であまりうまく踊つて居るを、見るに耐へず、隣の室に行つて泣きます。先生が踊つて居てまづいい、隣の室に行つて、ふき出します。ですから私、先生の事を言つて居るのではない。子供の事……こんな事を諄々言ひますのは、皆さんが子供の遊戲、云ふ言葉が、括弧つきであるの括弧つきでないの共通して居る爲ではないか、そこで、大變にこれを、なんなく見て居るのじやないか、殊に、大人が踊つて居る時は、大人が、文學を研究して居る時とか現實的に生活して居る時に比べて、花の下に、月の下に、氣持で踊つて居る時ですから、それを子供の世界に持つて來て、子供の踊つて居る時が一番楽しさうださ定めておしまひになるが、私は、子供にあんな小難しい事をしなくても、楽しい事は澤山あると言ひ度い。ですから、遊戲云ふものは、子供にまつて、相當に無理なものだ云ふ考へ方を一つこゝに持つて來たいのであります。中には、そんな事を一寸も考へない遊戲の先生があります。殊に、遊戲の講習なんかします先生の中に、一番初めに申しました如く、幼稚園保育項目云ふ事を全然忘れて、一ぱいに踊つて居る。さうして、名取りの弟子を作る様な積りでやつて行く。然し、今やつて居るこれが、幼児の自然の生活の中へ、何う結び付いて行くだらうか。教へれば覺えます。猿だつて覺えます。覺えますが、その、教へて覺えさすのでなく、幼児の生活へ距離の近いものとして考へた時に問題です。之は私は、相當幼稚園遊戲云ふものは不用意には、過ぎて行けないものだと思ふ。

さうするご皆さんは口を揃へて仰言る。「だから私は、東京で習つた程上手くはやれぬ」と仰言るならば、自ら壞れた様なものであります。そんな……大井川で半分流れた様な、いびつな意味で崩れたんじやいかぬ。その遊戲云ふものが……幼児の生活の中にびつたり合ふ様な遊戲が、何うだらう、云ふ事が實に難しい。斯う云ふ事を本當に誰か作りまして――

私は實は、其方の遊戲ならば一派をなして居る程上手いが——それで講習したならば、講習員が集らない。一週間、幼児用の手振り遊びミカブラ／＼遊びミカ云ふ様な事ばかり講習して居ましたならば、それを味はつてくれる講習員は、頗る涙ぐましい。戸倉先生には、私非常に相談してお願ひした。みんなに皆が「なんだこれは……湯豆腐ダンス、冷奴ダンス、實に味もそつけないものだ」言つても構ひませぬ。寧ろそこをお願ひして、先生も色々研究して居て下さるが、それだつてまあ人前で「斯う云ふ遊戲をやりませう。其次に何々」名前をつけて……沖のかもめミカ色々題をつけて、これからやる稽古する、ミ云ふならばさうも、水の中で豆腐が泳いで居る様な譯にも行きますまい。そこで何うしても難しくなつて来る傾向が非常に多いのです。そこでその難しい、うまいのを覺えてお歸りになりまして、ステージを作つて、先生が子供の前で、踊つて／＼踊り抜いて見せて下さるだけならば、問題はない。みんなに上手いのをやつても結構です。けれども……聲を落して申上げます。あなたの爲に教へて居るんだ、だから皆さん位の踊り方でも事が濟むけれども、皆に見せる、ミ云ふ事でやつたならば幼児も「さうも菊五郎の方が上手いね。花柳の方が上手いね」言つて了ふだらうと思ふ。先生の方は、その所をうまい工合に「これは幼稚園遊戲だから……東京は東京で本當に踊つて來たが、家の幼稚園に歸ればこんなに……」曖昧にして居るのであります。「幼稚園の先生が踊つて見せてばかり居る人があるもんか」言仰る方もあるかも知れませぬが、お話は子供の前で、語つてきかせてお出でになる。只今文樂が歌舞伎座にかゝつて語つて居るけれども、あれは節をつけて語るもので、皆様が昔々ミお話しになるお話ミ、實は同じ藝術であります。そこで皆様何もそんなに節なんか、おつけにならないでせうが、素語りミして立派な藝術である。さうして、大勢の子供がぎいて居る。其處へ、子供達の親が來たつて、村の衆が集つたつて、別に仕様がなないじやありませんか。「今日は大人が來たから本格的に言ひます」なんて云ふ事を言ひ出す譯じやない。あれはあれです。子供に話を教へて居るのぢやない、話してきかせて

いらつしやる。それと同じに、遊戯云ふものも、踊つて見せるものであるならば問題じやない。一ぱいに難しい、一ぱいに上手い踊りを見せて居ればいい。その所が大變に違ひます。さう云ふ意味からしまして、幼稚園の遊戯云ふものが、舞踊さか、劇的表現さか、體操さか云ふ、文化的本質的問題として取扱はれる部分を私は避けて、全體に通じての子供の生活へくつ付いて行く所だけで、この遊戯の効果のねらひごころを定めて見度い、斯う思ふのであります。

何うも私は段々年を取ります、自分の言つて居る事が娘達に通ずるか何うか心配でありますから、もう一度申します。

さうも遊戯云ふものは、子供の生活から離れる程、難しく高く藝術的に、それ自體さしてなり易いが、幼稚園遊は幼稚園遊らしく易しくしなければならぬ。斯う言つて居る論、之は正しい幼稚園遊を、出来るだけ簡単な單純な易しいものにして子供に多くを要求しない云ふ事は、これは幼稚園改良案、幼稚園遊選擇標準として大事な事である。豫て申して居る如く今日もその考は勿論違ひませぬけれども、こゝに私が今度言はうとして居ります事は、そこやない。何う易しくしたつて、相當に、私は先生が考案してお教へになる遊び云ふ事になつて来る、子供の自然生活から、相當距離の離れたものになるを免れないと思ふ。そんな易しいのをなすつた所で、親達が來て感涙を催して言ひます。「よくまあ覺えたもので御座んす。よくまあお仕込みになつたもので御座んす。」其時、皆さんが「いゝえ、特に覺える事がない程、子供のものなんです」と言へる程のものが、出来るか出来ないか。出來度いと思ふが難しいと思ふ。そこで、さうも幼稚園の遊戯は、相當に子供の生活から距離のあるもので御座いまして、そんな所を狙ふか云ふ。

一 體育效果

昨日の内容效果の方から先づ擧げまして、それは、そんなにこゝで改めて言ふ迄もない云つたその意味から言ふならば體育效果云ふものはありませう。そんな遊戯でも無理に、……心臓が破裂したり骨が曲つたりする様な事をすれば別

ですけれども、所謂子供が楽しく動く様な體有效果、少くもお腹が空くだらうと思ふ。

これは非常に大事で、遊戲共通に體育ミ云ふ事は言ふ迄もない。實に問題じやない。だからこれはこれで置いておきます。張出し大關の様なものです。そこで第二になりました。

二 動く興味

淡く／＼効果を狙つて行くならば、こゝに、動く興味ミでも云ふものを置き度い位に思ふ。動く、ミ云ふ事は何でもない事の様ですけれども、動く、ミ云ふ事は生きて居る者にこりましては、色々な意義を持つて居るものであります。その、動く事が出来る……お話をきいて居る時でも、子供がフラ／＼動いて居る様に見えるが、動く事を本體ミして居るのじやなく、大體に於て、じつミ座らせられて居るのであります。物を作る時には、手等を動かすけれども、之も身體全體が動くものではない。或は吾々が製作に於て要求する如く、力が這入る。製作ミ云へば足を踏みしめなければ出来ませぬから力を入れても、動く要素が多くなつて居るのじやない。そこで動くミ云ふ、生命の生きて居る、ミ云ふ事の大きな要素であるその興味は、遊戲の効果のねらひどころであります。然も動くミ云ふ事は、單に何處かと動いて居るミ云ふ事じやない。その人間が所謂生命……生活的に動くミ云ふ時には、全體が所謂ハーモニアスムーヴメント、調和がとれたミ云ふ……調和ミ云ふミ意味が強過ぎるが、調和が出来て運動が出来来るミ云ふ事が、遊戲の特質であります。その調和のされて運動をする事に依て運動の方面が實に、生きるミ云ふ……その生命活動ミ言ひますか……所謂一番下で潑刺ミして生きて行くミ云ふ様な、さう云ふ効果を與へ得るのであります。健康、ミ云ふ言葉の中にそれが這入つてもいゝんですが、その體育健康ミ云ふ方は、主として生理的方面だけを取つて居る。所が、生きて居る、ミ云ふ事は生理的問題じやなく、實に全體が動いて居りますけれども、はぐであつたりしては、本當に生きて居る體驗は味はゝれないのでありまして、全體が調

和のされて生きて居る云ふ感じを、遊戯の中で経験したいと思ふ。之が一つのねらひどころであると思ひます。これをば何云ふ……動く云ふ言葉じゃあまりそれが出ませぬし、調和性運動云ふも、大變調和性云ふ言葉に纏りがつくし適當な言葉がなくて困つて居ります。講義が済みます云ふも皆さんは色々な方法を……講義の後の瞬間云ふものは、色々な現象が起る。或方はそのまゝ急に前に倒れておしまひになります、前屈運動。さうかと思ひます或方は後へおのしになる方もあるかも知れませぬ。或は、少し立つてお歩きになる方があるかも知れませぬ。兎に角そこで或運動を開始なさいます、あゝ矢つ張り生きて居つた、さと思ひになるのであります。生きて居つたと思ふと同時に、そこに生活力が恢復されて來るのであります。まあ御遠慮なく、全體的、調和的運動をなすつて恢復される事を望みますが、其時に調和云ふ言葉を使ふも、大變事が難しくなつて來る。そこで、不調和でないかたよ、らない全體の運動云ふものに依つて、全體の生命活動云ふものを、促して行くものである云ふ事でありまして、これをまあ私は仕方がありませぬから、「健全なる、いきいきさ」云言ひます。健全なる、云ふも大變難しいが、英語で云へば、ホールサムリビリス、云ふ言葉が恐らく當てはまりませう。子供の生活の中に、健全なるいきいきさ云ふものが、遊戯に依つて養はれて行くさ狙ひ度い。生き生きした所のない子供があります。それから生き生きしては居るけれども、健全性のない片寄つたいらいらした様な者があつたりしますが、健全なる、生き生きした、のですから相當に元氣……云つても無茶なものではなく、相當おつ、りして居る。皆さん御自身でも御経験と思ふ。本當に充分にハーモニアスな運動をした後はいゝ氣持です。さうしてそれが、元氣だつて斯う（手振り）やり度くない、靜かな氣持……皆さんさう云ふ御経験ないでせうか。私の様にダンスの上手な者なんかは、踊つて踊つて踊るさ、ダンス云ふものは相當にハーモニアスな力……バランスで、一人なら違つたら違つても動くが、二人なら動かない。さうして滑るが如く踊つた後云ふものは、疲れて休むのじゃなく、い

ら／＼した氣持がなくなる。さうして沈んで了ふのではない。踊つて踊つて、へ／＼に疲れた後ミ云ふものは、靜かな然も生命が満ちて来る様なものがある。さう云ふ意味合から、あの幼稚園遊戲ミ云ふものは、情操教育に行くすうつミ前に、健全なる生々しさ、ミ云ふものを養はうとするのであります。これがありますから、或は無邪氣にもなりませう、朗らかになりませう、素直にもなりませう、快活にもなりませう。皆これから出て来る問題であります。

第三には、

三 みんなミいつしよ

皆一緒。幼稚園遊戲ミ云ふものは、この所、色々問題もありませうけれども……皆一緒に踊つて居るミいふところが、幼稚園遊戲の一つの特色ではないかと思ふ。一體、人類の踊りミ云ふものは、これは必ずさうだミ云ふ事を學術的に定める事は却々難しい事です。けれども踊りミ云ふものは、踊りそのものミして出来て来た、ミ云ふよりも、皆ミ一緒に居るミ云ふ事からワァーッミ来たものだミ云ふ、斯う云ふ説明もつくのであります。皆ミ一緒に居る、ミ云ふのは、何うしたらいいでせう。一人で居るならば、何うして居てもいい。皆ミ一緒に居るミ云ふ時には、何うしたらいいでせうか。皆ミ一緒に居る、ミ云ふ意味を發揮させる爲に、皆がそれ／＼違つたポーズを持つて居りましたならばこれは一緒に居るミ云ふ氣持を伴はない。反對に、皆ミ居る以上は、皆ミ一緒に揃つて直立不動の様に竝んで居るミ云ふのは、……整列して居る時に、皆ミ一緒に居るミ云ふ氣持はあるものじやない。「氣を付け」ミ言つてチツミやつて居る。皆ミ一緒に居るのだミは考へますなれども、皆ミ一緒に居るミ云ふ事が、生活的にい／＼ミ體驗されて居ない。そこで、皆ミ一緒に居るミ云ふ時には、もう一つ、話をします。皆ミ一緒に居て黙つて居るミ云ふのは變で、一緒に居るからしやべり出す。「何うもお前達は、寄るミ直ぐしやべり出す」ミ云ふが、これは當り前で、寄り集まれば、寄り集まつたミ云ふ事を實現して行く爲に

物を言ひ出す。物を言ひ出す云ふのは、色々用もありませうし、議論もあるが、大體に於て互が同じ事を言ふ。「何うもお暑う御座います」「言へば「お暑う御座います」云片方も言ふ。それを併せて誰かゞ「皆々暑いな」云へば、如何にも皆々一緒に居る氣持が出て来る。言葉を通じて同じ事をするが、もう一つは、同じ動作をするのであります。たゞ竝んで歩いて居るだけでも、皆が歩く時に自分も歩く云ふのなら皆が一緒に居る云ふ感じが出るが、皆が複雑に、皆が斯う（手振り）やつて居る時には吾もする、皆々同じ事をしなけりやならぬと考へたら窮屈です。中には勝氣な人なんかは、人が先にあつたからやらないとか、先に手を出さなければ承知出来ない云ふ人があります。所が一緒に揃つて、盆踊りなら盆踊りで踊つて居れば、皆々同じ事を……私はもつと本當だつたら、何んな手の込んだ踊りが出来るかも知れぬが、此處は山の麓の月の晩で、村の娘が踊つて居るから、私は村の娘に合せて踊つて居る。さうすれば、皆々一緒に居る、云ふ感じが味へる。ですから、一緒に居る、云ふ體驗を充分に感ずるものが、踊り云ふものから出来た云ふ事も考へられるのであります。

その、皆々一緒に居る爲、……踊りそのものゝ爲に、踊りが出来たのじやない。皆々一緒に居るので揃へませう、云ふのが踊りではありますが、それを一つ抜き出して、踊り云ふものが出来て来ると思ふ。私は、舞臺で一人で踊つて居る人を見るに、大變な事だと思ふ。一人で踊つて居る。踊り踊るなら皆々踊れ、じやなくて、一人で踊る。一人で踊つて居て、さうして皆に見せて居る。その踊りは、大變に研究されたもので、見て居る者は恍惚として、藝術的美に酔はされて了ふ。この、一つ抜き出して拵へたものを、更に分解して、こゝの手つきが斯うだから美である、或はこゝのところで、心臓が斯うなるから天を仰ぎ、且つ息が出来る、云つた様な事になるのです。乍然私は、そこ迄幼稚園の問題を持つて行く前に、その一人踊る云ふ事じやなく、皆々一緒に、云ふのが生活的遊び、中には子供だつて、一人で踊つて居る

者がある。丁度、睡蓮の側にニンフが一人下りて踊つて居る云ふ神話の様な形で、一人踊りも發生する事がありませうけれども「皆集つて。揃つたら歌ひませう。揃つたら手を合せませう」云ふ、點じやないかと思ふ。それを逆に置換へるこ

「みんなさいつしよ」

云ふ、感じを養ふ。これが効果じやないかと思ふ。何うも、他の保育項目では、これは餘り養はれないと思ふ。お話なんかきいて居る時に「何うもいゝお話を伺ひました。一人できいて居るこ詰りませぬが、皆と一緒にきいて居たから楽しい」言つて見る様なものゝ、一人できいて居たつて、大勢できいて居たつて變りはないと思ふ。別に興味が、話そのものに於て増しやしない。物を造つたりします時に、大勢で造つたつて一人で造つたつて變りはない。所が、遊戲云ふ事になりますと、一人で踊つて居る時と、大勢で踊つて居る時と、意味が違つて来る。踊つて居る間に、多分子供は、踊る事自身、運動それ自身とは別な意味を、非常に味つて居るものと思ふ。味はせ度いと思ふのであります。

昨日も色々質問の中に、友達の中に這入らない人間、人と一緒になれない云ふ變屈な人間が、皆と一緒に云ふ感じ、これは、プリミティブな人間の心持でありますが、斯う云ふ事を養ひ得る云ふ事が、一つの効果のねらひどころじやないかと思ふ。

そこで、斯う云ふ風に舉げて來ました時に子供の事は論外として、健全なるいきゝしさ、云ふものが、効果のねらひどころであるとするならば、餘り難しい事は、この効果を舉げる所以でありませぬ。私共が、出来るだけ苦勞しなくてもいゝ、その自然の動きにまかせて置けばいゝ様なところに重きを置いて、態々右の手を斯う（手振り）やつたら、ひきりで動くのを、此方を求めて、二度やらなければならぬ、云ふ難しい約束を、出来るだけ少くしよう、云ふのは、これを尊重したのであります。「あなたの踊るのを見て居るこ、自分をすっかり殺して居るね」云ふのは、藝術としては面

白い。のびちやつた云ふのは、藝術的の美はありません。その、殺して了ふ所に面白味があり、多分其人もそこまで行けば、踊つた面白さがあるのでせうけれども、幼児の場合に於ては、さう云ふのではなく、生き／＼さを味はせ度いから、成たけ自然な樂なまゝで、それでいゝんだ、言ひ得る様に遊戯を單純化したい、云ふのが、こゝの問題であります。まづくていゝの悪いのゝ問題じやない。それが、無理な遊戯であるかないか云ふ所に私は重點を置き度い。

それから此方を……斯う云ふ効果を尊重するになりましたならば、皆一緒云ふ事になりましたならば、昨日お話の中で、情緒それ自身の効果を味はせる爲に、悲しいですねとか感心ですねとか云ふ觀念性を持つて來ちやいかぬ云ふ論法を、こゝに當はめ度い。折角皆が、皆一緒の氣持で此處に居りますのを、觀念的要素に於て、斯う云ふ事を意識化して行く事は、その所が何うでせう。「皆揃ひませうね、揃ひませう」云ふ、揃はなければいけませんから揃ひませうね、揃はなくちやいけませんぬ云ふ時に揃ふ云ふ事、皆一緒云ふ感じは必ずしも一緒じやない。中には、少し列から離れて居つても一緒の様な氣持で居る。それを、一緒々々、揃つて……言ひます、かへつてこれが壞れて來るかと思ふのであります。殊に、踊りの難しさに於て、揃つて來る云ふ様な事を八釜しく言ひ度いのでありますが、「實によく揃つて居るじやありませんか」云ふ時に私は、揃ふ事ばかり苦心して、皆一緒に居る樂しさの中で踊る事の出來なくなる場合が多いじやないかと思ふ。中には、皆一緒、云ふ事で夢中になつて、踊る事は忘れて跳ねて居る子供があります。私は、あゝ云ふ様なこそいゝと思ふ。

まあ、前にも申上げました如く、曰く舞踊曰く劇曰く體操云つた様な問題は、效果のねらひごころを論じて行けば、こんな大ざつばで濟む筈はないが、それをこはして、極く幼児の生活に、くつゝけて行けば、こんな所で行き度いのであります。

遊んで居る時は……遊戯をさせて居る時は、一層、子供の今日の文化藝術としての遊戯の要求から離して、さうして極く原始的、單純簡單なる、こんな效果で許してやり度いものだ云ふ事を思ふのであります。而も斯う云ふ事は、實際に於てはなんぢあまりに、逆になつて居るか云ふ事も言ひ度いのであります。一寸休みまして。……(休憩)

(三) 製作—手技

残つて居ります時間で、製作即ち保育項目の言葉で言へば、手技、それと觀察の事に觸れなければならぬのであります。が、この二つは勿論別な事で、別々に效果のねらひどころをもつて居るのでありませうが、この二つに就て共通な事を先づ考へておきたいと思ひますのは、前に考へましたお話さか遊戯さか……まあ踊りさしませうか、云ふ様なものさ較べまして、この製作及び觀察は、これこそ純生活的性質をもつて居るものであります。お話は大人の世界に移せば或は文學となり、或は詩となり、一種の藝術的な性質を多分にもつて居るものであります。遊戯は更に申す迄もなく藝術的な性質をもつて居るものでありまして、其處に前に申しました遊戯云ふものゝ保育項目として、幼稚園のものとして、の悩みが色々出て來る譯でもあります。

この藝術的なものに較べまして、物を作るさか、或は物を觀察云ひますか、見る云ふ様な事はこれは藝術ではありませぬ。後で申さうと思ひますが、觀察の様なものの間違つた取扱ひの方に發展して參ります。科學なり、學問なる云ふ傾きはありますけれども、併し不斷、生活の中に於て生活その儘で行はれて行くものでありますから、其處でこの觀察と製作は保育項目の中で最も、純生活的の多いものゝ私は見度いのであります。我々が保育項目の中に敢へて優劣をつける譯ではありませぬ。何れが大事で何れが二の次である。或は又その效果に於て何れが多くて何れが少い云ふ

敢へてその差別をつけようとするのではありませぬが、保育項目を目的の方から考へるのでなく、子供の生活の方に則して考へて行く意味から云ひます。生活性の多い製作は観察を云ふものが、生活性の少し離れて行く傾向の多い製作は観察よりも、よりよく保育項目としてその意味に於て利用……云ふ言葉は當りませぬが……面目を發揮し得るものゝ考へるのであります。こつちが主でこつちが従である云ふのでなく……幼児生活に則する云ふ意味から面目を發揮するのは、製作は観察がより多く面目を發揮し得ると思ふ、斯う云ふのであります。その意味から私は保育項目の中で價値の上下ではなく、幼児生活の中に行はれる領域、分量を言つてもいゝですが、保育項目の廣さの方から見ました時に、製作なり、観察なりを、遊戲及びお話よりも何云ひますが、矢ッ張、尊重するまでも云ひませうか、本源的なものゝ様に考へるのであります。

幼稚園は子供の世界、大人の現實な暮らしから見ます、あきけない、美しい、可愛らしい、即ち藝術的な味はひの多い所だに見られて來て居る様であります、大人が自分の生活から抜けて來て幼稚園を見ました時は「氣樂なもんだね」「樂しいものだね」「夢の世界だね」「藝術の世界だね」斯う見るであります。その見方からは幼稚園のその面目、さう云つた意味の面目を發揮するものは、お話は遊戲か、斯うなるのは無理もないと思ひます。從來幼稚園でお話、殊に遊戲が大層主體になつて居る風がありましたのは、さう云ふ所にも、があるんではないかと思ふのであります。併しお互、幼稚園の中で子供の爲に住んで居りますものから見ます、見物人でなく、子供の世界の中に、住はせて貰つて居ります、中から幼稚園を見ます私共の目にござりましては、幼稚園は外の大人に世界から見て、輕やかであり朗らかな美的なものであり藝術的なものである云ふのは違ひます。何と眞剣なものであり、實際、現實なものであるか、云ふ事が、私共に考へられるのではないかと思ふ。幼兒は即ち偶然に踊り、偶然に文學に觸れて居るだけのものではありませぬで、彼處で實に

生活をして居る。勿論失業もありませぬ、色々暮しの問題もありませぬ。浮世の面倒ないきさつも大人の様にはありませぬでせうけれども、決して有閑世界ではありません。所謂閑でたゞ勝手に生活して居る世界ではないのであります。これは幼稚園の中に居りますものが幼稚園を外から見人、まるつきり違つた見方をもつ點であるかと思ふ。その子供が道德的に真剣だ、云ふ意味じゃなくてこれも勿論大事な事です、道德的なんて云ふものでなく、事實、現實のリアリステイックな生活をして居ります。その生活の中に多くの部分を占めて居りますものが多分、製作を観察であるかと思へるのであります。私共が幼稚園に於て製作を観察に非常に力點を置きます點は、その意味であります。今日は一日幼児にお話をしなかつた云ふ日があつても幼稚園が減んだと思ひませぬ。今日も、今日も、一年しないのでは文學のない世界の様なもの足りなさがありますけれども、……或は毎日踊り暮さなくつたつて、幼稚園が貧しく、乏しくなると思ひませぬ。それ所じやない。毎日踊つて踊つて踊り抜いて居る云ふ様な浮かれ幼稚園云ふ事になります。私は子供が「楽しいね。藝術的に楽しいね。併し僕等の生活は何處でするんだらう」云ふ事もありやあしなにかと思ふ位であります。

其處で觀察製作、これは幼稚園の主體、私は言い度いのであります。その主體を叫びます、尊重します所以がもう一度、うるさく言ひますが、教導の目的論の方から云つて居るのじやありませんが、子供の生活の中に、根據を今ももつて居る云ふ意味で云ふのでありますから、従つて若しも幼稚園の製作なり、觀察なりがそんな子供の生活、それに則するものであるに拘らず、それだから尊重して居るに拘らず、實際は子供の生活から離れる傾向、方向になつて了つたらば、罪もつて更に甚しい、斯う云ふ事になるのであります。まあここによつたら、幼稚園は先生が一人よがりをやつて居てそして子供が何だか斯う解つたやうな、解らぬ様な、うつかりした様に眺めて居つても、まあ元來が藝術ですから……お互が偉い人の文學を讀んで、「實に面白い」云ひます時程、眉に唾をつけたい様な人はないのでありまして、多分その

藝術家が一ぱいに感ずる、その半分も味はへないで「この小説は面白い」のなんの、ミ云つて居るのだミ思ひます。皆様がいゝお話をいゝ仕方でなさつた時に、子供がさう云ふ受取方をしても、あれが藝術だから許される。許したかないですが、そりやあ、まあ許してもいゝ。遊戯の方は私、前の時間にあんなに、子供の生活に則してミ希望しましたけれども、まあ藝術ですから、先生が手をつて踊らせる。その踊が豆腐ダンスでも濟みますものミ思ひますから、これはまあ、さうして子供の生活から離れても仕方がないミしませう。生活それ自體の中に則するが故に尊重されて居ります製作ミ觀察が子供の生活から餘りにも離れて行きましたらば、これはさうも私、「お話はね、先生がなさるから仕方がないし、遊戯も、根が藝術ですから仕方がないでせうが、私は私で製作の世界をもつて居るんだ、觀察の世界をもつて居るんだ。其處を通さして下さいませぬか」ミ子供が言やしないか、それで問題が充分に成立ち得る程のものをもつて居やしないかミ、思ふのであります、斯う云ふ製作ミ觀察ミ云ふものを尊重する所以が子供の生活性に則して居るからでありますから、斯う云ふものを吾々が保育項目ミして研究する時に、子供の生活性に則せしめて行く、ミ云ふ事はより多くの責任を持つミと言ひ得るかミ思ふのであります。

其處でその製作は、幼稚園でやつて居ります製作は美術工藝ではありません。所謂子供が生活ミして作らうミする。作らうミするその氣持を満して、其處から離れて行かないものでなければならぬ。この意味に於きまして何時も私申します如く、手技ミ云ふ字を嫌つて製作ミ云ふ字を使ふ。製作ミ云ふ字を使ふのは、手技ミ云ふ字が手先でやる小器用なものになりますから、製作ミ云ふ字を使つて見たのですが、製作ミ云ふ字を使つて見るミ、えらく、大袈裟なものになり過ぎまして、何だか又そろ／＼名前を換へなければならぬかミ……小製作ミかちび製作ミか、しなければならぬかミ、斯うも思ひたりする。さうも、言葉を當嵌めて行く事は、誤解を完全防ぐ事が無理でありますが……

その作らうとする、云ふ所に、この本質があるをしますれば、問題は狂つて来ると思ふ。又もこに還つて言ひますがお話の時には子供の生活に耳を傾けて先づよき、いゝて、こなつて、其處から話の世界を進展して行く、云ふ様な事を私は申しました。併しそれは話の世界を進展さして行く取扱ひ上の要領でありまして、話そのものは先生の方から語り聞かせるのであります、子供に「昔々」云言はして「その昔ね」別に言ふのでもないと思ふのであります。「昔々山の中に狸と狐が居まして、兩方で騙合ひをしようしました。狸は斯う云つて騙しました。狐は斯う云つて騙しました……」困つて居るので、先生は「何でもなし。斯う作ればよい」云つて先生が拵へる譯ではない。

取扱ひの要領は子供の中から進展さして行く。話は何處迄も先生自身に完成したものを與へる。遊戲も子供がこんな事をして居るのを見て（手振にて説明）それを斯う云ふ風にすれば、云先生は考案なさる。考案に於ては宜しいですが、この頃の遊戲の先生は皆んなさうだと思ふ。子供が何か遊んで居るのを見て、あの斯う手を振つて居る。斯う少し、斯うやれば美になる、完全な調和に段々なる云ふ所に、或は手をつけて、一つの何々云ふ踊をお造りになつて、今度はこれを子供にもつて行つてお與へになる。そして「斯うやれやれ……」子供はこれが自分のものから出て居るのですけれども、先生によつて再生されて了つて……再び作られて……藝術品を與へられるのであります。

所が製作の場合に於きましては少うし、其處が違ひませぬでせうか。紙と缺と糊を與へておきます時は、子供はその時その場に作り出すのであります。その時その場で作り出しました其處を、つつかまへて誘導出来るものじやないでせうか。「さあ皆さん、斯う紙をお切りになつて、斯う切つて斯う……」斯うなるのが藝術だ、云ふ行き方だけに限られるものじやないと思ふ。及川講師が皆さんに「花子さんの……何でしたかね……一生じやない。何かを教へて居られる。そして豚は斯う云ふ風に斯うする、兎は斯う云ふ様にする。豚の尻尾をお尻につけてはいけない、云ふ様な色々の作り方、

そして幾日かおやりになります。あのちゃんとした立派なものが出る。そしてあれを、まあお持ち歸りになりました。東京新仕入れ「花子の一生」……ですか……何ですか……云つた様な……そして、まあおやりになるでせう。まあそれも宜しいでせうが、子供が何も、あれを皆さんがお教へにならないつたつて、材料と道具があれば、或は材料と道具をさへ出して、子供は何かやるんじやありませんか。そのやつて居る所を擱^つへて、幼稚園の先生が、グループ的に子供の生活の中に保育をもつて行く。教育をもつて行く様にして、保育の眞諦、を發揮し得るものならば……

充實指導

子供の、その語り、子供が作らうとする、子供のその心を満してやる。これが、私の所謂、充實指導で出来て来るものじやないか、と思ひます。昨年、使ひました言葉でありますが、充實指導は遊戲の方では、充實指導、云ふ事は出来ない。さうも、子供が頻りに斯う云ふ氣持を現はしたいが、頻りにやつて居るもんだつたらば、其處へ行つて「それはね、斯うして三度振りやあ旨く行くのよ」云々か何云々は充實を指導する、子供が充實出来ない生活を指導する云ふ事があると思ひますが、それはないと思ひます。所が製作の方は子供が「何うしたら豚になるだらうかしら、私の豚は豚にならない」云々斯う云つて居る時に「其處の所を一寸斯うすれば豚になる……」先生の顔を見て、首ツ玉に飛びついて「お、私の心を遂にしむる先生よ」云々斯う嬉しくなるんじやないかと思ふ。斯う云ふ事が出来るんです。……製作では。

其處でこの製作は所謂その子供の生活の中から充實指導でもつてやつて行く要素を相當に多く用ひ度いものだと思ふ。用ひ得るものだと思ふのであります。充實指導、去年の話に申したのでありますが、充實指導云ふのは指導じやないんです。作り方の指導じやない。「あなた、下手だね」云つて旨く作る指導法じやないんです。何うしたらこれが豚になるかしらん」云々思つて居る時に一寸豚にしたいだけの子供の氣持をその充實を指導してやる事でありますが、教へる云ふ

教導なんて事と違つて、これよりずっと前の話でありますが、充實指導をすればいいと思ふ。若しも幼稚園の生活が所謂子供の生活を自然存分に發揮させる事が出来まして、さう云ふ環境條件にありまして、そして先生が十分に子供の生活を一つ／＼見て行く事が出来まして、而して子供の今、求めて居るものを今、すぐ充實指導の出来る技術が充分にありましたならば、私、實に生活の中から、手技……製作……を潤澤に、豊富に發展させて行く事が出来る性質をもつて居るものじゃないか。子供が色々、ものを作らうとして、ひよつと見るさ、こつちの子供が豚を作らうとして居りますから、「そりやあ、斯うすれば豚になる」。ちよつと見るさ兎を作らうとして居る。「そりやあ、斯うすれば兎になる」。牛を作らうとして居る子供がある。「一寸吾輩は出来ぬ」云ふので止めちまふのであつたならば「もうやめた」なんて事になりましたら、それは私……その先生……出来ませぬ。此處では兎と豚をお習ひになりましたけれども……兎と豚の出来る先生、云ふ譯じゃないでせう。

あれをお與へになるなら、あれだけ出来りやあ宜しうございませうけれども、あれだけ出来りやあ二學期は兎と豚やめる。……農林省邊りから奨励資金が何か出ませうが……

さう云ふ子供の製作の、何が出て来るか解らないのを指導して行くのは、色々な事があると思ふ。及川講師が豚と兎をお教へになりましたのは、あれが皆さんの中に發展して應用されて、牛となり猫となり、犬となり、何でもなる。そのものをお示しになつたものだと思ふ。それが御心配で來年邊りは犬と猫の製作をなさるか何うか知りませぬが……それが百年もかゝれば動物がみんな終られる、云ふか知れませぬが……兎に角さう云ふまあなんです。子供の生活の中で充實指導の出来て行くものだと思ふのであります。

所が此處にもう一つの問題がある。子供が自然やつて居りますものを、それを充實指導して行きますのが、一番生活に

則した問題なんですから何も紙製作ばかりじゃありませんね。砂場で充實指導が充分出来る。砂場でやつて居るのはこれは製作の外である。あれはおいたである。それを指導するに、私の手が汚れる、なんて云ふのは違ふのです。砂場で色拵へて居て「困つちやうんだ。此處の所で……」其處へ先生が来て「そりやあ、砂ばかりでやらうとして居るからそんなに、困るのだから、一寸粘土を此處に持つて來たら何う」こんな事をやつて、まあ、何うだかやる。するに子供は大變に喜びませう。其處から段々發展して行きましたら、その方針で、その子供の爲に立派な一つの製作の……机の上と同じものに變つたつて構はないじゃありませんか。

こつちの方から言ひますならば、極めてこれは生活に則して行けるのでありますが、其處に問題がある。その問題言ひますのは、子供が私が都合よく申した様な工合に……私の話なんか都合よく運んで居るんですが……都合よく子供が皆んな製作を始めて呉れるか、何うか。製作は生活の間にあるものですけれども、さうも其處の所が……たゞたゞその儘に放つておきましたら……一寸この一瞬、作る方の事に觸れないで……さう云ふ事の好きな子供もありませうが、そんな事はしないで、喧嘩したり、ブランコに乗つたり、飛び廻つたりして居る子供もありませう。中には先程申した事を裏切つて裏の方に行つて、「チンツンシャン」を踊つて居る者もあるでせう。頻りに雜誌ばかりひつくり返して、讀書するに云ふに可笑いですが、畫を見乍らじつとお話を考へて居る様な、心の中で味はつて居る様な子供もあるかも知れませぬ。其處で子供の生活の中に出て來るものであるけれども矢ッ張こつちに向つて充實指導ばかりで行きませぬから、其處で他の手をこらなくちやありませんね。そのこつちの方はそれで済みましたが、その他の手をさる。……

誘導案

こつちが製作をや、課して行く方である。その課して行くに就きましては、色んな問題が起つて來ると思ふ。實に先生

達の中には、正直な方がお在でになりました、胸は凡て打割つて子供に語る。正直な先生がいらつしやいます。さうも見て居るさ、皆んなは生活の中で製作を發展さして來ない。製作を發展さしてやらうと思つて、花子の出で來るのを待つて居るが、さうも斯う出で來ない。其處で「こつちから課さう」存する「さ云ふ譯で、課すに就ては……お話を聽かして居る時はお話を選んでおきました。まあ子供の生活の中から發展させるにしても、何うしても……先生何かお話をして頂戴な」云ふ時に自然に出る時の先生はお話をもつて居る。子供と一緒に踊つて、子供の遊戲を導く時も、もつて居る遊戲をお示しになつた。其處でその論法で行けば、製作を課する場合にも「さあ、これから課しますよ」。

「今日課す製作は豚である」豚である……子供は目を丸くして居ります。文學ならばですね。突然、八犬傳が出て來ようが、司張月が出て來ようが、ハムレットが出て來ようが、オムレットが出て來ようが、そりやあいゝ様なものでありますけれども、何が故にいきなり、豚を出して來たか、これに就ては私は元來が生活の中にあるものだけに、わざとらしくければ、顯著になつて來るさ斯う思ふのであります。「先生何故、豚作るの？牛じやいけないの？ライオンじやいけないの？」さ斯うきかれた時に先生、大抵困つちまふと思ふ。「いけないけれども、先生講習で豚を習つて來たんだもの」云へば一層正直であります。中には動物を段々教へ……動物製作を段々教へて一年保育では動物が三十四、二年保育では更に六十四、さ云ふ様な、丁度今頃が豚になつて、今頃が兎になつて、斯う云ふ、まあ、譯だ、さ云へばそれは先生のさう云ふ順序ですから、「この次はいつれ」「この次は、この次は……」斯う云ふお話もあるかも知れない。或は先生が「何も私はたゞそんな機械的な事を云つて居るのではない」「この前は鶴を教へましたつけね。二本足で立つのを教へた。今度は四本足……順序が逆様ですけれども……四本足でキリン、長あい、細あい足のキリンを教へよう。それに行く段階として豚を作る。尤も、豚が出來なくつてキリンを作るなんて生意義だ。短い足で立てるものも出來ないで長い足で立てるものが出來るも

んか」云ふ譯合ひであります。まあ、それで済んでるんです。

所がさうも私は元來が生活の中にゐるさ、さ、ふるさこ所じやない。今も生活の中に則す傾向を多分にもつて居る製作ですから、この課し方も生活的に課して行つたら何うかと思ふ。課するさなるさ、題目的に課したり、目的に課したりする遊戲やお話の場合さ差別して課するのであるから、生活的課し方、その生活的課し方を私は、誘導さ名づけ、或は誘導案によつてやつて行くさ、昨年のお話さこれが結びついて來るのであります。それを作らせようさお考へになりましたならば、子供の生活が自らそれに行く様に段々誘導してきやあ宜しいのです。立派な都合を作つておいて、ふと思ひ出して「豚も矢ッ張入れませう」、なんて事になるさ、子供は利口な子供だつたら、「それは皮を剥いてぶら下げる奴ですか」或は「カツレットにした奴ですか」なんてころも、をかけた様な事を言ふ。併も田舎の景色をすつさ出しておく様な誘導案があれば、豚が出易いコンディツションにある。何うしても出なかつたら、田舎の景色で誘導して、もう一きりで豚になる。昨日一日我慢したが出て來なかつた時は、その時は子供の後で「ブウ〜」さ言つても構ひませぬ……（笑聲）

さう云ふ風に製作の問題を考へておきましてそしてその効果のねらひどころさ云ふ事は、所謂作るさ云ふか

一作る

作るさ云ふ氣持を二つにしまして、何で作つて行きますか、所謂材料から引出されて行きましたり、或はまあ何う云ふ譯か知りませぬが、何か子供にあるものが一つ出て來る。これは生活の中から出て來るのですから、作りたければ作つて宜しい。もう一つはこれからこれが出來て行く、さ云ふ誘導されて子供が作つて行くのでありまして、この誘導の關係はこゝによりましたら、その生活系統の中で段々作つて行くのでありますから、これをプロゼクトさ廣く名づけませう。及川先生の今回のあの「花子さんの……何でしたかな」「花子さんのお家」あの「花子さんのお家」さ云ふあれは立派なプロゼク

ト主義でありますが、あの「花子さんのお家」の、私是非一つ及川先生にお習ひにならなければと思ふ事は、あのプロゼクト主義を何處から持ち出して行くか、ミ云ふ點であります。一度あれを持ち出したら、後はぎんぐぐ進んで行きます。プロゼクトで行く。若し「花子さんのお家」ミ云ふものをたゞ出し拔けに「何が何でも「花子さんのお家」を作りませう」「花子さんのお家」を作らなければ承知しませぬ」これは中央ヨーロッパに起りましたナチスの騒動の様なので實に、ピストルでも、向けなければ、ミ云ふ強引なものになります。何うしたら「花子さんのお家」ミ云ふものを子供の生活の中にすつミ近づけてもつて来るか、ミ云ふ事に就ては、これは手技ミ云ふより保育の要領ミして大事な事であります。多分及川先生は手技の講師ミして御立ちになつたから、其處はお示しにならなかつたと思ひます。其處の所が及川講師の手技の先生じやなしに保育者ミしては實に色々な御苦心が實際にある所なのであります。これを御習ひになりたかつたならば、この幼稚園が開けて居ります時に實際を御覽下さいませれば「なる程」、「なーんだ」なんてぎつちか御解りになるかも知れませぬ。此處にその「花子さんのお家」ミ云ふものが先づ子供の生活の中に旨く課せられて行つて、其處の所は其處から手技の事を所謂、プロゼクトの、この題目ミしてお取扱ひになつて居る。其處から後はぎんぐこれが進んで行くので、先づまあ發展すれば「花子さんのお家」には豚が一匹兎が一匹、ミ決つたものでもありますまい。未だ色々あれが發展して來ても宜しいでせう。今頃は夏お習ひになつたのですけれども、お持ち歸りになりましたてやつて居る中に段々寒くなりましたら、又もそろぐ御心配になりますれば、或は火鉢の一つお入れにならなければならぬが、何しろ習つた時は火鉢がないが、なんて仰有つて、わざぐ及川先生の所へ手紙をお出しになりました「火鉢を入れましてもあの家は構ひませぬですか」なんて云つた事をおきぐになりましたも、それは私だつてぎんぐお返事する「お寒ければお入れなさい」それはまあ、ぎんぐ發展して行く。これは甚だ差し出がましい事ですありますが、遊戲の講習なんかの時はそれを丸呑みにして

行つて、其の儘出す。後が繋がらん、なんて云つた様なそれ程、忠實になさらないたつて、講師に對して失禮じやないと思ふ。まあ、云ふ一つの形をお習ひになる。文部省は決して昭和九年度に於て日本中の幼稚園で豚ミ兎を作らせる事を示して居るのではありませぬ。詰りあゝ云ふたゞプロジェクトミ云ふ事ミ同時にまあ手技の作り方の方の問題を大人の方々ミして御練習になる事は這入つて居りませう。私共、作るミ云ふ事の生活ですから、餘り同じ事を申しますけれども、難しい要求をなさるミ、作るのが嫌になりませう。「つくぐ」私作らない。幼稚園じや作らない。先生の居ない所で作る。家で作る。作る事は好きだけれども幼稚園では作らない。先生は作らせる人でなく、作つたものを、何のかんの、ミ作り度い氣持に迄邪魔をするミ云ふものだ」ミ云ふ子供がありましたら、私その先生を抓つてやり度い。實に間違つて居るんだと思ふ。と言ひますミ今度は逆に「何も言はぬから作りなさい。後も見ないから作れ」これも簡單です。餘りに放任です。子供の作りましたものをなんか擱へて充實指導しなければなるまいし、作れば見て頂き度いでせうし、見せれば先生は見せに來た子供の作り度い氣持を汲んで然るべき御挨拶もあるべき筈であります。さう云ふ關係で兎に角、何うしたら子供が多く作らなくなつちやふか作るミ云ふ事に生活の所謂、喧しく云へば、創作性を養ふか、工夫性を養ふかであります。創作です。創作ミ云ふ事は作るミ云ふ事の後に出來た枝や根であるかも知れませぬが、「皆さん工夫して御覽なさい。く」なんて云ふミあの可愛らしいでこ頭を振り立てゝ工夫するんだつたミすれば、實に難しいんです。實に難しい。「創作しろ」實に難しい。殊にプロジェクトになりますミ、先生の考への中に於けるプロジェクトミ云ふものは其處に必然的論理的關係がある。花子の家ですから斯う云ふ風になつて來る關係があるのですから、その關係を離れて、プロジェクトが生活を誘導して行くのでありますが、これは大事な點でありますから、御注意を願ひ度い。先生はそのプロジェクトの抽象的論理的關係で繋ぎをつけていらつしやいますが、子供も又その抽象的論理的關係で繋ぎをつけるんでは、製作ミ云ふ保育項目を利

用して居る所以でないのであります。ですからテーブルを作つて見たら椅子がなくちやなりません。けれども私達の考へでは「テーブルがあれば椅子がなくちやならぬ筈である」がある。あるミ、斯う云ふ抽象理路でつて來た。子供がテーブルだけ作つて椅子を作つて居ませぬミ、先生は此處がプロセクトを突込んで、「所でお考へになりました、何か變ではありませぬか」「テーブルありて○○なし」なんて云ふ事を云ふ。私が子供だつたらちやんと言ひますね。「椅子が欲しいけれども○○がないから買へないんだ」なんて言つちやいますか……

二 具體の方に

その抽象的な話で行くんじやない。これを作つておいて花子を何うしたらいい。子供が變だなんて思ひませう。花子を日本の子は平氣でテーブルの上に花子をおいたりしますが、西洋の子供だつたら驚くべき事です……花子を何うしようと思つて、仕方がないから抱いて居りませう。さう云ふ事をやつて居る中に「何だか椅子がなくちやならぬ」「椅子テーブル」ミ云ふ家具屋の目録じやないですが、椅子を作らなければならぬ、ミ云ふ理窟じやなくてたゞ具體的に、さう云ふ様な考へじやないんです。考へれば「テーブルの傍に是非なくてはならぬものはなに」なんて言へば「椅子」ミ云ふ事になります。けれども製作ミ云ふ實物、實際の具體を此處に用ひてやつて居ります時は、その多くは考へて見れば、理窟で繋つて居る事です、それが何處迄も具體に繋つて居る。その具體に繋つて居る所が私は製作によつて抽象化して行く心の働きを何處迄も具體の方に求めて行く。具體能力ミ云ひますか、具體性ミ云ひますか、その本來、子供のして居りました様な特色でありますものをこの製作に進めて行く事が出来ると思ふのであります。さうもお話なんかの場合には何ミ云つてもこれは一種の表現性のものでありまして——シンボリックなものでありまして——きいて居るだけのものではあります。或はこの遊戲の場合なんか、踊の場合も、さう云ふ所謂表現本位のものでありますが、表現で宜しいですが、お話も表現で、

先生が表現して聴くが、遊戯も表現、併しこれは退けつちまへばなくなつて了ふ。例へば、花が咲いた、ミ云ふ、斯う云ふのを保育項目ミして、その花に飛んで行く蝶々、ミ云ふのを子供が表現する。これをやめたらなくなつて了ふ。斯うやつて居る取扱ひ、表現して居りますが、それをやめちやつても、「君の舞の姿を幻に見る」、なんてそんな幽霊の残して行つた様な形じやない。その人がやめれば止まる。所が製作は何うでせうか。表現ミ云ふプロゼクトの後にものが残る、残るミ云ふ事は、作つた後に残るのは、當り前ミ言へば當り前ですが、残るのが結果ミして残るのであるミ云ふよりも、その作つてゐる間に……先づ自分が花になつた氣で踊るならば、さう云ふ事が出来ませう。春の野に咲く花よ、蝶の飛ぶ交ふいたづらつ子が追つ掛ける。逃げて、ミつて來た花を搦る。でさつさ、ミ一人で出來て來ます。花が蝶になつてもそれで済んで行くのであります。その間は感情で繋つて行つて済んで居るのです。此處のものを作つて居るのですから、作つて居る中に、あの豚なら豚を御作りになる時に、豚を作るのに耳が何處にあるか、大して考へやませぬです。そんな「先生、先刻から豚の耳が何處にあるか、考へて居る」そんな人は無いし、考へたら難くなるか知れませぬ。豚の耳は何處にあるか難しい、一寸難しい。けれどもそれをお拵へになるミ、「何だか變だ。後につけたら尻尾になつて了ふ」ミ云ふのでそれが色々具體的に出來て來る。實に製作は具體的性質を多分に持つて居るものであります。

同じ表現ですけれども、

(四) 觀察(事實、實物に對する興味)

觀察の問題は、くだくしき論を要しませぬ。一言にして盡す、事實、實物に對する興味ミ云ふ、保育項目の効果のねらひどころであります。その興味ミ云ふものが、更に何う云ふ風に發展して行くか、これは發展しませうが、それが、興味ミ云ふ性質をのけてしまつたら觀察じやなくなる。斯う云ふ點を言つて置けば宜しいでせう……ミ云ふのは、たゞ淺は

かに、赤い花が咲いて居るよ、黄色い花が咲いて居るよ、ミ云ふだけが興味じゃない。赤いのもあるね、黄色いのもあるね、違つて居るね、ミ云ふのは興味であります。或は、花瓣が、片方はこんなに澤山あるが片方は五つしかないよ、ミ云ふのは興味の一つであります。この中にこんなものがあるよ、此方にはないよ、それも興味でありませう。ですから興味ミ云ふものが段々進んで行けば精密なる智識の様なものになつて行くでせう。よく、何所迄觀察さしていゝんでせうか、ミ云ふ事をお尋ねになる。さうして、誰かそれをちゃんミ書いてくれたらいい。幼稚園の方は「書いて置いてくれ〜」ミ仰言る。斯う云ふ工合で、觀察に就ても、或は梅の花を何所まで觀察させる、ミ云ふ様な事を大變問題にしていらつしやるが、私は、何所迄行つたつていいと思ふ。別に、深さが限定されて居るものじゃない。然し問題は、その興味ミ云ふものが、全然自身の興味で進んで行つて、子供の興味の埒外に出て了つては、完全じゃない。或は、子供自身の興味に則して居る領域でありまして、それを餘り靜止して、一つのミのつたシステマティックな興味にして丁ふミ、もミは一つ／＼の興味であつたかも知れませぬが野原を……植物園をずうつミ歩きまして、子供が「あ〜」ミ言つてやつて居る。家に歸つて來て先生が「今日は植物園に行きまして、世の中には色々な花がある事がお分りでしたらう。これ、本日の觀察の最後の結論なり」ミ仰言る。けれども私は、要するに色々な花があつた、ミ云ふ時に「要するに色々な花、ありやしないよ。黄色いのがあつたよ、赤いのがあつたよ、彼處にあつたよ」。ミ云ふ様な事を眼に浮べて言つて居る時が觀察で、今日は植物園に行つたこれまた廣き世の中なり。ミ云ふ様な事ばかりおし廣めたら……何所がいけないか、難しいか、ミ云ふのではなく、子供の興味から離れて行くその興味は、此方の場合に於きましては、具體、ミ云ふ事を言ひましたが、此方では物に則して……何所迄も、物に則してゐる興味であります。物に則してなくちや興味ぢやありませんぬ。

大人の場合に於て、興味ミ云ふのは、色々な種類がありませう。けれどもこゝでは、物に則したる興味であります。或

はこれは、則する、ミ云ふ言葉を言つた方が徹底するかも知れませぬ。まあ觀察の事はこの位で止めて置きます。

そこで、保育項目の實際ミ云ふ題目のもミに私の申しましたお話は、先づ終る事に致しますが、何うか一つ、甚だ失禮な事ではありますが、私の話を——何ミ言ひませうか——きゝ間違へない様にして頂き度いと思ひます。皆さんがお間違へになる筈もないし、お間違へになる程大した話をした譯ではないが、これは餘り失禮な事です、一つの話をします時には、……殊に斯う云ふ風な研究的な話をします時には、所謂、斯う云ふ方面を斯う云ふ眼で見ると云ふコンディツションのもミに話して居るのであります。保育、ミ云ふ事を、始終繰返してお呪ひの様に唱へて居るのではない。色々な人が、保育には色々な苦勞をなさいますが、何の方面から何う云ふ趣旨で、その問題を見て居るか、ミ云ふ事を、自分でもはつきりしない言ひ方をして居りますミ、自分でもごちやくになるし、他人もごちやくになります。そこで私は、今回は保育項目ミ云ふ問題を抜き出しまして、幼稚園保育論全體を申上げたものではありませぬ。保育法の事を申上げたのではありませぬ。保育方法の全體に就ては、昨年申上げました。今回はそこには觸れて居りませぬ。保育項目、ミ云ふものを抜き出して、而も保育項目の……勿論保育項目は、目的を持つて大人が選んで居るものでありますが、其方は申す迄もない。忘れたんではない。申さぬだけである。

今回申したのは、保育項目を、子供の生活の方に則しての、その事を申しました。これは昨年、保育方法を子供の生活の方に則して考へましたから、それらの中へ、保育項目を同じ見地に置いて見て考へたのであります。その意味で申上げました問題ミして、御諒解を得て置き度いと思ふのであります。

(文責在編輯部)

第拾貳回大分縣保育會總會

並ニ創立二十周年記念式

一、期日 昭和九年六月十六日、十七日

二、會場 大分市淨土寺内私立明照幼稚園

三、開會式

開會辭 主催園長挨拶 會務會計報告 協議

四、創立二十周年記念式

舉式辭、國歌合唱、勅語奉讀、表彰、會長告辭、來賓祝辭、受賞者答辭、閉式辭、祝宴

五、記念講演會

會場 大分縣教育會館

講師 大阪帝大講師

醫學博士 竹 林 一先生

講題 將來の幼兒教育に對する要求二、三に就て

六、保育關係者追弔會

淨土寺本堂に於て逝きし故鹿野會長外三〇名の靈位を安置し頗る莊嚴も慇懃にして住職結城文雄師導師の下讀經

あり堀會長は悲痛なる弔辭を朗讀す讀經中遺族已下順次燒香をなし故人を追慕して感涙に咽び嚴肅なる法要を勤修せり。

七、參觀ミ報告

私立明照幼稚園に去る大正十五年の創立にして現在園兒一二四名を收容す幼兒のお詣り及快味深き遊戲を參觀し又臼杵園北山保姆は阪神方面の視察報告をなす。

八、問題

A、協議題 五

1、大分縣保育會創立二十周年に際し本會の進展を圖るに最も適切なる方法如何 (成蹊園提出)

2、幼稚園に於ては直觀教授の基礎たるべき觀察は如なる程度に取扱ふべきか (三隈園提出)

B、談話題 一〇

1、夏期休業中に於ける園兒との連絡方法に付き承りた

し

(明照園提出)

2、鮮人幼児の保育に就て御經驗承りたし

(成蹊園提出)

3、各園に於ける特殊幼児の種類と其取扱方承りたし

(大分園提出)

九、表 彰

(一)表 彰

幼稚園經營十ヶ年竝に研究の功績

私立鶴崎幼稚園保母 岩 鶴 慶 子

勤續十一ヶ年 中津南部幼稚園保母 末 廣 きの

(2)感謝狀

元杵築幼稚園長 故河合精一郎

元成蹊幼稚園長 故難波十洲

元 會 長 横尾惣三郎

元 副 會 長 小原恵三

元別府南幼稚園長 高田 龜 市

元竹田幼稚園長 深田 徳 三

元中津北部幼稚園長 恒住 又 二

元杵築幼稚園長 岡 島 保 男

一〇、沿革と現況

創立二十周年を迎へたる大分縣保育會は大正三年六月大典記念として故成蹊幼稚園長難波十洲氏の提唱の下同園に於て大分縣下幼稚園打合會を開會せるに始る一度此計畫發表するや縣當局も頗る懇切に指導せられ響の之に應ずるが如く多數の賛同を得縣下公立一三園中園長保母二八名の出席來賓三二名の列席を見るの盛會となれり引續き續行の申合をなし大分、杵築、別府、中津の各園順次開催し保育上の研究打合をなし遂に大正九年一月大分縣保育會と組織を改編し翌十年五月第三回全國幼稚園關係者大會を開催し全國保育界に於ける一つの強大なる存在として認めらるゝに至れり。

現在縣下の幼稚園數は三二(公立一五、私立一七)にして保母八六園兒(男)一、三三八、(女)一、二九二、修了兒(男)一六、六二九、(女)一四、八七六、保育會員一三〇名を數ふるに至れり(但、昭和九年度現在)。

高田町長 伊 藤 謙 作
大 分 市 南 フ ク

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 吉岡 郷甫
主幹 東京女子高等師範學校教授 附屬幼稚園主事 倉橋 惣三

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

- 會ノ開催
- 一、雜誌發行(毎月一回)
- 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
- 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
- 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
- 會長 一名 會務ヲ總理ス
- 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
- 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
- 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ケ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定規文注

- 一、本誌(御注文の方は凡て前金(郵送料共)で願ひます。)
- 一、御送金の場合はなるべく振替口座で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
- 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

製複許不 載轉禁

發行所

東京市小石川區大塚町三十五
東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
日本幼稚園協會
振替口座東京一七二六六番

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)
昭和九年九月十五日印刷納本
昭和九年九月十五日發行
幼兒の教育 第三十四卷 第八・九號

價定

一ヶ月分	金參拾五錢
半ヶ年分	金貳圓拾錢
一ヶ年分	金四圓拾錢
拾冊送金	金四圓拾錢
拾冊送金	金四圓拾錢

告廣

特等面一頁二等面一頁
金參拾圓金貳拾圓
一等面一頁以下
金貳拾圓金壹拾圓
神田區駿河臺三丁目田
廣告社に御申込下さい

忽五版

東京女高師教授
文檢教育部委員

文學博士 下田次郎先生著

四六版三八〇頁 定價二圓五十錢
裝幀優美 函入 送料十六錢

魂の教育

◇下田博士の自叙傳 五歳の時實父に死別し貧苦の間に母性愛に富める實母に薰陶され、爾來今日に至る赤裸々記。
◇信念を説く教師論 「教育の成果は教へる方法の問題でなく」に教へる其人の問題である」との信念より懇説指示さる。
◇新女子教育諸問題 下田博士は現代に於ける女子教育の權威にて最近の女子教育の重要問題を一々懇説し解決さる。
◇魂の教育の高潮 日本精神は教育者に宿る教育精神となり大和魂は教育化と教員魂となり本書は之が涵養を説く。
◇教育文藝の三優篇 名文家として又人間味豊かな教育家として定評の博士の頭腦を通と師にかけた教育文藝三篇を紹介す。

二十版
東京女高師教授 文學博士 下田次郎先生著
定價金二圓五十錢
送料金十六錢

人間味の教育

◇著者自身人間味豊かな定評の士にて其の力作
◇多年體驗の人間教育の記録集にて稀有の神品
本書は著者の趣味性に由る教育觀の進んであり
著者の人間味の表現である收むる所二十有餘の
名篇。言々句句々肝銘の金文字。この意味に於て
學校教師のみならず廣く子女を教育する人々の
必須良書。

五版
東京女高師教授 堀七藏先生著
四六版三百余頁 定價二圓五十錢
參考寫真數枚入 送料金十六錢

我が兒の科學教育

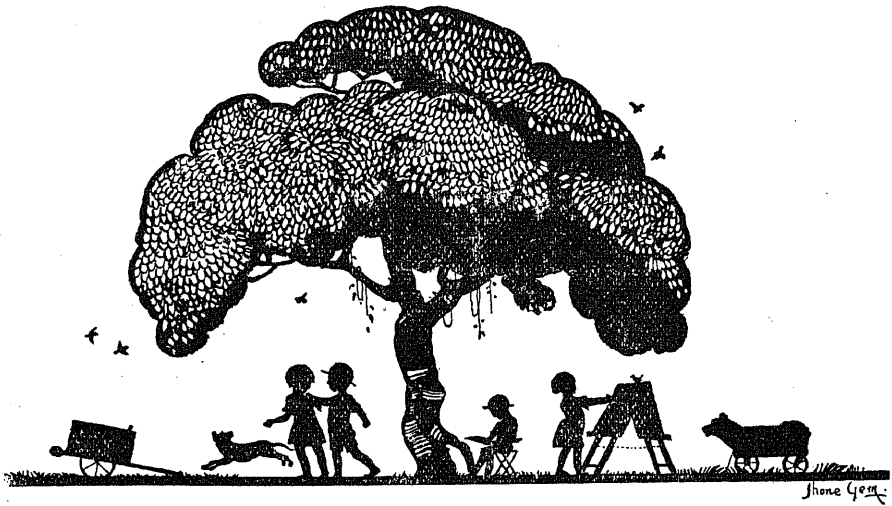
一・新科學教育の根本問題 科學教育高潮時代
に忘れられたる然も根本的重要なる問題の解決
は本書の天使命である。
二・新家庭教育者の中心問題 家庭教育は衰へ
問題等に止らぬ。本書は之が指針書である。

東洋圖書株式會社

東京市神田區保町一丁目六十七番地
振替 東京 一〇三 七番

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
（毎月一回）十月十五日發行

昭和九年九月十二日印刷納本
昭和九年九月十五日發行



新涼の今期に

園外保育用品の御用意

弊社工場の特に入念に吟味製作せる堅牢にして體裁よき安
全の品——

携帶黑板——幼兒自身が適宜の所へ持ち運び自由な折疊式黑板。

一組 金十五圓

折疊椅子——鋼鐵骨に丈夫な布を張つた折たゞみ自在の椅子。

一脚 金一圓二十錢

折疊卓子——堅牢な蝶番で折疊み自由、長さ四尺幅二尺高さ一尺

一組 金七圓

トロツコ——車、心棒とも鐵製堅牢、子供に應用の途廣し。

一臺 金三圓

お伽車——折疊式構造の輕便な車、面白い動物の形をした愉快

一臺 金二十五圓

の、應用多端。

押車——幼兒が自由に押し歩く運搬車、これも様々に應用さ

一臺 金三圓五十錢

其他幼稚園・幼兒用各種運動具、最新の製作に係る新案新樣
式の運動具多種。

館ルベールフ 社會式株

番七二八三(33)段九話電・路小川今・田神・京東 店 本
番八三九一町本話電・五町後備・區東・阪大 所張出

臨時定價金七拾錢